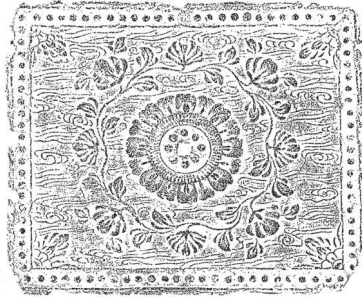


九州歴史資料館年報

平成27年度



九州歴史資料館

はじめに

九州歴史資料館は、古くから中国大陸、朝鮮半島など対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにすべく、大宰府史跡及び関連遺跡の発掘調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を一般に展示・公開してまいりました。

平成 23 年度からは組織規則の改正に伴い、福岡県教育庁総務部文化財保護課で実施してきた埋蔵文化財の発掘調査業務を当館に移管し、発掘から報告書作成までの一連の作業を集中して行うことで、より効率的な業務の遂行を図っています。

この年報は、当館が平成 27 年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の第 9 次 5 ヶ年計画の 4 年次にあたり、政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区についての調査を行いました。また、東九州自動車道関係や県営ダム等の建設に関わる発掘調査・報告書作成も行いました。

展示については、常設展示のほか特別展示「四王寺山の 1350 年ー大野城から祈りの山へー」及び企画展示やパネル展示、特集展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名誉館長講座」・「九歴ゼミ」・「夜のギャラリートーク」や各講演会等の開催、その他学習支援、出前講座、イベント及びボランティアを中心とした体験活動を展開しました。これらの事業により歴史資料館としての活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、より一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに邁進いたします。今後とも皆様方の御支援をお願いしますとともに、当館を御利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

平成 28 年 8 月

九州歴史資料館長

杉 光 誠

目 次

1 事業概要	1
(1) 調査・研究	1
(2) 展 示	20
(3) 資料利用	32
(4) 学習支援・博学連携	39
(5) ボランティア	45
(6) 普及・活用事業	49
(7) 広報活動	61
(8) 実習・研修	63
(9) 刊 行 物	64
(10) 交流事業	65
(11) 協議会等	66
2 九州歴史資料館概要	67
(1) 沿 革	67
(2) 施設概要	68
(3) 予 算	69
(4) 組織・職員	70
(5) 関係法規	71
3 諸 統 計.....	77
(1) 入館者状況	77
(2) 収蔵資料・図書	77
4 日 誌 抄	78

1 事業概要

(1) 調査・研究

【学芸調査室学芸研究班】

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としているのは、仏像や仏画などのいわゆる仏教美術が主であり、時代としても古代から中世にかけてが主となっているが、その他の絵画や工芸品にまで目配りをするように、そして時代としても近世以降も対象とするように心掛けている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにすべく努めている。

○主要寺社の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。そこで、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げ、そこに伝えられている造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を総体として捉え、さらにはそれを通して地域の特色を把握できればと考えて、主要寺社の調査を行ってきた。今後は加えて、ある特定の寺社のみならず、特定の地域の造形遺品について集中的に調査を行い、その地域の特色を浮かび上がらせる試みなども、行っていくことにしている。

27年度は、九州を代表する霊山の一つである英彦山の、国史跡指定へ向けた調査の一環として24年度後半から継続してきた、山内の美術工芸資料調査について、最終年度として補足的な調査を行った。もとより今回英彦山においては、悉皆調査を行ってきたものではなく、要所と要を押さえるという調査を行ってきたものであり、概ねそれは26年度までに終えていたものであったが、その遺漏を補い、そして調査の成果に基づいて報告書の原稿を作成した。当館の美術工芸担当は、彫刻について執筆したものである。報告書は27年度末に添田町より刊行されている。

○寺社及び個人所蔵作品の調査研究等

地誌をはじめとする各種史資料、各市町村の文化財担当や、研究者等から得られた情報等を元にした調査も行っている。以下27年度に行った調査のうちいくつかを報告する。英彦山に関わる銘文をもつとの情報提供があったため、八女市上陽町の平の観音堂の、聖観音立像の調査を行った。本像は造像銘と修理銘をもっていて、慶長13年(1608)に平村主安芸守子孫十八人が造像したこと、実際の造像にあたったのは「彦山西谷越後」であることが知られる。英彦山における造像活動について、また、英彦山信仰の広がりについて考える上で貴重な作例である。

大宰府政庁の背後に構え、大野城跡が全山に展開していることで知られる四王寺山は、宝亀5年(774)に四王寺が開かれて以来、聖地としても隆盛をはじめた。そして、やがて聖地としての側面が主となったからこそ、当初は大野山、大城の山などと称さ



平の観音堂 聖観音立像

れていたものが、四王寺山と称されるようになったものだと考えられている。この四王寺山中の最高所、四王寺の故地と目される、糟屋郡宇美町の毘沙門堂付近から近年表採された銅製独鈷杵を、宇美町教育委員会と共同で調査をした。その結果この独鈷杵は、造形的に見て平安時代後期、11世紀末から12世紀初頭の制作であると考えられ、蛍光X線分析装置による組成の分析においても、そのような判断と矛盾しない結果が得られている。福岡県域ないしは九州においては、平安時代に遡る密教法具は希有であり、貴重な古例が出現したことになる。毘沙門堂付近についてはかねてより、平安時代後期における経塚造営の国内有数の集中地として知られており、また四王寺は、京都府の東寺との強い結びつきをもちながら、真言宗と天台宗双方の僧がここに拠っていたことも知られている。平安時代後期の毘沙門堂周辺に、密教法具を必要とする場と人々が存在していたことは事実である。今回見いだされた独鈷杵は、四王寺山の調査研究の新たな側面を斬り拓くことに資する貴重な存在だと言える。詳しくは『研究論集』41に報告しているので、こちらを参照されたい。



四王寺山 独鈷杵（宇美町所蔵）

長崎県諫早市の多良岳に構える金泉寺においては、諫早市教育委員会の依頼により、秘仏本尊の不動三尊像と、千手観音立像の調査を行い、調書の作成と、不動三尊像については詳細な写真撮影を行った。不動三尊像のうちの不動明王立像と制多迦童子立像は、平安時代後期の作である。忿怒の相をもちながら、円満でおおらかな様子をしているのは、この時代一般の特徴だと言えるが、同時にこの2像は、通常の仏像とは異質な様子も見せている。彫刻は総じて神像を思わせる簡潔さがあり、そして両像は共



金泉寺 不動三尊像

に、部分的に意図的に鑿痕をのこしたいいわゆる鈍彫り像の作例であって、不動明王立像などはウロのある材を用いるなど、霊木信仰や神祇信仰との関係が窺える古像である。千手観音立像は、諫早茂晴の母であるお糸夫人が、長崎の中国人商人に依頼して、中国から請来した渡来仏で、元禄16年（1703）に安置された。明時代の初めから清時代の終わり頃の作だと考えられる。これら多良岳や九州について考える上で重要な意義をもつ像については、28年8月の第6回九州山岳霊場遺跡研究会とその資料集にて報告する予定である。

神祇信仰の特性にも鑑みて、神殿安置の神像について当館から積極的に働きかけて調査を行ったことはないが、仏教や仏像と並んで日本の信仰と造形について考える上で重要な存在である、神祇信仰像を

顕彰しようとする近年の思潮を受けて、当館においても、神像調査の機会が増えてきている。27年度の主要な調査としては、銘文をもつ基準作の調査と再調査が挙げられる。朝倉市牛木天満宮の神像については、背面の墨書銘判読を中心とする調査依頼を受けてこれを行った。虫損しているものの、銘文からは、元禄10年代の丑年に造像されたことを知ることができ、それにより、まさに元禄10年（1697）に造像されたことが押さえられる。この時代の貴重な基準作である。そしてみやこ町犀川の生立八幡宮の、県指定文化財となっている僧形八幡神像については、みやこ町歴史民俗博物館より、一時保管の依頼を受けた機会に、胎内銘の再判読を主とする調査を試みた。当像は、胸前の材が二層よりなっており、その矧面に、応永元年（1394）の造像を伝える陰刻銘が刻まれていることが、古写真や記録より知られる。ただこの銘文については、資料として活用可能な適当な写真がなく、また像本体の構造についても、これまでは確定しがたかった。しかしこの度、X線CTスキャナを用いて調査を行うことで、成果を挙げることができた。今後はその成果を活かして、銘文の画像を作成し構造を押さえ、あらためてこの、県内を代表する神像の基準作である僧形八幡神像について、位置づけを深化させていきたい。またこれらの成果も反映させながら、神像を集中的にとりあげる九歴ゼミを28年秋に計画している。

○九州に偏在する中国系彫刻の調査研究

26年度より、九州に偏在している明代以前の彫刻についての調査を始めている。奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも進んでいなかった中国系彫刻の調査を前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、このような調査に着手したものである。調査は木彫像にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国製石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、また中国製石造物である宋風獅子までを対象としている。27年度については、とくに山口県長門市の三隅熊野権現社の宋風獅子の調査が、今後宋風獅子の絶対年代を考える上で重要であった。相対年代的には掉尾に位置すると考えてきた本作例の精査を行った際、本作例が、応永年間に温州の慶載が奉納したという伝承を伴っているとの情報を得た。出典等は未確認であるが、今後検討していきたい。中間報告は、当館と久山町が主催する28年7月の国際シンポジウムでも報告する予定である。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはない判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々について受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するということを、理想の形として心掛けている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替え等に伴う一時保管も行うことがある。そのような県指定文化財に関することとしては、久留米市大善寺町の朝日寺の、県指定文化財である神子栄尊像を含んだ10軀と、大刀洗町の西光寺の、県指定文化財である阿弥陀三尊像について、一時保管を行った。同時に保管期間中にこれらの作例については、撮影と調査も行っている。



三隅熊野権現社 宋風獅子

◎考古基準資料調査

○県内山岳霊場遺跡の調査

27年度は脊振山系の山岳霊場遺跡のうち、未調査であった部分の稜線上、および二丈岳の現地調査を行った。二丈岳では、未盗掘の陶製経筒を発見・発掘調査を行うことができ、大きな成果を収めることができた。これらの成果については、展覧会・ミニシンポジウム「国境の山岳信仰―脊振山系の聖地・霊場を巡る―」において公表するとともに、詳細な調査成果については、28年度に調査報告書を刊行する予定である。



二丈岳の経塚検出状況

○重要文化財福岡県栗田遺跡祭祀遺構出土土器保存修理事業

当館では、文化庁が所蔵する重要文化財栗田遺跡祭祀遺構出土土器を長期保管しているが、発掘調査報告書の整理・報告時に簡易的な復元作業がなされただけであったために、長期の経年変化により、修復が必要である状況にあった。そのため、文化庁では、23年度より5か年の計画により、当該資料の保存修理作業を行うこととなった。

文化庁は、事業を行うにあたり、協力者会議（委員：西谷正、武末純一、重藤輝行）を発足して、23年度に会議を行い、その後保存修理業者の公募・選定を行った。その結果、（財）元興寺文化財研究所に修理を委託することとなった。

事業の5か年目に当たる27年度は15号甕棺（下）・24号甕棺（上）・26号甕棺（下）・28号甕棺（上）・37号甕棺（東）の計5点が修理の対象となり、当該資料は元興寺文化財研究所にて保存修理が行われた。保存修理の工程は、①保存修理前の調査・記録、②解体、③クリーニング・材質強化（アクリル樹脂含浸）、④接合・組立、⑤復元充填（エポキシ樹脂による）、⑥仕上げ・補彩、⑦保存修理後の調査・記録、の順に進められ、終了後、当館に搬入、収蔵された。当事業については、27年度をもって終了した。28年度には展示公開を行う予定である。

○福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査

福岡県には、中世から近世初頭、特に戦国時代には大名や在地領主によって、各地に1,000か所を超える多くの城館が築かれた。これらの城館については各種開発事業の対象となる事例も増加しており、事業の必要性からやむを得ず記録保存の対象となったりする事例が増加している。

こうした現状に対し、県教育庁総務部文化財保護課が、文化庁の国庫補助事業において24年度より県内に所在するすべての中近世城館遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を約5か年かけて行うこととなった。当該事業の調査担当として、学芸研究班学芸員2名が調査にあっている。26～27年度にかけては豊前地域を対象として、既存資料の把握・整理さらに追加調査を行い、27年度末に、豊前地域を対象とした『福岡県の中近世城館遺跡Ⅲ―豊前地域編―』（福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書3）を県教育委員会より刊行した。28年度も継続して調査を進める予定である。

○考古資料の受け入れ

個人の方から縄文時代晩期壺1点・弥生時代中期壺1点・新羅鬼面軒丸瓦当1点ほか計8点の考古資料について、当館への寄贈の申し出があったため、2月18日に受け入れを行い、当館の考古資料となっ

た。また、筑前鑄造技術研究会（代表：新郷英弘）から鑄造復元実験関連資料寄贈の申し出があったため、3月22日に受け入れを行い、当館の所蔵資料となった。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

出土文字資料の調査研究としては、大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土の木簡のうち、『大宰府政庁周辺官衙跡V—不丁地区 遺物編2—』に漏れたものや実測図が未掲載のものについて、追加調査を実施し、『同VIII—大楠地区 遺物編—』に追補として報告した。大宰府史跡出土の木簡については、今後も釈文の再検討を継続的に行い、木簡の保存処理や正報告の発刊に備える予定である。



木簡調査風景

また、27年度から、文化財調査室保存管理班と連携しつつ、木簡による大宰府の西海道統治の実態に関する研究を進めている。これまで木簡調査に使用していた赤外線スキャナーと赤外線撮影機能付きデジタルカメラに加え、新たに赤外線カメラを導入し、大宰府に関連が深い木簡を所蔵する機関に赴いての木簡調査も実施した。27年度は長門鑄銭所跡、長登銅山跡、周防国府跡出土の木簡を調査した。

ほかに粕屋町の阿恵遺跡出土の木簡状木製品をはじめとして、県内市町村の出土文字資料の調査依頼があり、赤外線カメラや赤外線スキャナーを用いて文字の解読を行った。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。27年度は、このうち伊東尾四郎文書にみえる九州地方行政協議会（昭和18～19年に開催）の関連史料について調査し、『研究論集』41で紹介した。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。

○県内所在資料の調査研究

24年度より、添田町による英彦山国史跡指定に向けた文化財総合調査の一環として、英彦山ゆかりの古文書調査を開始している。古来、修験道の霊場・信仰の聖地として多くの崇敬を集め、宗教・地域権力として多彩な活動を繰り広げた英彦山は、時の政権や朝廷、九州の諸勢力とも密接な関係を持ち、その信仰圏は九州の全域に広がっていた。この九州を代表する霊山・英彦山について、その活動の中核である神社や旧座主家に残る古文書資料から調査研究し、且つその保存・活用の基盤を整えるものである。27年度は、文書目録の内容の確認作業を行い、英彦山の旧座主家文書（高千穂（上）文書）および英彦山神社文書の調査成果について、27年度発刊の英彦山の総合調査報告書で報告した。

同じく24年度より、福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査として、関係文献資料調査を実施している。こちらは既刊行史料の集成が主な作業内容になるが、県下全域における中世～近世初頭の史料を対象と

して、網羅的に実施するものであり、大きな意義を持つ調査である。27年度は主として福岡県内の豊前地域（企救郡・田川郡・京都郡・仲津郡・築城郡・上毛郡）を対象に行い、その成果は福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査報告書3『福岡県の中近世城館跡Ⅲ－豊前地域編一』に一覧として収載している。同時並行して筑後地域の関係文献資料調査にも着手し、目録を作成中である。

また、小倉藩主小笠原家に関する古文書群である、県指定有形文化財の小笠原文庫（県立育徳館高等学校同窓会「錦陵同窓会」所蔵）について調査を行い、その成果を企画展「小笠原文庫から見た幕末維新～武家礼法から近代教育まで～」にて紹介した。

【学芸調査室調査研究班】

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。27年度は、大宰府史跡の調査として発掘調査5件を行い、正式報告書2冊を刊行した。また、大宰府史跡関連遺跡の調査として行橋市教育委員会による福原長者原遺跡の確認調査・報告書作成の支援を行った。

◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

27年度は、大宰府史跡発掘調査第9次5ヶ年計画の4年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を2か所で実施したほか、住宅建設に先立つ確認調査を3か所で実施した。

調査回数	調査地区略称	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第225次調査	6AYT-A-J	640.50	20150422 ～ 20160327	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第226次調査		11.50	20150619	観世音寺子院跡
大宰府史跡第227次調査		11.50	20150619	観世音寺子院跡
大宰府史跡第228次調査	6AYT-A-J	268.00	20151009 ～ 20160327	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第229次調査		2.64	20151208	観世音寺子院跡

報告書は、26年度より開始した大宰府政庁周辺官衙跡大楠地区の調査成果報告の2冊目として、『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅷ－大楠地区遺物編一』を刊行した。また、隔年で刊行している大宰府史跡の調査報告として『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅸ－平成26・27年度一』を刊行し、26・27年度に実施した大宰府史跡の確認調査成果、増長天礎石群地区の再整備に先立つ礎石建物群の再発掘・確認調査成果概要を掲載したほか、大野城跡で9番目に見つかった城門跡であるクロガネ岩城門跡の調査成果を報告した。

○大宰府史跡第225次調査（蔵司地区官衙跡）

調査地は、大宰府政庁跡の西側にのびる蔵司丘陵の南半部平坦地に位置する。蔵司地区は、調査対象面積が3万㎡に及ぶため、21～25年度に全域を対象として確認調査を行い、その成果をもとに25年度に「大宰府政庁周辺官衙跡・蔵司地区の重点調査の方針」を策定した。これにもとづき、26年度より5ヶ年計画で重点調査を開始している。26年度には大型礎石建物SB5000の東～中央部の調査を実施したが、今年度はSB5000東半部の未掘箇所と北西側から南西側にかけての範囲を調査した。



大宰府史跡第225次調査区全景

調査の結果、調査区全体にわたり近～現代の造成土

の直下で遺構面となったが、全体的に削平を受けている状況であることが判明した。それでもSB5000の礎石据付穴や雨落溝等の関連遺構を確認するとともに、その北側下層より新たに2棟の掘立柱建物を確認した。下層掘立柱建物群は昨年度検出した1棟をあわせ計3棟となった。また、北側や西側では掘立柱建物群を建設する段階に盛土による平坦面の造成を行っていることが確認できた。



大宰府史跡第225次調査 掘立柱建物2

まずSB5000であるが、現存する礎石と、見つかった礎石据付穴の配置から、東西9間、南北2間の身舎で、南北に廂が付く二面廂建物であることが確定した。建物部分はやや削平されていたが、高さ20cm程度の低い基壇（外装を伴わない地山削り出し・盛土基壇）が伴っていたと推定される。建物の周囲には雨落溝が巡り、1回の掘り直しが確認できた。新しい雨落溝の最上層にはSB5000の廃絶後の瓦溜りとみられる多量の瓦の集積があった。出土遺物などからみた建物の上限は8世紀前半代、下限は9世紀まで下る可能性があるものと推定される。

SB5000の北東側下層で検出された掘立柱建物2は、東西9間、南北2間の総柱建物の可能性がある。外側の柱穴は深さ1.2mほどであるが、内側は深さ5～10cm程度と浅く、束柱構造の建物とみられる。同じくSB5000の北西側下層で検出された掘立柱建物3は、東西5間以上、南北3間の側柱建物で、東側に廂を持つ。柱穴は深さ1.3～1.5mほどで、建物の廃絶に伴い柱を抜き取っている。いずれの建物も掘方に重複が見られ、建て替えられた可能性がある。

昨年度に検出した掘立柱建物1をあわせた計3棟の下層建物群は、SB5000に先行することは確実で、方位がそろっており、少なくとも一定の期間同時に並存した可能性が高い。その所属時期は建物2の柱穴掘方から出土した須恵器片から7世紀末ごろまで遡ると推定される。

以上のように、225次調査ではSB5000の規模・構造の確定と、下層建物群の確認を行うことができた。とくに建物群の変遷の一端が明らかになったことは重要で、蔵司地区官衙の成立だけではなく、大宰府の成立を解明する上で貴重な成果といえる。今後も引き続き、下層建物群の全容解明に向けた調査を行っていく必要がある。

なお、調査成果を受けて27年11月1日（日）に一般県民等を対象として現地説明会を開催し、約150名の参加があった。また地元市民向けの現地説明会を28年1月22日（金）に開催し、約50名の参加があった。

○大宰府史跡第226次調査（観世音寺子院跡）

観世音寺の子院推定範囲に含まれる東観世団地は、史跡指定以前に宅地化が進んでいたため、遺跡の実態については不明なところが多く、機会があるごとに確認調査を実施して情報の収集を続けている地域である。今回は、個人住宅建設の申請が提出されたことをうけて、地下遺構の有無及び遺構面までの深度などを確認するため、大宰府市教育委員会職員の立会のもと、調査を実施した。



大宰府史跡第226次調査 2トレンチ

調査地周辺は北から南に向かって傾斜する地形である

ことから、南北方向に2か所のトレンチを設け、重機による掘削を行った。南側の1トレンチは長さ6.0m・幅1.0m・深さ0.2m、北西側の2トレンチは長さ5.0m・幅1.0m（北半は1.2m）・深さ0.85mである。

調査の結果、1トレンチ南側では地表下0.85m、2トレンチでは地表下0.2mで風化花崗岩もしくは花崗岩風化土となり、宅地造成の際に岩盤まで削平を受けていることが判明した。遺構・遺物は確認できなかったが、調査地南端部では造成前の丘陵の傾斜に沿った落ち込みがみられ、南側の削平はそれほど大きくないと考えられ、深さのある遺構であれば遺存している可能性もある。今後の調査が期待される。なお、調査後は速やかに埋戻し、旧状に復した。

○大宰府史跡第227次調査（観世音寺子院跡）

調査地の北側には推定金光寺跡があり、大宰府史跡第57・67・97・107次調査などが実施され、建物群や石塔群が確認されている。遺跡は周囲にまで広がっていると推定されるが、調査地のある東観世団地は史跡指定以前に宅地化が進んでいたため、遺跡の情報がほとんどないのが現状であった。今回は、個人住宅建設の申請が提出されたことをうけて、地下遺構の有無及び遺構面までの深度などを確認するため、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、調査を実施した。



大宰府史跡第227次調査 2トレンチ

調査地周辺は北から南に向かって傾斜する地形であることから、南北方向に2か所のトレンチを設け、重機による掘削を行った。中央南側の1トレンチは長さ6.0m・幅1.0m・深さ1.3m、北西部の2トレンチは長さ5.5m・幅1.0m・深さ0.7mである。

調査の結果、1・2トレンチともに宅地造成土の直下で風化花崗岩となり、遺構・遺物は確認できなかった。とくに調査地南半は北側よりも一段低く削られている状況であった。なお、推定金光寺跡の調査では建物群とともに空閑地の存在も確認されており、今回の調査地もそうした空閑地であった可能性も否定できず、今後も慎重な確認調査が必要であろう。なお、調査後は速やかに埋戻し、旧状に復した。

○大宰府史跡第228次調査（蔵司地区官衙跡）

前述のとおり、蔵司地区については26年度より重点調査を開始している。第228次調査は蔵司地区丘陵部の南西部、大型礎石建物SB5000の南側に広がる平坦地で、E地区と呼称している。23年度に行った確認調査（第212次調査）において、E地区南西部で区画状遺構を、また26年度より開始した重点調査（第225次調査）において掘立柱建物跡1の北端部を検出している。



大宰府史跡第228次調査

今年度はSB5000の中央南側で検出したSB5000に先行する掘立柱建物跡1の南西部について調査を行った。その結果、本建物は南北4間、東西2間以上の規模をもち、側柱建物と推定されるに至った。柱間寸法は南北が約3.0m、東西が2.7mである。また北西隅の柱穴は1.2m四方の方形の掘方で、柱痕跡は径0.5mを測る。SB5000との直接的な重複関係はないが、SB5000築造に伴う造成時に削平され

ている可能性が高く、SB5000 に先行する建物と推定される。

本建物は蔵司地区南西部の平坦面の中央に位置し、下層建物群の中核的存在の可能性が高い。28 年度は引き続き、本建物の規模と構造、第 212 次調査で確認された区画状遺構の構造と範囲、さらに江戸時代の絵図に礎石が描かれた範囲の遺構の確認等の調査を行う予定である。

○大宰府史跡第 229 次調査（観世音寺子院跡）

調査地は蔵司地区周辺官衙の北側後背地にあたる。周辺は「花屋敷」や「善正寺」などの字が残り、観世音寺子院跡の一角を占めていたと推定されているが、これまでほとんど調査が行われておらず、遺跡の解明が遅れている地域である。今回、農具倉庫建設及び擁壁改修の申請が提出されたことをうけて、地下遺構の有無及び遺構面までの深度などを確認するため、太宰府市教育委員会職員の立会のもと、調査を実施した。



大宰府史跡第 229 次調査

工事では調査地北側にある石垣をコンクリート擁壁に改修する予定であったが、石垣の裏側まで遺跡が残っている可能性や、既存の石垣の背後に古い時代の石積みが存在する可能性もあった。そこで、石垣を断ち割るように南北方向の調査区を設けて、重機による掘削を行った。調査区は長さ 2.4 m、幅 1.1 m で、深さは石垣天端から 1.3 m、石垣前面の平坦面から 0.6 m を測る。

調査の結果、石垣の背後にはコンクリートや煉瓦などを含む裏込め土があり、石垣は現代に築かれたことが判明した。さらに背後側についてはブロック塀の倒壊の恐れがあること、工事予定範囲の外になることから、それ以上の掘削は止めた。石垣前面の平坦地は地表下 30cm まで宅地造成時の盛土で、その直下は礫を多く含む淡褐色砂の堆積層となった。この砂層は調査地東側を流れる東谷口川に伴う河川堆積とみられ、20cm ほど掘り下げたが湧水が著しいため、途中で掘削を止めた。この堆積層の面では遺構や遺物は確認できなかった。

今回は谷地形の堆積層を確認したが、北側の大宰府史跡第 172 次調査でも東谷口川に関わる近世以降の護岸施設が見つかった。遺構や遺物の発見には至らなかったが、宅地造成前の旧地形の復元や遺跡の広がりや推定するための貴重な手掛かりが得られた。また、古代や中世の遺構面はさらに深い位置にあると推定され、今後も周辺の調査を積み重ねる必要があるだろう。

なお、調査後は速やかに埋戻し、旧状に復した。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに 5 ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

27 年度の指導委員会は、10 月 29 日（木）・30 日（金）の両日に開催した。27 年度は第 9 次 5 ヶ年計画の 4 年次にあたることから、26 年度の実績報告、27 年度事業の中間報告と協議を行い概ね了承を得た。また、福岡県教育委員会が行っている特別史跡大野城跡増長天地区の再整備計画案、太宰府市・

大野城市教育委員会が行なっている特別史跡水城跡の西・東門周辺地区の整備計画などについて報告した。

なお、委員名簿は以下のとおりである。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿 (平成 28 年 3 月 31 日現在)

	氏 名	所 属	専 門
委員長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学大学院教授	歴史学
委 員	八木 充	山口大学名誉教授	歴史学
	狩野 久	元岡山大学教授	歴史学
	坂上康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	松村恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	鈴木嘉吉	元奈良国立文化財研究所長	建築史学
	箱崎和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	杉本正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	渡辺定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	林 重徳	佐賀大学名誉教授	土木工学

◎福原長者原遺跡の調査支援

福原長者原遺跡は行橋市に所在し、東九州自動車道建設に伴う発掘調査によって大規模な古代官衙跡であることが判明した。これをうけて、行橋市教育委員会では官衙全体の範囲や構造を把握するための確認調査を実施しており、当館では大宰府関連遺跡調査の一環として 24 年度より調査支援を行ってきた。27 年度は主に調査報告書の作成支援を行った。

【文化財調査室文化財調査班】

文化財調査班の主たる業務は国の機関及び県事業に関わる発掘調査および報告書作成である。

27 年度の発掘調査は、祓川総合開発事業（伊良原ダム建設）2 件、河川関連事業 4 件、学校改築事業 1 件、道路事業 2 件の県事業に対応したほか、市町村支援として東九州自動車道建設にかかる豊前市鳥越湯福山遺跡、県立西田川高校校舎改築にかかる田川市上本町遺跡の発掘調査に職員を派遣した。このうち伊良原ダムは 29 年度に竣工が予定されており、18 年度より実施してきた発掘調査を 28 年度内に終了する見込みである。

九州縦貫自動車道小倉 JCT から東九州を縦断して福岡・大分・宮崎・鹿児島各県を結ぶ延長 436 km の高速道路である東九州自動車道関連事業については 13 年度に着手し、19 年度からは苅田北九州空港 I. C. 以南の発掘調査を実施してきたが、整理・報告書作成を含めて 27 年度をもってすべての作業を完了した。東九州自動車道は、福岡県内では 17 年度に苅田北九州空港 I. C. まで、25 年度には行橋 I. C. までが、そして 26 年度には椎田南 I. C. ～豊前 I. C. 間を除く路線で供用が開始され、28 年 4 月には全区間の供用に至った。新設区間は苅田北九州空港 I. C. ～豊津 I. C. 間 16.0 km、椎田南 I. C. ～県境 14.8 km で、

築城 I. C. と椎田 I. C. の改築、豊前 I. C. と上毛スマート I. C. が新設された。この事業については、椎田 I. C. 以北の工事は西日本高速道路株式会社九州支社福岡工事事務所が、椎田南 I. C. 以南は同中津工事事務所が事業主体である。

以下、27 年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、数値などは概数であるため詳細は本報告書に抛らりたい。

◎遺跡の発掘調査

○^{かみまち}上町遺跡第 2 次調査（柳川市）

上町遺跡は柳川城下町の北端に位置し、久留米柳川往還^{いでのはしごもん}の出橋御門に近接して位置する。

調査地点に接した県道は久留米柳川往還道を踏襲した道路で、昨年度の保加町遺跡の調査では、江戸時代の道路沿いに作られた町屋跡が検出され、火災痕跡の下で遺構が確認された。

上町遺跡では調査範囲を 1～5 地点に分けて調査し、4 時期にわたる遺構面を確認した。主な遺構は建物跡 2 棟以上、土坑 33 基、溝 16 条、ピットである。1 面目は 1780 年の外町大火のものとみられる火災痕跡の下部で土坑やピットを検出した。2 面目は 18 世紀代で遺構は比較的少ないが、五輪塔・宝篋印塔・石灯笼・石臼などの石材を礎石に利用した建物跡を検出した。3 面目は 17 世紀後半頃である。3 面目以下は柱材や木杭に伴う多くのピットを検出したほか、出橋の石碑に向かう道路に伴う側溝が確認された。4 面目は 17 世紀代である。この面では最終的な地山と思われる青灰色粘質土になり、遺構のほとんどはピットで建物跡や柵列に伴うものと思われる。

出土遺物は弥生土器片数点のほか、近世の陶器・磁器（筑前系・肥前系・中国系）、土製品（土人形・土鈴）、木製品（建築部材）、石製品（石塔・石臼）、金属製品（寛永通宝などの銅銭・煙管・手鏡）、獣骨、貝類などがパンケースで 70 箱出土した。

29 年度に報告を行う予定である。

○^{ほかまち}保加町遺跡第 2 次調査（柳川市）

保加町遺跡は柳川城下町の北端に隣接する、久留米柳川往還の出橋御門付近に位置している。

調査地点と接する県道は久留米柳川往還を踏襲した道路で、26 年度の保加町遺跡の調査では往還沿いに作られた江戸時代の町屋跡が検出され、地表面から 50cm 程の深さで火災痕跡の下に広がる遺構面が見られた。

27 年度は調査範囲を 10 地点に分けて調査した。遺構面の時期は上町遺跡と同様な状況で 2～4 時期にわたる遺構面を確認した。1 面目は 1780 年の外町大火のものと見られる火災痕跡の下部で検出した面である。調査区東側の 8・9 地点では道路に直交する石列を確認した。2 面目の遺構は比較的少ないが五輪塔・宝篋印塔などの石材を礎石に利用した建物跡を 6・7 地点でも検出した。3 面目は 2 面目と



上町遺跡全景（北東から）



上町遺跡 3 地点 4 期の遺構（下が北）

同様に遺構は少ないが、柱材や木杭に伴うピットのほか、9地点では溝を検出した。4面目はさらに下層で検出された面である。この面では最終の地山と思われる青灰色粘質土が現れ、遺構のほとんどはピットで建物跡や柵列に伴うものと思われる。

なお、今回の調査により4時期にわたって検出された遺構は、建物跡10棟以上、土坑15基、溝12条、ピット多数である。出土遺物は弥生土器片数点のほか近世の陶器・磁器（筑前系・肥前系・中国系）、土製品（土人形・土鈴）、木製品（建築部材）、石製品（石塔の一部・石臼）、金属製品（寛永通宝などの銅銭・煙管）、骨、貝類など上町遺跡と同様な遺物がパンケースで170箱出土した。

調査終了後、1月27日には上町・保加町区を対象に、調査で出土した遺物の見学会を催し、14名の参加を得た。

29年度には、残存部分の発掘調査と併せて報告を行う予定である。

○^{しもいらはらみやその}下伊良原宮園遺跡（京都郡みやこ町）

26年度末に表土掘削、造成状況を確認するためのトレンチ調査を行い、27年度は本格的な調査を実施した。

発掘調査の結果、複数の石垣を築いて平坦面を幾度かにわたって拡張した様子が窺える。このうち最も時期が遡る遺物は15・16世紀の陶磁器である。

調査地の東端付近では柱穴が複数検出されたが建物を構成するものは確認できなかった。また、石垣3が屈曲する付近から北では大小の礫が乱雑に現れたが、これは調査区北東部に位置する谷から流れ出た土石流の痕跡であろうと思われる。今回の調査で検出した主要な遺構は平行して走る4列分の石垣である。

石垣1は調査着手時に露出していたもので、最も新しい石垣である。調査区南端では高さ2.8mほどを測るが、石垣1下・基底部とはすぐに分離して直線的に延び、北西隅の巨石に達する前に終わる。北側に西側への張り出しがある。17.5mの長さまで確認した。石垣1下は本来の石垣（基底部）が何らかの理由で廃棄された後に規模を縮小して直線的に築き直したものである。石垣1基底部は完全に埋没していた石垣で、西



保加町遺跡3地点 1面目（上が北）



保加町遺跡7地点 2面目（南から）



下伊良原宮園遺跡全景（西から）



下伊良原宮園遺跡石垣1・1下・1基底部
（南西から）

端付近で確認した石垣の中では最も古いものである。

石垣 2 は調査区南端、石垣 1 の東 1 m 付近で検出した石垣で、石垣 1 とほぼ平行する位置にある。南端は西へ曲がる。一部断ち割った部分の所見では、2 段ほど積み上げていて石垣 1 に比べて若干低い。

石垣 3 は非常に多くの礫の中に埋没していた。南端は仮設道路建設時に破壊されたようである。この石垣は南から北へ 15 m ほど直線的に延び、以北は東へ屈曲してさらに約 6 m 延びて終わる。

石垣 4 は旧地形の勾配の裾に作られた石垣で、基底部のみ残存する。10 m 余りの長さを確認した。

当地「字宮園」は鎌倉時代に現在地へ遷された下伊良原高木神社の故地であるといわれているが、今回の調査ではそのような古い時期の遺構・遺物を確認できなかった。一つには当時のこの地方における神社の祭祀形態がどのようなものであったかわかっておらず、どのような痕跡をもって神社祭祀を認めるかという問題がある。また、調査地北半を覆う土石流によって破壊された可能性も考えられる。

○^{しもいらはらみやくぼ}下伊良原宮久保遺跡（京都郡みやこ町）

下伊良原高木神社の北、国道 496 号線荒戸橋の西側に迫り出した丘陵上に位置する祭祀遺跡である。

検出した主要な遺構は立石とそれに伴う石垣、階段である。立石は高さ 1.7 m 及び 1.2 m の二つの自然石を中心とし、東に隣接するやや小振りの自然石の間に高さ約 0.5 m の直線的な石垣を 2 段組んで祭壇とする。この石垣上から肥前系の染付片が出土している。

直線的な石垣の東 2 m を隔てたところに石階段の最上段が位置し、それらの間はほぼ平坦になっていた。

最上段石段を境に半円形に小さな段落ちが見られ、発

掘の結果、北側では 1・2 段、高さ 0.4 m の乱雑な石組みが残っていた。なお、南側には石組みは残っておらず、使用されたと思われる石材自体ほとんど検出していないことから、本来的に北側にのみ構築されたようである。立石及びその周囲には地山である花崗岩パイラン土中に花崗岩の石塊・岩塊がいくつか見られる。立石もその一つで、人為的に配置されたものではないようである。平坦地から土師器皿 1 枚が出土した。

石階段は長さ 8 m にわたって、7 段ほどに復元できる。大型石材や根石に使用されたと思われる小石材などから幅も 2 m ほどに復元できるが、全体に遺存状況が良好ではない。

祭祀に伴う遺物は肥前系の染付片・土師器皿 1 点のみである。詳細を検討していないが江戸時代に遡るものであろう。なお、前面の平坦な尾根線上で若干の縄文土器も出土している。

28 年度は、調査中に立石の南山腹で発見した炭焼窯の検出及び立石の精査・凶化等を行う。報告書は 29 年度に予定している。

○^{みやのまえ}宮ノ前遺跡（筑紫郡那珂川町）

調査対象地是那珂川右岸に位置し、地質上は沖積平野、地形的には自然堤防上に立地する。発掘調査は 3 区に分けて行い、東から 1～3 区と呼称した。

1 区では多くの土坑・柱穴・溝が検出されたが、特に東側では抜根等に伴う大きな攪乱が複数あって大きく地形改変されていた。中央付近では江戸時代に埋没した南北方向の 1 号溝（流路）が掘削されている。この溝は南端で幅約 2 m、深さ 0.4 m、北端では幅 8 m、深さ 1.7 m ほどと大きく形状が変わる。



下伊良原宮久保遺跡の立石と階段（東から）

溝の両側では江戸期以降の大小の土坑を検出した。このうち 35 号土坑は地下式土坑（地下倉庫）と思われる遺構で、床面には小さな川原石が敷き詰められていた。また石組井戸の一部を確認したが、これも江戸時代以降の遺構であると思われる。縄文土器・黒曜石や古代・中世の遺物も散見された。

2 区の西半部の土坑からは「御大典記念 大正四年」と陽刻された皿をはじめ、土器類や瓦、ガラス製品、金属製品などが多く出土し、「大正四年」をやや過ぎた頃の一括資料である。このほか土師器皿が詰め込まれた土器溜状の土坑を検出した。

3 区では略東西方向に走る 4 条の溝、略南北方向に走る 3 条以上の溝や近現代の攪乱坑のほか多くの土坑が検出された。また 12 世紀頃に人為的に埋められ屋敷地などを区画したと思われる溝も確認した。この溝の東側で確認した幅 0.5 m、深さ 0.1 m に満たない浅い溝状の遺構の内部には土器小片が多く入り、かつ埋土は非常に硬く硬化したものであったことから、道路としての機能が推測される。このほか素掘りの井戸と思われる円形の土坑を検出した。出土した土器から 8・9 世紀の遺構である。

今回の調査で検出した遺構は多くが江戸時代以降のものであるが、古代・中世（8・16 c）の土器類も多く、中に縄文時代の土器・石器や弥生・古墳時代の土器、越州窯系青磁や緑釉陶器、中世（鎌倉・安土桃山時代）の土器類などが混入している。

現在の調査地周辺は市街化しているが、古い地図では現人（あらひと）神社を中心に一辺 200 m の区画が見え、現在も道路にその痕跡がみられ、地形図でもその範囲が「自然堤防」として表記されている。こうしたことから古代に遡る重要な公的施設がここに存在した可能性も想定される。

○^{ちおんじあと}知恩寺跡第 2 次（田川郡添田町）

知恩寺跡は中世山城である岩石城の南側にある小峰の西側山麓斜面に位置する。東側の小峰には、豊臣秀吉の九州征討の際に、秋月氏一党との激戦が繰り広げられたことで知られる岩石城の出城があったとされる。昭和初期までこの地にあった知恩寺（現在は添田小学校の近くに移転）は、岩石城の守備隊に属していた佐々木平左衛門なる人物が岩石城における攻城戦の敗戦後に死者を弔うために創建したと伝えられることから、少なくとも近世初期以降、この地に寺院が営まれていた可能性が極めて高い。

南側隣接地は 26 年度に発掘調査（第 1 次）を行い、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 5 基、池跡 1 か所を確認している。そのうち掘立柱建物跡は中世の遺構で、知恩寺



仲宮ノ前遺跡 1 区西半全景（上が北）



仲宮ノ前遺跡 3 区全景（上が北）



知恩寺跡全景（南から）

跡の建立時期を遡る 12 世紀前後に集落が成立していたことが確認された。

今回の調査では、2 間×4 間の掘立柱建物跡とそれに伴う溝、土坑、多数のピットのほか、水溜遺構を検出した。また、調査区の東側に迫る丘陵部分には遺構が存在しなかったが、中世～近世にかけての遺物が整地層中に多く含まれていたことから、当該期の遺構が丘陵上に広がる可能性がある。これらの遺構の時期の中心は、26 年度に調査を行った南側隣接地と重なる 12 世紀前後から 15 世紀代に及ぶ。

なお 1 次調査を含む報告書の刊行は、28 年度に予定している。

○山城遺跡群（筑紫郡那珂川町）

山城遺跡群は那珂川の右岸に位置し、河川に接して立地する。

今回の調査では、那珂川の旧河道の一部およびこれに伴う護岸の石垣を検出した。石垣は調査区全体および合計約 70 m 分を確認しており、一部は前後 2 列になった部分もある。石垣の構築には大小の川原石を使用し、場所によって積み方も異なるが、2～3 段から最大 5～6 段、高さ 1 m 程度に乱雑に積み上げている。石垣の前面は、地形が急激に落ちて川原石が散乱する状況や埋土の状態から判断して河道の一部であろう。これらの遺構は、出土遺物から近世後期を上限とする時期のものと考えられる。

また、石垣背面の自然堆積層からは縄文時代以降中世までの土器、陶磁器、石器等が出土している。

○片島遺跡群（筑紫郡那珂川町）

片島遺跡群は那珂川右岸、山城遺跡の下流に位置し、河川に接して立地する。

今回の調査で検出した主な遺構は、溝 6 条以上、土坑 12 基以上などである。溝は調査区の南西半部に集中しており、埋土が暗褐色粘質土のものと灰白色砂質土のものがあるが、いずれも東西あるいは南北方向に直線的に延び、直角に曲がる部分もあることから、区画溝であろうと考えられる。

出土遺物には、縄文時代から近世までの各時代にわたる土器・陶磁器類の破片が見られ、出土状況からは遺構の時期を特定しづらいが、こうした遺構は中世あるいは近世のものを中心と考えられる。

○本町遺跡第 2 次（柳川市）

遺跡は柳川城下町遺跡内の江戸時代の幹線道路である本町通り沿いの町並みの裏手に位置し、土族居住区の北東部にあたる。27 年度は伝習館高校北校舎建替えに伴って 1,600 m² の調査を行った。遺構面が 2 面残っているか所もあり、1 面目は幕末から明治初期で、2 面目は江戸中期の 17 世紀から 18 世紀後



知恩寺跡Ⅲ区全景（左が北）



山城遺跡群全景（西から）



片島遺跡群全景（西から）

半であった。

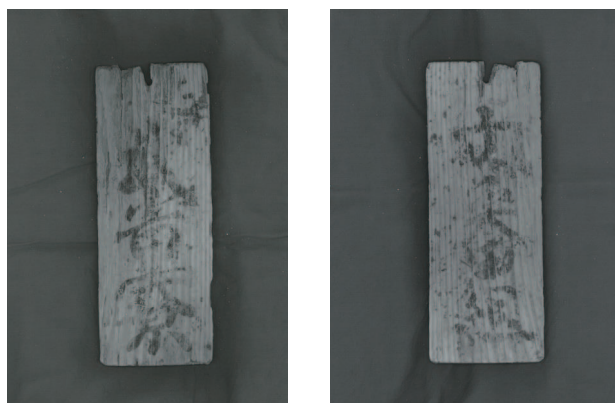
1 面目では大型の土坑が 2 基検出され、パ
ンケース約 60 箱の遺物が出土した。このう
ち 1 基は柳川藩が建設した「文武館」を改
築する際の廃棄土坑であった。「文武館」は
伝習館高校の地に最初に建てられた藩校であ
り、伝習館高校の直接の祖にあたる学校であ
る。その施設名を記した標識板や、表面に「式
番寮」、裏面に「子番組」の墨書のある板な
ど貴重な資料を含む脆弱な木製品が多く含まれ
ていた。もう 1 基は長軸約 20 m、幅約 10 m、
深さ 0.80 m を測る幕末の溜井遺構である。溜
井遺構は川から水を引いて水を溜める施設であ
り、26 年度に引き続いて同種の遺構が発見さ
れたことで、柳川藩の川沿いの中級武士の屋敷
にはこうした施設が設けられることが一般的で
あった可能性が考えられる。

2 面目は城下町建設時に存在した河川の端部
とみられる落ちが検出された。また北西端部に
おいては幅 80cm、深さ 40cm 程度の規模で検出された中規模の溝は、東に行くほど幅が広く、かつ、深
くなり、屋敷地の中央部で止まっていた。この溝は幅 2 m、深さ 0.80 m ほどに達するため単なる区画
溝ではなく、これについても溜井の機能をもつものとみられる。

このほか、番所と城家（じょうけ）の屋敷の区画溝も確認され、寛政年間の古地図に描かれた区画と
ほぼ一致していることがわかった。



本町遺跡全景（西から）



本町遺跡出土の「文武館」に伴う木札赤外線写真（左が表面）

平成 27 年度文化財調査班実施の発掘調査および作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
上町遺跡第2次	柳川市上町	900	150413-151030	城下町	河川
保加町遺跡第2次	柳川市保加町	1,500	150415-160203	集落	河川
下伊良原宮園遺跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	500	150417-150709	集落	ダム
下伊良原宮久保遺跡	京都府みやこ町犀川下伊良原	3,000	160122-160325	祭祀	ダム
宮ノ前遺跡	筑紫郡那珂川町仲	900	150819-160226	集落	県道
知恩寺跡第2次	田川郡添田町添田	800	150901-151113	寺院	県道
山城遺跡群	筑紫郡那珂川町山田	700	150904-160331	河道	河川
片島遺跡群	筑紫郡那珂川町山田	1,700	151215-160331	集落	河川
本町遺跡第2次	柳川市本町	1,600	151013-160325	城下町	学校

作成報告書

タイトル	シリーズ	調査原因
永久笠田遺跡第2次、時末遺跡第1・2次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 24	東九州自動車道
西の原遺跡第3・4次、大西遺跡第4次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 25	東九州自動車道
塔田琵琶田遺跡第4次（上下巻）	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 26	東九州自動車道
塔田琵琶田遺跡第6次	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 27	東九州自動車道
四ツ塚山遺跡、鏡迫古墳群、上唐原榎町遺跡	東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 28	東九州自動車道
和井田遺跡、成恒山ノ内遺跡、ハッ並下ノ原遺跡	福岡県文化財調査報告書第 251 集	県道
塔田琵琶田遺跡第3・5次、 塔田五反田遺跡、塔田キカス遺跡第2次（上下巻）	福岡県文化財調査報告書第 252 集	県道
湯柱遺跡	福岡県文化財調査報告書第 253 集	県道

[文化財調査室保存管理班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースなどの薬剤含浸による強化処理、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。今年度は、4遺跡 85 点の処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線 CT スキャナや蛍光 X 線分析装置などを用いた事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処理といった工程で行っている。今年度は 8 遺跡 316 点の処理を行った。

○遺跡における遺物の応急処置

春日市教育委員会による須玖岡本遺跡の調査において、大型の甕棺が良好な状態で発見され、内部には青銅製武器などの副葬品や関連する有機質遺物が存在することが想定された。

当館では、同教育委員会の依頼により、X線 CT スキャナの活用による有機質遺物及び金属製遺物の発見と記録を目的とした遺物取り上げ作業を行った。

作業は、25 年度の高賀市船原古墳遺物埋納坑、26 年度の宮崎県えびの市島内 139 号地下式横穴墓において実践した方法を応用して行い、取り上げ後の X 線 CT 調査により、甕棺内に存在する繊維と想定される有機質や顔料の存在を明らかにし、三次元情報として記録することができた。



春日市須玖岡本遺跡における作業風景

また、同市上平田・天田遺跡において出土した木製遺物・有機質遺物について、医療用ギブス等を用いた取り上げ作業の支援を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処置

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

今年度は、有害生物の被害がみられたとして、久留米市、宗像市、太宰府市、甘木歴史資料館、佐賀県有田町および当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第1展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度の調査対象は、南淋寺収蔵庫（朝倉市）、個人宅収蔵庫（八女市）、求菩提資料館展示室、福岡県立大学書庫であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定め温湿度データロガを設置、数か月おきにデータ収集と定期点検を行った。これまでの調査により、各々の年間の温湿度挙動を把握することができつつあり、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

○各種文化財の科学的調査

本年度、外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	久山町教育委員会	首羅山遺跡出土品	赤外線スキャナ	
2	糸島市教育委員会	三雲・井原遺跡番上地区出土鉄製品	X線CTスキャナ	4.28
3	春日市教育委員会	須玖タカウタ遺跡第5次調査出土土製鋳型	デジタルマイクロスコープ	5.8
4	大分県杵築市教育委員会	杵築城藩主御殿出土木製品	実体顕微鏡	5.15
5	久留米市教育委員会	碓遺跡・古賀ノ上遺跡出土獣骨	X線CTスキャナ	5.27
6	福岡県立美術館	高島野十郎の油彩画作品	赤外線カメラ	6.5
7	小郡市教育委員会	市内田中三次郎商店から発見された木製墨書棟札	赤外線スキャナ	6.24
8	春日市教育委員会	須玖タカウタ遺跡第5次調査出土土製鋳型	デジタルマイクロスコープ	7.8
9	太宰府市教育委員会	国分千足町遺跡第8次調査出土木製品	実体顕微鏡	7.22
10	岡山県総社市教育委員会	江崎古墳出土銀象嵌鍔付大刀	X線CTスキャナ	8.11
11	佐賀県鹿島市教育委員会	旭ヶ丘遺跡甕棺出土鉄戈	X線CTスキャナ	9.8
12	飯塚市教育委員会	多賀神社奉納句額	赤外線スキャナ	10.1
13	小郡市教育委員会	市指定有形文化財油屋二階天井棧	赤外線スキャナ	10.3
14	大野城市教育委員会	古野遺跡・善一田遺跡出土金属製品	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	11.5
15	久留米市教育委員会	筑後国府跡出土遺物	蛍光X線分析	11.26
16	宗像市教育委員会	依嶽神社所有棟札	赤外線スキャナ	12.11
17	飯塚市教育委員会	鼓打権現神社棟札	赤外線スキャナ	12.18

上記のほか、館内資料については、随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

九州国立博物館において開催された、みんなでまもるミュージアムみんなでまもる文化財事業、福岡市元岡G6号墳出土庚寅銘大刀調査委員会、春日市文化財専門委員会、(一社)文化財保存修復学会災害調査部会に委員として出席した。

また、博物館等の保存施設新築、改築に関して、八女市教育委員会、朝倉市教育委員会、大野城市教育委員会、福津市教育委員会からの相談に対応した。その他、保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談に随時対応している。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

25年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度は、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業と、遺物の科学的調査、クリーニング作業を行った。

科学的調査の成果として、中央部が白色を呈している辻金具、雲珠について、蛍光X線分析法をはじめとする調査を行ったところ、白色部分については、鉛ガラスであることがわかった。全体的な構造として、中央部が鉛ガラス、輪金部分が金銅という、わが国においてこれまで見ることのない、初めての発見となった。この成果について、古賀市教育委員会と共同で記者発表を行い、さらに1月31日に古賀市で開催されたシンポジウムにおいて、広く一般市民に3Dデジタル模型の展示とともに紹介した。



辻金具の現状と調査成果から復元した3Dデジタルモデル



シンポジウム会場と3Dデジタルモデルの展示

(2) 展 示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得を意図して約2か月ごとに展示替えを行っており、その都度足を運んでもらえれば新しい資料との出会いがあるようにしている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している

第1展示室では、調査研究および展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示のテーマをより深化もしくは特化した内容の特集展示を24年度から開催している。27年度は26年度から始まった特集展示「大宰府の役所ー大宰府政庁周辺官衙不丁地区成果展ー」(平成27年2月10日(火)～4月5日(日))や「日本最古級の導水施設木樋(延永ヤヨミ園遺跡出土)」(平成27年3月10日(火)～5月10日(日))を含めると3回の開催となった。そのうち27年度企画の特集展示「モダン福岡を眺めるー没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図ー」は、コレクション展のひとつとして企画されたものであり、大正から昭和初期にかけて日本内外各地の鳥瞰図を描き「大正の広重」とも称された吉田初三郎の当館所蔵の作品を一挙公開した。

常設展示の内容をより深く理解していただくために制作している「九州歴史資料館展示解説シート」については、特集展示および企画展の開催にあわせて新規に制作し、充実を図っている。さらに展示内容や歴史的な背景をより深く理解してもらうために展示室でギャラリートークを開催するほか、『教育福岡』の連載記事や地元ケーブルテレビの番組などを通じて展示や館蔵品の紹介を行っている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ



常設展示風景

○特集展示

「モダン福岡を眺めるー没後 60 年 吉田初三郎の鳥瞰図ー」

会期：平成 27 年 5 月 19 日（火）～7 月 12 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：九州歴史資料館 1 階 第 1 展示室近代コーナー

内容：吉田初三郎（1884～1955）は、「モダン」という言葉が一世を風靡した大正から昭和初期にかけて、日本内外各地で多くの名所図絵（鳥瞰図）を描き、「大正の広重」と称された人物である。彼の作品は美しい絵であると同時に、対象を細部まで詳細に描いており、その時代の日本の姿を知る貴重な資料であるともいえる。

本展では、当館が所蔵する初三郎作品の名所図会および絵葉書、およそ 20 点を一挙に展示し、初三郎の目を通して、モダンと呼ばれた時代の福岡県内外の姿について、眺めていく展示とした。初三郎の作品を都市、交通、福岡県外の 3 テーマに分類し、昭和初期における福岡県の都市や交通の発展を概観した。さらに産炭地や工業地帯といった地域ごとの特色ある施設、また他地域を描いた名所図会における福岡県の表示などを通して、昭和初期の福岡県の特徴に迫っていくことも目指した。



特集展示「モダン福岡を眺める」

◎特別展示

○大野城築造 1350 年・九州歴史資料館移転開館 5 周年記念特別展

「四王寺山の 1350 年ー大野城から祈りの山へー」

会期：平成 27 年 10 月 24 日（土）～12 月 6 日（日）

会場：第 1 展示室

主催：九州歴史資料館・文化庁（重要文化財等公開促進事業）

内容：本展は、四王寺山ゆかりの文化財を通して、665 年の大野城の築造にはじまり、四天王寺（四王寺）の建立や経塚文化の盛行、原山や崇福寺の興隆、南北朝の動乱や岩屋城の合戦、祭祀・伝承にいたる四王寺山 1350 年の歴史をたどる展覧会である。それは同時に古代以来、防衛・政治・宗教・対外交流において重要な役割を担ってきた「大宰府」の歩みを振り返ることでもあった。

本展の企画にあたってベースとなったのは、25 年度当館開催の企画展「聖地四王寺山」であり、展示担当者一同が大野城跡だけではない四王寺山の魅力を再認識したことである。そして、四王寺山はこれまでの



特別展「四王寺山の 1350 年」ポスター

当館の調査研究の成果を活かし、考古・美術工芸・歴史の3分野の視点から組み上げるテーマとしてもっともふさわしいものであった。

展示構成は、「国家の守り－大野城と四王寺－」「末法の祈り－四王寺山経塚－」「高僧の交わり－原山と崇福寺－」「争乱のうねり－南北朝の動乱と岩屋城の戦い－」「伝承の起こり－雨乞祈禱と盲僧琵琶－」「史跡としての四王寺山」の6章からなり、遺跡としての大野城跡だけではなく四王寺山がもつ多様な姿を紹介する展示内容とした。展示総点数は国宝・重要文化財18件45点を含む141点である。

具体的な内容としては、大野城の築造当初から平安時代にいたる出土品や『日本書紀（兼永本）』『元暦校本万葉集』『律（広橋本）』などの古写本が一堂に会し「大野城のすべて」ともいえるものとなった。仏教の聖地としての歩みについては、世界記憶遺産「東寺百合文書」のうち四王寺四禅師補任関係文書や20点を上回る四王寺山経塚群

出土の経筒を展示した。中世での展開としては、栄西や一遍に影響を与えた原山の学僧の活動を紹介するとともに、九州臨濟禅の拠点であった崇福寺ゆかりの高僧湛慧や円爾・南浦紹明らの頂相や墨蹟を展示した。南北朝の争乱の舞台となった原山の展示では、後醍醐天皇綸旨（阿蘇家文書）や足利尊氏軍勢催促状（都甲家文書）のほか、大分・安国寺所蔵の木造足利尊氏坐像も紹介することができた。四王寺山ゆかりの伝承としては神功皇后や玄清法印ゆかりの字縁起・縁起絵のほか、四王寺山の東麓の水瓶山で近代まで行われていた雨乞祈禱の祭具を展示した。最後に太宰府研究の柱のひとつである大野城および岩屋城の研究にスポットを当て近世以来の調査研究のあゆみを振り返った。

当館では、水城・大野城・基肆城築造1350年を記念して、これまでも25年度の企画展「水城・大野城調査研究事始め」、26年度の企画展「徹底解説!!水城のすべて－古代の築堤・貯水技術－」を開催するとともに、『大宰府史跡ガイドブック1 特別史跡水城跡』『同2 特別史跡大野城跡』（当館発行）や『こども大宰府史跡ガイドブック 大伴旅人の大宰府ものがたり』（太宰府顕彰会発行）を制作・頒布してきた。本展はその掉尾を飾るものとして企画・実施されたものである。本展には40年以上にわたり福岡県教育委員会・当館が行ってきた大野城跡をはじめ大宰府史跡の発掘調査・研究の成果が表れている。

また、会期中には関連イベントとして、10月25日（日）に記念茶会、11月3日（火・祝）に文化財めぐり「四王寺山の聖地をめぐる」、11月7日に移転開館5周年記念イベント「鼓・舞・楽 古の時代



特別展「四王寺山の1350年」展示風景



特別展「四王寺山の1350年」文化庁長官来館

に思いを馳せて」(おごおり七夕太鼓白鷺会・山家岩戸神楽・アクロス福岡ミュージアムコンサート)、11月18日(水)に夜のギャラリートーク、11月22日(日)に開催記念講演会「大宰府四天王寺と秋田城四天王寺」(講師:国立歴史民俗博物館准教授 三上喜孝氏、当館学芸員 松川博一)を実施した。会期中の入館者数は、4,466名である。

主な展示資料

国宝 元暦校本万葉集(東京国立博物館)、国宝 類聚古集(龍谷大学図書館)、国宝 金光明最勝王経(西大寺)、国宝 円珍祈祷卷数写(園城寺)、世界記憶遺産・国宝 東寺百合文書、重文 日本書紀(北野天満宮)、重文 律(国立歴史民俗博物館)、重文 銅印「四王寺印」(京都国立博物館)、重文 智証大師伝(東京国立博物館)、重文 四王寺山毘沙門堂経塚出土品(宇美八幡宮)、重文 白釉経筒(九州国立博物館)、重文 東福寺条々(東福寺)、重文 大応国師像(興徳寺)、重文 相良家文書(慶應義塾図書館)、重文 阿蘇家文書(熊本大学附属図書館)、重文 立花家文書(立花家史料館)、重文 足利尊氏坐像(安国寺)、福岡県指定 一遍上人像(九州国立博物館)、大分県指定 都甲家文書(個人)など。

総点数:141点(世界記憶遺産1件5点、国宝5件10点、重要文化財13件35点、重要美術品1件1点、県指定文化財4件5点、市指定文化財5件7点を含む)

図録:A4版、188頁、印刷部数2,000部(販売部数1,000部)、頒価1,000円

◎企画展示

27年度は、第1展示室の一部および第2・4展示室を会場として、7回の企画展を実施した。企画展は、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第1展示室の約3分の1を使って行う大型の企画展、他館との共同企画展というラインナップで定着しつつある。

春には小学6年生の歴史学習を支援する第27回企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり」を開催し、小郡市内の小学校を中心に受け入れた。夏には第29回企画展「発掘速報展2015」を行い、東九州自動車道の整備にともなう豊前地域の発掘調査成果や大宰府史跡における最新の調査成果を中心に展示した。また、特別展の間中は常設展示が大幅に縮小されることから小学生・中学生・大学生や絵手紙サークルの方々が描いた絵画作品と対象の収蔵品と一緒に展示する第31回企画展「いろいろな目で見てみたら…みんなが描いた九歴の収蔵品」の第2弾も開催した。

27年度からはじまった新シリーズとしては、30年度の大宰府史跡発掘50周年に向けて3か年にわたり企画展「大宰府史跡みどころ展」を行うこととし、そのPart.1として「貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」をテーマに第30回企画展を実施した。27年度に特徴的な企画展としては、当館で一時保管中の福岡県指定文化財「小笠原文庫」の史料を一堂に公開する第28回企画展「小笠原文庫から見た幕末維新～武家礼法から近代教育まで～」や筑前地域の鑄造遺物と鑄造復元実験の成果を紹介する第32回企画展「古代の鑄造技術—筑前の鑄造遺跡と復元実験—」を開催した。

また、共同主催展としては、沖縄県立博物館・美術館と第33回企画展「沖縄の旧石器人と人類の起源」を行い、約2万年前の港川人の人骨やサキタリ洞遺跡出土品を通して、沖縄の人類史を紹介した。あわせて第34回企画展「西北九州の黒曜石と石刃技法」を開催し、黒曜石の原産地と石刃技法に関する最新の研究成果を公開した。

○第27回企画展「きゅうおにとタイムとラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期：平成27年3月10日（火）～8月16日（日）

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・奈良時代をタイムトラベルをしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校6年生の歴史学習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用して、第1展示室では実践しにくかった、子どもたちにもわかりやすい展示を実現した例となっている。

会期中には、小郡市内をはじめとする小学校6年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

また、年度後半の平成28年3月1日（火）から、当企画展とほぼ同じ内容にて第35回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催している（詳細は28年度年報に掲載予定）。

○第28回企画展 福岡県指定有形文化財 指定10周年記念「小笠原文庫から見た幕末維新～武家礼法から近代教育まで～」

会期：平成27年7月16日（木）～8月30日（日）

協力：福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会、みやこ町歴史民俗博物館

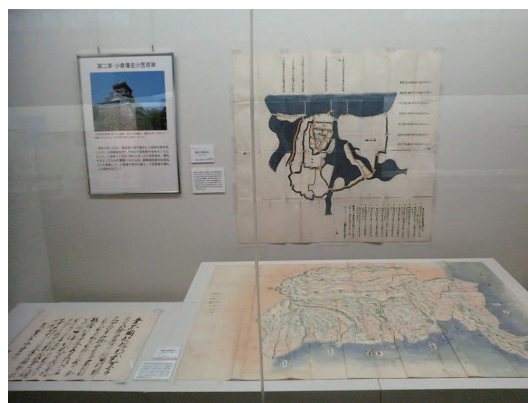
内容：小笠原文庫は、江戸時代に現在の福岡県東部を領した小倉藩の藩主、小笠原家に由来する資料群で、現在はかつての小倉藩藩校を起源とする福岡県立育徳館高等学校の同窓会が所蔵している。小倉藩政をはじめ、小笠原家が担った武家礼法や朝鮮通信使の応接、幕末動乱期の政局や戦いに関する資料、また近代の学校資料などが豊富に含まれており、17年には福岡県指定有形文化財となった。

本展ではこの小笠原文庫の中から、主に幕末維新期の資料を中心に、武士の時代に小笠原家が果たした役割と、時代の転換期を懸命に乗り越えようとした先人達について紹介していく展示とした。あわせて、この小笠原文庫を護ってきた育徳館高等学校の歩みについても紹介している。

なお、会期中の8月8日（土）には開催記念事業として、みやこ町歴史民俗博物館の川本英紀氏による第5回九歴講座「小倉藩主小笠原家と小笠原文庫について」を行い、112名の参加があった。また8月19日（水）には担当学芸員によるギャラリートークを行い、13名の参加があった。



第27回企画展「きゅうおにとタイムトラベル」



第28回企画展「小笠原文庫から見た幕末維新」

○第 29 回企画展「発掘速報展 2015」

会期：平成 27 年 8 月 18 日（火）～ 11 月 1 日（日）

会場：第 2・4 展示室

内容：当館では、毎年県内各地に所在する遺跡の発掘調査を実施し、郷土の歴史を知る上で数々の重要な成果を挙げている。23 年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催している。27 年度は開発に伴う発掘調査や整理作業で得られた成果のほか、大宰府史跡での調査成果も含め展示を行った。

展示では遺跡からの出土品とともに、各発掘担当者が作成した解説・写真パネル、また映像を用いて、来館者に発掘当時の雰囲気を感じることができる展示を実施した。

資料展示とパネル展示

保加町遺跡（柳川市）、延永ヤヨミ園遺跡（行橋市）、皆見大塚古墳（みやこ町）、下伊良原高木神社跡（みやこ町）、皿山古墳群（上毛町）、吉ヶ浦遺跡（太宰府市）、君ヶ原遺跡（筑前町）、善蔵塚古墳（広川町）、の出土品 計 9 遺跡

パネル展示のみ：水城跡（太宰府市・大野城市）、大宰府跡（太宰府市）、大野城跡（宇美町）、津島福市遺跡（筑後市）、知恩寺跡（添田町）、大村湯福遺跡（豊前市）、下伊良原下地ヶ原遺跡（みやこ町）、山口古墳群（苅田町）、ガサメキ古墳群（上毛町） 計 9 遺跡

また、期間中の 8 月 29 日（土）に関連事業とし「調査報告会 2015」を開催した。展示した遺跡のうち注目される遺跡等について、調査担当者がその調査成果を分かりやすく紹介する講座を実施した。内容と発表者は以下のとおりで、参加者は 75 名である。

- ・下伊良原高木神社跡：神社跡の下から縄文遺跡発見！ 参事 飛野博文
- ・水城跡：100 年ぶりの土塁断面の調査 福岡県文化財保護課 杉原敏之
- ・科学的調査：展示資料の科学的調査 文化財調査室 小林 啓

○第 30 回企画展「大宰府史跡みどころ展 Part1 貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」

会期：平成 27 年 9 月 3 日（木）～ 10 月 12 日（月・祝）

内容：26・27 年度は、それぞれ水城・大野城・基肄城築造 1350 年にあたり、さらに 30 年度は大宰府史跡発掘 50 周年を迎える。本展は、50 周年に向け、これまでの大宰府史跡の調査研究成果を順次紹介していくシリーズ企画展の 1 回目である。

近世における大宰府研究の端緒を開いたのは、福岡藩の儒学者・貝原益軒（1630 - 1714）である。筑前三大地誌の最初を飾る『筑前国統風土記』は、古代の大宰府のみならず福岡県の歴史を研究する上で出発点となるべき書として、今も活用されている。その中には都府楼跡や水城跡をはじめ大宰府史跡についての詳細な記述がみられる。その実証主義と現地調査に基づく調査研究姿勢は後進の鑑とすると



第 29 回企画展「発掘速報展 2015」



第 29 回企画展関連「発掘報告会 2015」

ころである。今日、益軒の没後300年を迎え、大宰府研究のみならず、『養生訓』『大和本草』をはじめ、益軒の業績を顕彰しようとする気運が高まっている。

益軒の『筑前国続風土記』を本編として、その後も加藤一純・鷹取周成著の『筑前国続風土記附録』や青柳種信『筑前国続風土記拾遺』が編纂され、調査研究の継承がみられる。さらに、九州全域を対象とした伊藤常足の『太宰管内志』の編纂など、大宰府研究は深化し、発展して行く。

本展では、近世福岡を代表する学者であり、大宰府研究の先駆者である貝原益軒の生涯や業績をふりかえるとともに、今日につながる大宰府研究の軌跡をたどり、日本三大史跡のひとつとされる大宰府史跡の重要性を紹介した。



第30回企画展
「大宰府史跡みどころ展 Part1 貝原益軒」

○第31回企画展「いろいろな目で見てみたら・・・みんなが描いた九歴の收藏品～」

会期：平成27年11月3日（火・祝）～11月29日（日）

会場：第2・4展示室

内容：当館の展示資料には考古資料をはじめ、美術工芸資料、文献史料など、さまざまな種類の歴史的な資料が収蔵・展示されている。それらの種類の多様さもさることながら、それぞれの資料に対する見方・受け取り方も、見る人によって様々である。それらの多様な感受性を絵とコメントという形で表わそうとした企画展である。25年度に第16回企画展として初めて開催したところ、好評をいただいたので、27年度も同様の内容で開催した。

本展では、開催に先立ち、当館が所蔵する資料について、近隣の幼稚園児から学生、成人にいたるまで、幅広い年齢層の方々に描いていただき、その資料を見て感じたコメントを書いた作品を募った。特に7月26日（日）・28日（火）には、小学生を対象に「きゅうれき絵画教室2015・きゅうれきの名品を描こう」というイベントとして62名の小学生の参加者に描いてもらった。



第31回企画展
「いろいろな目で見てみたら・・・」

○第32回企画展「古代の鑄造技術－筑前の鑄造遺跡と復元実験－」

会期：平成27年12月1日（火）～平成28年1月24日（日）

協力：芦屋町教育委員会・筑前鑄造技術研究会

会場：第2展示室

内容：金属を溶解し、さまざまな金属製品を作り出す「鑄造」技術。北部九州は日本列島の中でも最も古くに鑄造技術が伝わって来た地域であり、その一角、旧筑前国の太宰府や芦屋などでは、古代から中世にかけて活発な鑄造活動が行われ、発掘調査によりその痕跡である鑄造遺跡が見つかった。本展では、筑前地域に所在する発掘された鑄造遺跡を、出土品を交えながら紹介するとともに、筑前鑄造遺跡研究会によって行われた鑄造復元実験についても紹介することで、出土遺物からだけではわかりにく

い鑄造活動の実態に迫った。展示室内に実験映像を放映したため、観覧者からわかりやすいとの御意見を多数いただいた。

また、展示期間中には、古代体験のメニューに新たに「ミニ銅矛鑄造体験」を加えた。

主な展示資料：金屋遺跡出土鑄造関連遺物（芦屋町教育委員会所蔵）

観世音寺出土鑄造関連遺物（九州歴史資料館所蔵）

芦屋釜復元工程模型（芦屋釜の里所蔵）

行橋市延永ヤヨミ園遺跡出土芦屋釜

（九州歴史資料館所蔵）

鑄造復元実験関連資料

（筑前鑄造技術研究会所蔵、展覧会終了後に

九州歴史資料館に寄贈）

○第33回企画展「沖縄の旧石器人と人類の起源」

会期：平成28年1月27日（水）～2月28日（日）

会場：第1展示室（弥生・古墳コーナー）、第2・4展示室

主催：沖縄県立博物館・美術館

共催：九州歴史資料館

内容：沖縄地方の島々は、更新世の隆起サンゴ礁からなる琉球石灰岩に広く覆われ、各地の洞穴や裂罅からは保存の良い動物化石が数多く発見されている。そのため、古生物学や古人類学の分野では、国内有数の重要なフィールドとして注目されており、港川人をはじめとする豊富な旧石器人骨の出土は本地方の特徴となっている。こうした状況を踏まえ、沖縄県立博物館・美術館では、新たな人骨化石や旧石器の発見をめざして、沖縄島南部において継続的な調査を実施している。

本企画展では、「沖縄の旧石器人と人類文化」をテーマとして、沖縄県立博物館・美術館が継続的に調査を実施してきた、南城市サキタリ洞遺跡出土の約2万年前の人骨や貝器、沖縄県立埋蔵文化財センターによって調査された石垣市白保竿根田原洞穴遺跡の約2万年前の人骨など、沖縄県以外では初めてとなる貴重な資料を展示した。また、会期中には、関連事業として第11回九歴講座「沖縄の旧石器人と人類の起源」を開催し182名の参加があった。このほか、ミュージアムトーク、貝器作りのワークショップなどを実施した。

○第34回企画展「西北九州の黒曜石と石刃技法」

※ 沖縄県立博物館・美術館企画展と同時開催

会期：平成28年1月27日（水）～2月28日（日）

会場：第1展示室（旧石器・縄文コーナー）



第32回企画展「古代の鑄造技術」



第33回企画展「沖縄の旧石器人と人類の起源」



第34回企画展「西北九州の黒曜石と石刃技法」

内容：西北九州の佐賀・長崎地域では、かつての火山地帯周辺に多数の黒曜石が産出することが知られている。これらの黒曜石は、後期旧石器時代における人類の主要な資源となり、この黒曜石原産地付近には石器製作の大規模なアトリエが残され、その周辺地域では黒曜石製の石器類が数多く消費されたことが分かっている。

本企画展は、“資源と技術”という視点から、人類文化に多大な影響を与え続けた“黒曜石”と現生人類の成立に密接な関わりを持つと考えられる石器技術である、“石刃技法”をテーマに取り上げた。西北九州の黒曜石原産地資料をはじめ、磯道遺跡や多久三年山遺跡の石刃技法関係資料、有田遺跡や百花台遺跡の剥片尖頭器等を展示した。会期中には、石器作りや関連シンポジウム、ギャラリートークを開催した。

・公開シンポジウム『東アジアと列島西端の旧石器文化—朝鮮半島、九州、南西諸島の対比から—』

主催：九州歴史資料館

期日：平成28年2月20日（土）・21日（日）

参加人数：2/20（土）・21日（日）188名

内容：企画展の内容に合わせて、シンポジウムを実施した。大韓民国、九州の研究者を招聘し、黒曜石原産地の問題や、朝鮮半島、九州、南西諸島の人類文化を対比して討論を行った。研究者だけでなく、一般も対象とした公開シンポジウムの形をとった。

2月20日（土）

記念講演「先史時代の人類文化と交流」

小畑弘己（熊本大学文学部）

基調報告「韓半島の旧石器文化と九州」

張 龍俊（大韓民国 国立大邱博物館）

※通訳 田中聡一（老岐市教育委員会）

2月21日（日）

研究報告第1部『西北九州の黒曜石原産地をめぐる諸問題』

「巨大な黒曜石原産地・腰岳」芝康次郎（奈良文化財研究所）

「百花台遺跡群と黒曜石の動向」辻田直人（雲仙市教育委員会）

「西北九州の黒曜石と石刃技法」杉原敏之（福岡県教育委員会）

「西北九州の黒曜石原産地研究の課題」川道 寛（長崎県埋蔵文化財センター）

「サヌカイト原産地からみた問題」越知睦和（佐賀県教育委員会）

研究報告第2部『南北を弧状に貫く人類文化の様相』

「九州における剥片尖頭器の展開」藤木 聡（宮崎県立西都原考古博物館）

「琉球列島の人類文化の系譜」山崎真治（沖縄県立博物館・美術館）

「韓半島からみた日本九州地域の旧石器」張 龍俊（国立大邱博物館）

シンポジウム『東アジアと列島西端の旧石器文化』 司会：岩谷史記（熊本市観光文化交流局）

○伊都国歴史博物館・九州歴史資料館共同開催特別展「国境の山岳信仰—脊振山系の聖地・霊場を巡る—」

会期：平成28年1月30日（土）～3月13日（日）



公開シンポジウムの様子

主催：伊都国歴史博物館・九州歴史資料館

会場：伊都国歴史博物館企画展示室

内容：福岡県と佐賀県の県境は、かつての筑前国と肥前国の国境で、東西に長く脊振山系の稜線が延びている。その稜線は標高 1,055 m の脊振山を頂点として、標高 600 ～ 800 m 級の山々が連なり、山系の全長は約 80km にも及ぶ。古来、山に対する信仰によって、脊振山系には数多くの聖地・霊場が営まれ、九州歴史資料館では、糸島市教育委員会等と共同してこれらの遺跡の現地確認調査を 25 年度より行ってきた。



展覧会「国境の山岳信仰」オープニングセレモニー

本展では、伊都国歴史博物館・九州歴史資料館共同開催特別展として、筑前と肥前の国境にあたる脊振山系の稜線踏査などの現地調査により明らかになった脊振山系の古代から中世にかけての山岳信仰の姿、さらには筑肥の国境が分断され、それ以前の信仰の姿にもはや戻ることがなくなったきっかけとなった、脊振山をとりまく近世の国境争論について、「国境の山岳信仰—脊振山系の聖地・霊場を巡る—」と題し、開催した。会期中の入館者は 3,330 人を数えた。

また、展覧会開催にあわせて、展示図録（九州歴史資料館・伊都国歴史博物館編集、伊都国歴史博物館発行）を刊行・販売すると共に、会期中の 3 月 6 日（日）には伊都国歴史博物館研修室において、ミニシンポジウム「国境の山岳信仰—脊振山系の聖地・霊場を巡る—」を開催、山本義孝氏（袋井市歴史文化館・彦山研究会）、吉田扶希子氏（西南学院大学・九州山岳霊場遺跡研究会）、岡寺 良（九州歴史資料館・九州山岳霊場遺跡研究会）の 3 人が講演を行い、その後にパネルディスカッションを行い、脊振山系の山岳信仰の研究状況について理解を深めた。参加者数は 128 人であった。

◎パネル展示

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館 2 階文化情報広場等において実施している。

27 年度は、例年行っている朝鮮半島の文化遺産、福岡県内の鉄道遺産、保存科学機器による最新成果を紹介するパネル展のほか、県内の古墳の写真展や当館の元写真担当職員が遺したかつての太宰府の風景など、多種多様なテーマで実施した。なお、以下に取り上げるパネル展を実施していない時期には、開館時より継続的に実施しているパネル展「福岡県の世界遺産登録推進活動—宗像・沖ノ島と関連遺産群—」を実施し、また正面玄関右側の回廊では、三沢遺跡を紹介するパネル展も行った。

○パネル展「1974 年～75 年の太宰府（春夏秋冬）—石丸洋氏寄贈写真から—」

会期：平成 27 年 9 月 3 日（木）～10 月 12 日（月・祝）

会場：九州歴史資料館 1 階第 1 展示室前壁面および 2 階第 3 展示室前壁面

内容：石丸洋氏は、九州歴史資料館において写真担当を務めた技術職員である。業務以外でも長年福岡県および九州の様々な文化財写真を撮り続け、特に太宰府周辺や九州各地の遺跡や寺院等について、季節感のある写真も積極的に残してきた。石丸氏は平成 26 年 12 月に逝去されたが、その半年前にこれらの写真フィルム等 2890 点について当館へ寄贈いただいていた。本展では、それらの写真の中から 1974-75 年の太宰府周辺の春夏秋冬を捉えた写真を公開し、数十年前の太宰府の風景を紹介するとともに

に、石丸氏と交流のあった人物の回想などもパネルで展示し、文化財写真という分野において石丸氏が果たした功績を紹介する展示とした。

○パネル展「朝鮮半島の文化遺産（５）—朝鮮王朝の城郭—」

会期：平成27年10月6日（火）～12月27日（日）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：朝鮮半島には、古代より山城、官衙、寺院など、数多くの文化遺産がある。これらは北部九州の歴史の解明に係るものも多く、福岡県では韓国国立文化財研究所と研究交流事業を行い、これらの文化遺産について調査研究を行ってきた。さらにその研究成果の公開として、当館では西谷名誉館長撮影による朝鮮半島の城郭等の写真をシリーズで展示してきた。



パネル展「朝鮮半島の文化遺産」

5回目となる本展では、朝鮮王朝時代の城郭等について展示した。朝鮮王朝が築いた都城の城門や山城、烽燧台（のろし台）、さらに豊臣秀吉の朝鮮出兵の際に日本側が築いた倭城にいたるまで、多種多様な城郭を24枚の写真で展示した。

なお、平成28年度以降においては、新シリーズとして、同じく西谷名誉館長撮影の写真で構成されるパネル展「シルクロードの文化遺産」を実施する予定である。

○パネル展「ふくおか古墳日和」

会期：平成27年12月1日（火）～平成28年1月24日（日）

協力：海鳥社

会場：九州歴史資料館 第4展示室

内容：北部九州に築かれた古墳は、地域の貴重な文化財であると共に、当時とは様相を変えながらも今なおその姿を残し、人々の暮らしの中で「風景」の一部として佇んでいる。今回の展示では、これまで数多くの調査を行った当館職員が、これら古墳を「文化財」としてのみならず、身近な「風景画」として撮影した写真をパネルにて紹介した。考古学に携わる者のみならず、一般の方々にもこれまでとは異なる視点から、地域にある古墳を風景としてとらえ、興味をもっていただく機会を提供する展示とした。



パネル展「ふくおか古墳日和」

○パネル展「明治日本の産業革命遺産」世界遺産登録記念

「福岡鉄道遺産ものがたり3～三池の炭鉱鉄道編～」

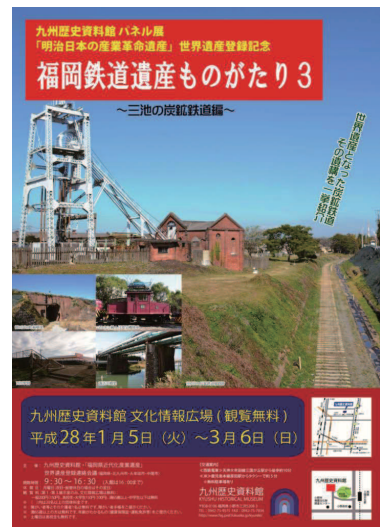
会期：平成28年1月5日（火）～3月6日（日）

主催：九州歴史資料館・「福岡県近代化産業遺産」世界遺産登録連絡会議（福岡県・北九州市・大牟田市・中間市）

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：近代の福岡県では、多くの旅客・貨物輸送に対応すべく、濃密な鉄道網が形成され、鉄道施設も戦前から数多く建設されてきた。そしてその中には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは鉄道輸送の姿を通して、福岡県が日本の近代化に貢献していたことを示すものであり、当館ではこれまでも「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、鹿児島本線と糟屋地区の鉄道遺産を紹介してきた。

3回目の今回は、27年に実現した「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の世界文化遺産登録を記念し、「福岡県近代化産業遺産」世界遺産登録連絡会議と共同して、世界遺産の重要な構成資産でもある三池炭鉱の専用鉄道跡を中心とするパネル展を行った。現存する機関車、路盤等の各鉄道遺産の写真と、解説と路線図、年表等を展示し、世界遺産となった鉄道遺産について、広く一般に紹介する展示とした。



パネル展「朝鮮半島の文化遺産」

○パネル展 平成27年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～見てみんな！まちのたから～」

会期：平成28年3月8日(火)～3月21日(月)

主催：筑紫地区社会教育振興協議会 文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

会場：九州歴史資料館2階 文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川町）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、「見てんね！まちのたから」をテーマとし、各自治体内における昨今の文化財のトピック事項等について、文化財の種別を問わず広く紹介した。



パネル展「筑紫地区文化財写真展」

○パネル展 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2015-2016

会期：平成28年3月23日(火)～6月19日(日)

会場：文化情報広場 文化財整理・保存科学見学回廊光学調査室

内容：25年に発見された古賀市船原古墳遺物埋納坑は古墳時代の馬具等が大量に埋納され、その質の高さと豊富さが注目されている。当館では、発掘調査段階から、遺物の保存処置や科学的調査について支援に入っている。本展では、文化情報広場にて当館設置のX線CTスキャナを活用した新しい手法による調査や保存処理から得られた最新成果の中から、馬具・辻金具・農工具・鉄釘の構造解析成果を中心に紹介した。併せてCTデータから3Dプリンタで出力した原寸のガラス装辻金具を展示した。



パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2015-2016」

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示等のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、27年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、25年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。27年度の実績は考古資料貸出63件、同一次利用41件（延べ48日間）、写真資料貸出・掲載許可134件、文書・典籍資料貸出4件、同一時利用56件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	奈良文化財研究所	1130点	汐井掛遺跡出土ガラス玉	調査研究のため	27.4.21～6.20
2	奈良大学博物館	24点	大野城跡出土刻書木柱等	「発掘された古代国家」の展示のため	27.2.20～6.20
3	九州国立博物館	4点	西新町遺跡出土遺物	「海の道、アジアの路」の展示のため	27.5.1～28.4.30
4	大宰府展示館	9点	大野城跡出土瓦等	「四王寺山今昔散歩－大野城・基肆城築造1350年記念展－」の展示のため	27.7.1～8.30
5	海の道むなかた館	19点	田中幸夫資料等	「鈴の文化史」の展示のため	27.9.29～11.15
6	甘木歴史資料館	32点	砥上上林遺跡出土遺物等	「筑前東南部の山城」の展示のため	27.6.30～27.9.4
7	奈良文化財研究所	1928点	ハサコの宮2号墳等出土ガラス玉	調査研究のため	27.6.19～9.18
8	吉野ヶ里歴史公園	11点	日永遺跡等出土遺物	「よみがえる邪馬台国 倭人伝の道Ⅲ－テケノポリス国家 奴国－」の展示のため	27.9.3～1120
9	九州国立博物館	6点	真浄寺2号墳出土短甲 西新町遺跡出土遺物	「海の道、アジアの路」の展示のため	27.6.30～27.8.31 27.6.30～28.3.31*
10	福岡市博物館	49点	西新町遺跡等出土遺物	「新・奴国展～ふくおか創世記～」	27.10.8～27.12.25
11	海の道むなかた館	2点	太祖神社蔵石造狛犬	「鈴の文化史」の展示のため	27.9.7～11.30
12	杵築市教育委員会	1点	水城出土敷粗梁	「木付城・藩主御殿、そして城下町「杵築」のはじまり」の展示のため	27.7.29～9.30
13	行橋市教育委員会	191点	福原長者原遺跡出土遺物	福原長者原遺跡調査指導委員会における調査のため	27.7.23～8.14
14	太宰府市文化ふれあい館	19点	水城跡等出土遺物	「まるごと太宰府歴史展2015」の展示のため	27.8.4～27.11.3
15	国指定史跡船迫窯跡公園体験学習館	7点	大宰府政庁跡出土鴟尾	「古代瓦の世界展」の展示のため	27.10.6～12.11
16	行橋市教育委員会	191点	福原長者原遺跡出土遺物	福原長者原遺跡調査指導委員会における調査のため	27.8.15～27.10.31
17	九州国立博物館	16点 一括	大宰府政庁周辺官衙跡出土土器等 大宰府政庁跡出土小札	「海の道、アジアの路」の展示のため	27.9.1～12.31
18	九州国立博物館	10点	伝北九州出土四乳文鏡等	「海の道、アジアの路」の展示のため	27.9.29～28.3.31
19	甘木歴史資料館	3点	西法寺遺跡出土遺物	「黒川院調査と山岳宗教」の展示のため	27.9.29～12.4
20	小郡市埋蔵文化財センター	3点	三沢遺跡出土遺物	「歴史を未来へ」の展示のため	27.9.11～28.1.29
21	九州国立博物館	4点	浦ノ田遺跡出土蔵骨器等	「太宰府天満宮の地宝」の展示のため	27.11.6～28.3.31
22	那珂川町教育委員会	一式	安徳大塚古墳調査図面及び写真	「那珂川黎明2015」の展示のため	27.10.1～12.25
23	広川町古墳公園資料館	1点	鈴ヶ山2号墳出土円頭大刀柄頭象嵌資料	「古墳時代の飾り大刀～福岡県の円頭大刀柄頭」	27.11.4から12.11
24	みやこ町歴史民俗博物館	31点	下伊良原中ノ坪遺跡出土資料等	常設展示のため	27.11.12～28.3.31
25	九州国立博物館	1点	観世音寺跡付近出土土製真形釜	「芦屋鋳物師－中世鑄金の美と受け継がれた技－」の展示のため	27.12.16～28.4.30
26	九州国立博物館	8点	大宰府政庁周辺官衙跡出土土器等	「海の道、アジアの路」の展示のため	28.1.1～28.4.29
27	行橋市歴史資料館	61点	延永ヤヨミ園遺跡出土遺物	「発掘された港町－延永ヤヨミ園遺跡－」の展示のため	28.2.3～3.25
28	那珂川町教育委員会	一式	安徳大塚古墳調査図面及び写真	調査概報作成のため	27.12.24～28.3.31
29	大阪府立弥生文化博物館	17点	曲り田遺跡出土鉄斧等	「鉄の弥生時代－鉄器は社会を変えたのか？」の展示のため	28.4.13～6.28
30	太宰府市文化ふれあい館	3点	大野城跡出土瓦等	「歴史の散歩道」の展示のため	28.3.17～
31	九州国立博物館	6点	栗田遺跡出土丹塗土器等	全国高等学校考古名品展2016」の展示のため	28.4.27～

考古資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4点	甕棺	展示等利活用のため	25.7.1～28.6.30
2	京都国立博物館	1点	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	27.1.1～29.12.31
3	国立羅州文化財研究所	1点	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	26.2.2～29.2.2
4	九州国立博物館	255点	門田遺跡出土細石刃ほか	文化交流展示室展示等のため	27.4.1～28.3.31
5	国立歴史民俗博物館	7点	横隈山遺跡出土炭化米、広田遺跡出土浅鉢・深鉢	総合展示のため	27.4.1～28.3.31
6	岩手県立博物館	4点	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究のため	27.4.1～28.3.31
7	福岡県立筑豊高等学校	250点	旧福岡県立筑豊工業高等学校所蔵関係資料ほか	資料室展示のため	27.4.1～28.3.31

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
8	粕屋総合庁舎	20点	箱崎遺跡出土品	展示ケース展示のため	27.4.1～28.3.31
9	甘木歴史資料館	27件	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・治部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡・菩提寺古墳群・仙道古墳・真奈板遺跡・観音塚古墳・湯の隈古墳出土品	常設展示のため	27.4.1～28.3.31
10	求菩提資料館	10点	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬萊鏡	常設展示のため	27.4.1～28.3.31
11	福岡市博物館	2点	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	27.4.1～28.3.31
12	老司公民館	6点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	27.4.1～28.3.31
13	古都大宰府保存協会	29点	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示のため	27.4.1～28.3.31
14	大野城市牛頸ダム記念館	104点 8点	牛頸須恵器窯跡出土資料 牛頸須恵器窯跡写真パネル	牛頸ダム記念館における展示のため	27.4.1～28.3.31
15	筑紫野市歴史博物館	108点	剣塚遺跡・剣塚3号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土品	常設展示のため	27.4.1～28.3.31
16	直方市教育委員会	72点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示のため	27.4.1～28.3.31
17	古賀市教育委員会	19点	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山8号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示のため	27.4.1～28.3.31
18	春日市教育委員会	6点	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示のため	27.4.1～28.3.31
19	伊都国歴史博物館	173点	三雲南小路遺跡出土資料他	展示等利活用のため	27.4.1～28.3.31
20	八女市教育委員会	1点	真淨寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史文化交流館常設展示のため	27.4.1～28.3.31
21	みやま市教育委員会	31点	上枇杷遺跡・権現塚南遺跡・大江北遺跡・三船山遺跡・金栗遺跡出土資料	みやま市歴史資料館展示のため	27.4.1～28.3.31
22	みやま市教育委員会	17点	清水山遺跡群礫石器・坂田中園遺跡縄文土器・権現塚遺跡群弥生土器・九折大塚古墳出土土埴輪	みやま市歴史資料館展示のため	27.4.1～28.3.31
23	小郡市埋蔵文化財調査センター	262箱 一式	津古内畑遺跡第3,4,5次調査出土資料 津古内畑遺跡第3,4,5次調査図面及び写真	報告書作成のため	27.4.1～28.3.31
24	筑前町教育委員会	174箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で利活用のため	27.4.1～28.3.31
25	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺跡・辻畑遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・戸原堀ノ内遺跡・井山古墳群出土資料	展示等利活用のため	27.4.1～28.3.31
26	香春町教育委員会	84点	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土遺物	町民センター歴史資料室展示のため	27.4.1～28.3.31
27	みやこ町教育委員会	23点	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土品	みやこ町歴史民俗博物館常設展示のため	27.4.1～28.3.31
28	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門窯跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗資料館等で利活用のため	27.4.1～28.3.31
29	篠栗町教育委員会	117点	高田遺跡・トヲノ尾遺跡・塚元遺跡出土遺物	篠栗町歴史民俗資料室展示のため	27.4.1～28.3.31
30	須恵町教育委員会	419点	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示のため	27.4.1～28.3.31
31	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2点	永岡遺跡出土甕棺上下襖	常設展示のため	27.9.1～28.8.31
32	栃木県立博物館	2点	門田遺跡・甕棺上下襖	常設展示のため	27.10.1～28.9.30

考古資料の一時利用（資料見学）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	吉野ヶ里歴史公園	11点	東小田七板遺跡等出土遺物	展示に伴う資料調査のため	27.5.15
2	個人	40点	西新町遺跡出土山陰系土師器	調査研究のため	27.6.15
3	九州国立博物館	一式	大野城跡出土軒瓦等	展示に伴う資料調査のため	27.6.17
4	個人	一式	大宰府条坊跡出土東播系須恵器	調査研究のため	27.6.18
5	太宰府市文化ふれあい館	一式	大野城跡出土軒瓦等	展示に伴う資料調査のため	27.6.25
6	個人	75点	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土漆附着土器	調査研究のため	27.6.25
7	九州国立博物館	一式	田中コレクション等	展示に伴う資料調査のため（撮影）	27.7.7
8	個人	20点	永岡遺跡出土甕棺	修士論文作成のため	27.7.18
9	個人	16点	観世音寺跡等出土百濟系軒丸瓦	調査研究のため	27.7.25
10	個人	一式	クリナラ遺跡・小柳遺跡出土粘土土器	レプリカ法による調査研究のため	27.8.4
11	個人	一式	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土漆附着土器	調査研究のため	27.8.6～7
12	個人	2点	門田遺跡出土瓜形土器	調査研究のため	27.8.17
13	小郡市埋蔵文化財調査センター	一式	三沢遺跡出土土器	展示に伴う資料調査のため	27.8.26
14	個人	一式	門田遺跡出土土器	調査研究のため	27.9.15
15	個人	一式	門田遺跡出土土器	修士論文作成のため	27.9.16
16	個人	一式	宮原金原遺跡・宝満山遺跡群出土製鉄関連遺物	調査研究のため	27.9.18～19
17	個人	59点	大宰府史跡出土木簡	調査研究のため	27.9.18
18	国立歴史民俗博物館	一式	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土漆附着土器	調査研究のため	27.9.20
19	個人	一式	大宰府史跡出土東播系須恵器鉢	論文作成のため	27.9.21
20	個人	1点	塚田古墳出土琴柱形石製品	調査研究のため	27.9.26
21	個人	一式	羽根戸古墳群出土土器	調査研究のため（鞠智城特別研究）	27.10.26

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
22	九州旧石器研究会	114点	原の東遺跡等出土石器	調査研究のため	27.10.31～11.1
23	出光美術館	15点	内ヶ磯窯跡出土陶片	展示に伴う資料調査のため	27.11.12
24	個人	135点	福原長者原遺跡出土土器	論文作成のため	27.11.13
25	個人	282点	延永水鳥遺跡等出土土器	論文作成のため	27.11.23～27
26	広川町教育委員会	1点	鈴ヶ山2号墳出土円頭大刀柄頭象嵌資料	展示に伴う資料調査のため (CT)	27.11.30
27	個人	2点	真浄寺2号墳出土短甲	調査研究のため (科研)	27.12.7
28	個人	一式	金光寺跡・観世音寺跡出土高麗青磁	論文作成のため	27.12.10
29	研究会	一式	門田遺跡等出土ガラス玉	調査研究のため	27.12.18
30	個人	13点	大宰府史跡出土木簡	調査研究のため	27.12.22
31	(公財) 鹿児島県埋蔵文化財調査センター	10点	下林西田遺跡等出土土器	資料調査のため	28.1.6
32	行橋市教育委員会	一式	延永ヤヨミ園遺跡出土木樋	展示に伴う資料調査のため	28.1.20
33	九州国立博物館	一式	栗田遺跡出土丹塗土器	展示に伴う資料調査のため	28.2.4
34	個人	一式	勝浦峯ノ畑古墳出土馬具	調査研究のため	28.2.12
35	個人	9点	曲り田遺跡出土磨製石剣	論文作成のため	28.2.15
36	福岡市	一式	汐井掛遺跡出土鉄器等	展示に伴う資料調査のため	28.2.16
37	大阪府立弥生文化博物館	17点	曲り田遺跡等出土鉄器	展示に伴う資料調査のため	28.2.19
38	個人	2点	東小田七板遺跡・道場山遺跡出土鉄戈	論文作成のため	28.2.22
39	個人	一式	内ヶ磯窯跡・大宰府史跡出土貿易陶磁器	調査研究のため	28.2.25
40	荒神谷博物館	17点	曲り田遺跡等出土遺物	展示に伴う資料調査のため	28.3.11
41	古代歴史文化協議会共同調査研究事業	一式	勝浦峯ノ畑古墳出土玉類	調査研究のため	28.3.18

文書・典籍資料の貸出一覧 (長期)

番号	貸出先 (機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	27.4.1～28.3.31
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	27.4.1～28.3.31

文書・典籍資料の貸出一覧 (短期)

番号	貸出先 (機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	7点	地図・絵図史料・絵葉書資料	企画展「地図・絵葉書でめぐる大牟田炭都物語」に展示のため	27.8.27～28.12.22
2	福岡市博物館	3点	福岡藩関係史料	企画展「黒田斉清という殿様」に展示のため	28.2.4～28.4.20

文書・典籍資料等の一時利用 (資料見学等)

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
1	個人	106点	安高文書	調査研究のため	27.4.9～28.2.24
2	柳川市史編さん係	320点	野田文書	市史編さんのため	27.4.10～28.3.18
3	個人	11点	西日本新聞 (紙焼)・伊東 (尾) 文書	調査研究のため	27.4.17～27.4.24
4	個人	17点	農務事蹟 (紙焼)・共武政表 (紙焼)・国立公文書館所蔵資料 (紙焼)・両筑新報 (紙焼)	調査研究のため	27.4.21～27.10.24
5	個人	2点	地図・絵図資料	調査研究のため	27.4.25
6	福岡市博物館市史編さん室	67点	永江文書・花瀬村庄屋文書	市史編さんのため	27.4.29～27.5.2
7	個人	255点	一橋大学経済研究所所蔵資料 (紙焼)・福岡日日新聞 (紙焼)・地域史収集資料・熊谷文書・永江文書・銀行関係史料 (紙焼)・門司新報 (紙焼)・九州新報 (紙焼)	調査研究及び自治体史編さんのため	27.5.2～28.3.20
8	個人	3点	地図・絵図資料	調査研究のため	27.5.4
9	個人	5点	鱧水文書	調査研究のため	27.5.5
10	個人	3点	林 (美) 文書	調査研究のため	27.5.14
11	飯塚市史編さん委員会	126点	花瀬村庄屋文書	市史編さんのため	27.5.23～27.5.24
12	個人	2点	永江文書	調査研究のため	27.6.6～27.6.12
13	個人	13点	中尾文書	調査研究のため	27.6.7
14	個人	3点	藤井 (甚) 文書	調査研究のため	27.6.20
15	柳川古文書館	11点	伊東 (尾) 文書	展示事前調査	27.7.9
16	大牟田市立三池カルタ・歴史資料館	9点	地図・絵図資料・絵葉書資料・永江文書・野田文書	展示事前調査	27.2.22
17	個人	14点	花瀬村庄屋文書	調査研究のため	27.7.25
18	個人	3点	福岡藩関係史料・中尾文書	調査研究のため	27.8.4
19	個人	17点	園田文書・石野家文書	調査研究のため	27.8.6
20	個人	3点	高島文書	調査研究のため	27.8.12～27.8.13
21	個人	9点	地図・絵図資料・林 (美) 文書	調査研究のため	27.8.19
22	個人	17点	野田文書	調査研究のため	27.8.22
23	みやま市教育委員会	165点	野田文書	市史編さんのため	27.8.27～27.9.2
24	個人	4点	福岡日日新聞 (紙焼)・永江文書	調査研究のため	27.9.9
25	個人	113点	永江文書	調査研究のため	27.9.9～27.9.12

番号	所属	点数	利用資料名	利用目的	利用期間
26	個人	2点	絵葉書資料・福岡日日新聞(紙焼)	調査研究のため	27.9.30
27	個人	48点	地図・絵図資料・絵葉書資料・野田文書・戦時婦人生活資料	調査研究のため	27.10.1～27.10.21
28	個人	2点	絵葉書資料・福岡日日新聞	調査研究のため	27.10.4
29	個人	5点	足立文書・地図・絵図資料	調査研究のため	27.10.7
30	福岡市博物館市史編さん室	3点	野田文書・永江文書	市史編さんのため	27.10.9
31	個人	15点	林(美)文書	調査研究のため	27.10.11
32	個人	6点	足立文書	調査研究のため	27.10.11
33	個人	10点	中尾文書・藤井文書・「糟屋郡史」編纂資料	調査研究のため	27.10.15～27.11.12
34	新修宗像市史編纂委員会	1点	伊東(尾)文書・目録	市史編さんのため	27.10.23
35	個人	1点	山北村庄屋文書	史料翻刻のため	27.10.29
36	個人	15点	篠田文書・地図・絵図資料	調査研究のため	27.10.30～27.10.31
37	個人	3点	林(美)文書	調査研究のため	27.11.3
38	個人	2点	藤井文書	調査研究のため	27.11.8
39	個人	3点	大川架橋工事関係資料	調査研究のため	27.11.17
40	個人	52点	野田文書	調査研究のため	27.11.19～27.11.22
41	個人	15点	篠田文書	調査研究のため	27.11.22～27.11.23
42	福岡市総合図書館	7点	福岡藩関係史料	調査研究のため	27.11.26
43	福岡市博物館	3点	福岡藩関係史料	展示事前調査	27.12.15
44	大野城市教育委員会	40点	福岡日日新聞(紙焼)	調査研究のため	28.1.5～28.3.26
45	個人	6点	花瀬村庄屋文書	調査研究のため	28.1.17
46	個人	3点	福岡藩関係史料	調査研究のため	28.2.3
47	個人	1点	地図・絵図資料	調査研究のため	28.2.13
48	個人	7点	地図・絵図資料	調査研究のため	28.2.14
49	個人	2点	山北村庄屋文書	史料翻刻のため	28.2.21
50	個人	3点	地図・絵図資料	調査研究のため	28.2.28
51	個人	1点	地図・絵図資料	調査研究のため	28.2.28
52	江東区地域振興部文化観光課	5点	野田文書・福岡藩関係史料	調査研究および文化財行政等に供するため	28.3.2
53	個人	1点	福岡藩関係史料	調査研究のため	28.3.8
54	個人	3点	伊東(尾)文書・福岡日日新聞(紙焼)	調査研究のため	28.3.10
55	個人	7点	野田文書・藤井文書・福岡藩関係史料	調査研究のため	28.3.13
56	個人	30点	戸川(博)文書・永江文書	調査研究のため	28.3.16～28.3.17

写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
1	太宰府文化遺産調査ボランティア四王寺山勉強会	2点	大野城跡百間石垣写真 筑前三笠郡岩屋城圖写真	『大野城太宰府旧蹟全図北図現代解釈集』掲載	デジタルデータ
2	共同通信社	1点	宮ノ本遺跡出土「買地券」赤外線写真	『発掘された日本列島2015 新発見考古学速報』掲載	許可のみ
3	西日本新聞社	1点	王塚古墳石室内写真	『西日本新聞』掲載	デジタルデータ
4	九州朝日放送	1点	王塚古墳石室内写真	王塚古墳特別公開情報番組で使用	デジタルデータ
5	都城市教育委員会	1点	宮ノ本遺跡出土「買地券」赤外線写真	企画展『「都城」ができるまで』に展示	許可のみ
6	世界思想社教学社	1点	仁右衛門畑遺跡1号住居跡出土土器：甗写真	『2016-2017年版大学入試シリーズ 愛知淑徳大学』作成に使用	許可のみ
7	NHK放送局	14点	石崎曲り田遺跡出土玉写真 柏田遺跡出土玉写真 高原遺跡出土玉写真、クリナラ遺跡出土玉写真、上唐原清遺跡出土玉写真	『縄文玉文化の研究－九州ブランドから縄文文化の多様性を探る』掲載	許可のみ
8	NHK放送局	1点	「大宰府政庁と周辺の役所」再現図	NHK福岡「ロクいち！福岡」内「大宰府が日本遺産に指定」(仮定)で放送	デジタルデータ
9	VSQ(テレビ西日本)	2点	水城調査時の断面写真 大宰府政庁跡出土鬼瓦写真	テレビ西日本「ももち浜ストアアタ方版」内で大宰府の歴史紹介にて使用	デジタルデータ
10	RKB映画社	1点	大野城百間石垣写真	「ふくおかクロニカル～福岡ゆかりの人々～」内にて放送。および福岡銀行内にて一定期間放映。	デジタルデータ
11	VSQ(テレビ西日本)	1点	大宰府政庁復元模型写真	テレビ西日本「ももち浜ストアアタ方版」内で大宰府の歴史紹介にて使用	デジタルデータ
12	ダンスオンザグラウンド	2点	徳永川ノ上遺跡出土鉄製釣り針写真 徳永川ノ上遺跡模型等	『フィッシングカフェ 2015年夏号』掲載	許可のみ
13	ジュンプロダクション	1点	大宰府展示館内の展示資料一式(福岡県所蔵のみ許可)	角川書店発行「月刊少年エース」連載漫画テレビアニメ版の背景描写資料として使用	許可のみ
14	甘木歴史資料館	33点	砥上上林遺跡航空写真・1号井戸写真 志波桑の本遺跡1号落ち込み写真 小幡政義氏山城鳥瞰図写真 「福岡中近世城館跡1」掲載写真	夏季特別展「筑前南部の山城」に展示	デジタルデータ
15	太宰府文化遺産調査ボランティア四王寺山勉強会	1点	大野城跡太宰府口城門発掘調査写真	『大野城太宰府旧蹟全図北図現代解釈集』掲載	デジタルデータ
16	太宰府市文化ふれあい館	1点	大野城土塁線写真	「ちょ古旅♪太宰府パネル展」に展示	許可のみ
17	荒神谷博物館	2点	汐井掛遺跡第115号土壇出土ヒスイ製異形勾玉等写真	特別展「未慮国－ひすいと青銅器の国」図録に掲載	デジタルデータ
18	生活の友社	2点	王塚古墳玄室写真	『アートコレクターズ 7月号』掲載	デジタルデータ
19	洋泉社	1点	基肆城跡全景空撮写真	基肆城跡説明資料として使用	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
20	宇美町教育委員会	1点	大野城跡全景空撮写真	文化財講演会「発見！糟屋」広報配布物に掲載	デジタルデータ
21	越前町織田文化会館	1点	観世音寺梵鐘写真	企画展覧会図録『神と仏 祈り・崇り・祀りの精神史』および常設展示パネルに掲載	デジタルデータ
22	古都大宰府保存協会	19点	四王寺山関係画像	大宰府展示館「大野城・基肆城築造 1350年記念展」に展示、および来館者用解説配付資料に掲載	デジタルデータ
23	ラブエフエム国際放送	3点	水城復元図、大宰府羅城復元図 大野城太宰府口城門復元図	山笠における1350年関連のパネルに展示	許可のみ
24	帝国書院	1点	大野城および水城跡航空写真	中学校社会科（歴史的分野）教科書『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』掲載	許可のみ
25	羽鳥書店	1点	竹原古墳壁画写真	『日本美術の歴史』中国版に掲載	許可のみ
26	NHK福岡放送局	1点	筑豊工業高校資料写真	NHK総合・福岡県域ニュース内で放送	許可のみ
27	熊本県立装飾古墳館	1点	大野城跡および大宰府政庁跡写真	『古代山城紹介パンフレット 発見★古代山城』掲載	デジタルデータ
28	福岡市博物館	5点	水城跡全景航空写真 水城跡経線S X 111 全景写真、同経筒・短刀埋納状況写真、同経筒副納品写真 大野城市古野遺跡4次経線遺構出土銅製経筒X線CTスキャナ画像	企画展『経線フロンティア 2015』パネルに展示	デジタルデータ
29	西日本新聞	4点	八ツ並礎石群写真、朝鮮式山城と神籠石系山城の配置図、基肆城木簡写真、軸受金具写真	「大野城・基肆城 1350年」に関する新聞記事連載に掲載	デジタルデータ
30	H C X クリエーターズネット	3点	大宰府政庁復元模型写真	福岡ワンミニット・フィルム・コンペティションに応募する短編映像作品に使用	デジタルデータ
31	西日本文化協会	3点	昭和44年大宰府史跡南門、中門の発掘現場写真、藤井功氏による発掘調査指導委員会案内の写真、九州国立博物館航空写真	「九州国立博物館開館10周年に想う 古都大宰府の礎―藤井功さんと西高辻信貞宮司―」の資料として使用	デジタルデータ
32	福岡市教育委員会	1点	観世音寺出土宝亀11年具注曆断簡赤外線写真	埋蔵文化財センター展示パネルに掲載	デジタルデータ
33	さくら組	7点	大野城復元図、大野城跡航空空撮写真 水城跡航空写真、水城濠発掘写真 水城復元図 高床式倉庫群想像図、高床式倉庫想像図	T V Q九州放送番組「土曜の夜はおとななテレビ」で大野城を紹介するため	デジタルデータ
34	太宰府文化遺産調査ボランティア四王寺山勉強会	1点	太宰府口城門復元図	『大野城太宰府旧蹟全図北現代解釈集』掲載	デジタルデータ
35	熊本県立装飾古墳館	1点	王塚古墳石室写真	「双脚輪状文の交流―装飾古墳の双脚輪状文と和歌山県岩橋千塚古墳群出土埴輪を考える―」展で展示	デジタルデータ
36	ジャパン通信情報センター	1式	延永ヤヨミ園遺跡の記者発表資料、同遺跡遺構図・木樋実測図、木樋出土状況写真、木樋写真	『文化財発掘出土情報 2015年10月号～11月号(予定)』掲載	デジタルデータ
37	大野城市シニアクラブ連合会	2点	太宰府口城門復元図、太宰府口城門写真	『シニア大野城』掲載	デジタルデータ
38	九州国立博物館	1点	大宰府政庁復元模型写真	トピック展「新羅王子がみた大宰府」図録およびパネルに掲載	デジタルデータ
39	小郡市	1点	九州歴史資料館外観正面写真	東京日本橋イベント事業「七夕の里おごおりキャンペーン」における観光地紹介パネルに掲載	デジタルデータ
40	東通メディア	1式	大宰府政庁模型写真および太宰府展示館内所蔵品	「九州 中世城郭探訪」作成のため	デジタルデータ
41	国立公州博物館	7点	水城浮葉層出土状況写真、水城版築技法調査写真、水城城壁断面写真、大野城版築工法模式図、墨書土器「大城」写真、蓮花文軒丸瓦写真、大野城跡土壘写真	特別展「百済以降の百済」に展示	デジタルデータ
42	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	1点	三雲遺跡出土ファイアンス玉写真	『鹿田発掘30年 弥生時代を語る(仮)』掲載	デジタルデータ
43	宇美町教育委員会	4点	大野城跡空撮写真、百間石垣写真、大宰府政庁と大野城の位置図、大野城跡全体図	『発見！糟屋文化財講演会「かすやの発掘最前線」資料集及びタペストリー』掲載	許可のみ
44	新泉社	1点	三雲南小路遺跡2号甕棺出土日光鏡写真	『森浩一著作集第2巻 和泉黄金塚古墳と銅鏡』掲載	許可のみ
45	国立羅州文化財研究所	4点	門田遺跡24号甕棺墓写真および図面	特別展「馬韓の首長、竜履を履く」パネル・図録に掲載	許可のみ
46	東通メディア	1点	大野城百間石垣写真	「九州城郭探訪」作成のため	デジタルデータ
47	木簡学会	4点	大宰府跡蔵司西地区出土木簡画像	『木簡研究 第37号』掲載	許可のみ
48	個人	1点	大宰府政庁復元模型写真	『麗し太宰府』掲載	許可のみ
49	古都大宰府保存協会	1点	水城跡第26次調査画像	第6回「くくりん祭」の大宰府文化遺産写真パネルに展示	許可のみ
50	山川出版社	1点	伯玄社遺跡出土石鏡画像	2015年度歴史能力検定3級日本史試験問題に掲載	許可のみ
51	交通新聞社	1式	祇園山古墳全景写真	『おとなび 12月号』掲載	デジタルデータ
52	アフロ	1点	大野城跡および水城跡航空写真	『新ワーク 歴史I』掲載	デジタルデータ
53	九州国立博物館	1点	太宰府旧蹟全図北図画像	新春展示『太宰府天満宮の地宝』図録に掲載	デジタルデータ
54	山川出版社	1点	大野城百間石垣写真	『大学の日本史1 古代(仮)』掲載	デジタルデータ
55	木簡学会	10点	大宰府跡月見山地区・蔵司西地区写真	『木簡研究 第37号』掲載	許可のみ
56	海鳥社	1点	外之隈遺跡出土土画文帯神獸鏡写真	『九州の古墳(仮題)』掲載	許可のみ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
57	宇美町教育委員会	2点	大野城跡航空写真および建物跡イメージ図	大野城跡説明看板に使用	デジタルデータ
58	中央公論新社	1点	「大神部」木簡写真	中公新書『六国史(仮)』掲載	許可のみ
59	洋泉社	1点	延永ヤヨミ園遺跡出土導水施設木樋写真	『別冊歴史REAL 発表!「歴史ニュース」ランキング2015(仮)』掲載	デジタルデータ
60	九州国立博物館	2点	九州歴史資料館開館時の外観および航空写真	「九州国立博物館史」(記念誌)作成に使用するため	デジタルデータ
61	飯塚市史編さん委員会	1点	「加麻郡」木簡赤外線写真	「飯塚市史」作成に使用	デジタルデータ
62	テレコムスタッフ	1点	「黒田家譜」巻一写真	「THE 歴史列伝」作成に使用	許可のみ
63	同成社	1点	福岡県三雲遺跡出土「竟」刻書土器写真	『古代東アジアの文字文化交流』(仮題)に掲載	許可のみ
64	古都大宰府保存協会	4点	大野城百間石垣写真、大宰府史跡遠景写真、「大城」銘墨書土器写真、増長天礎石群写真	『都府楼』第47号に掲載	許可のみ
65	みやこ町教育委員会	5点	徳永川ノ上遺跡全景写真、同遺跡4号棺出土内行花文鏡写真、同遺跡4-4棺出土土玉類写真、皆見大塚古墳全景2画像、皆見大塚古墳壁画推定復元図	パネル製作及び広報誌に掲載	許可のみ
66	とっぺん	14点	水城跡関連写真	水城跡土壘断面解説広場 解説展示(陶板)作成に使用	許可のみ
67	吉川弘文館	1点	延永ヤヨミ園遺跡出土「津」銘墨書土器赤外線写真	『日本古代の交通・交流・情報1 古代交通の制度と実態』(仮題)掲載	許可のみ
68	天理大学文学部考古学・民俗学研究室	1点	徳永川の上遺跡出土胞衣壺写真	『モノと図像から探る妖怪・怪獣の誕生』掲載	許可のみ
69	東京書籍	1点	水城跡写真	指導者用「デジタル教科書 新編新しい社会歴史」および販促用体験版に使用	許可のみ
70	宇美町	3点	大野城跡主城原礎石群写真、太宰府口城門写真、北石垣城門写真	「大野城跡(四王寺県民の森) 散策マップ」作成に使用	許可のみ
71	攻城団プロジェクト	4点	大野城全景航空写真、太宰府口城門写真、百間石垣写真、石碑(史蹟大野城四王寺跡)写真	ホームページ掲載	デジタルデータ
72	アマゾンラテルナ	1点	大宰府政庁周辺鳥瞰図	テレビ番組「高島礼子・日本の古都～その絶景に歴史あり」第29話で放映	デジタルデータ
73	宇美町教育委員会	6点	大野城跡航空写真、主城原礎石群、「大城」銘墨書土器写真、鬼瓦写真、軸受金具写真、軸受金具出土状況写真	シンポジウム「大城(大野城)の謎に迫る! -宇美町からの新たな発信-」のポスター及びチラシへの掲載	許可のみ
74	アフロ	1点	大宰府政庁復元模型写真	問題集作成のため	デジタルデータ
75	G. B.	1点	三雲南小路遺跡および出土品写真	『週刊 日本の神社』掲載	デジタルデータ
76	ネクサス	1点	筑豊工業高校資料写真(炭鉱住宅街)	テレビ番組「にっぽん! 歴史鑑定」にて放映	デジタルデータ
77	高槻市教育委員会	1点	鶴見山古墳盾持人埴輪写真	今城塚古代歴史館開館5周年記念特別展図録・写真パネル、ホームページ等に掲載	デジタルデータ
78	太宰府市日本遺産活性化協議会	3点	鴻臚館式軒丸瓦写真、文様埴輪写真、観世音寺梵鐘写真	太宰府市日本遺産多言語パンフレット・多言語ホームページ・アプリ作成	デジタルデータ
79	九州文化協会	3点	大宰府史跡出土文様埴輪2点の拓影写真	「平成27年度九州芸術祭 文学賞作品集第46号」掲載	許可のみ
80	那珂川町教育委員会	1式	安徳大塚古墳写真	安徳大塚古墳の史跡指定に伴う写真掲載等および文化財の保存・活用に資する広報活動に使用	許可のみ
81	八女市教育委員会	1点	木造聖観音立像	木造聖観音立像の説明板に使用するため	デジタルデータ
82	太宰府市	3点	文様埴輪写真、大宰府史跡第37次調査SB765建物写真、同史跡第77次調査区全景写真	大宰府学校院跡に関する説明板に使用するため	デジタルデータ
83	福岡県商工部観光・物産振興課	1式	大宰府政庁復元模型写真	「ルーツは福岡 夢は世界へ〜世界で活躍する福岡移民〜」イベントのパネル製作に使用するため	デジタルデータ
84	飯塚市史編さん委員会	1点	聖観音菩薩立像写真	『飯塚市史』掲載のため	デジタルデータ
85	大野城市教育委員会	2点	太宰府口城門写真、八ツ波礎石群全景写真	(仮称) 歴史をつなぐ路解説板に掲載	許可のみ
86	ランズ	4点	水城全景写真、大野城八ツ波礎石群全景写真、竹原古墳壁画写真、王塚古墳玄室壁画写真	『日本歴史大地図(仮題)』掲載	デジタルデータ
87	高松市教育委員会	1点	大野城百間石垣写真	屋嶋城跡パンフレットに掲載	許可のみ
88	個人	1点	大宰府史跡第45次調査SX1200出土バトナム鉄絵皿写真	「亀井明德先生追悼論集」掲載	許可のみ
89	教育出版	2点	大宰府政庁航空写真、大宰府政庁復元模型写真	『平成28年度版 中学社会デジタル教科書 歴史 未来をひらく 指導用』掲載	許可のみ
90	筑前町教育委員会	11点	水城銘墨書土器写真、大野城百間石垣写真、井上薬師堂出土1号木簡写真、大宰府下丁地区出土木簡写真、砥上山城写真、砥上山林遺跡烏帽子出土状況写真、朝倉郡地図画像、福岡県夜須郡町村合併調書画像	『筑前町史』掲載のため	許可のみ
91	目の眼	1式	観世音寺 碾磑(石臼)写真	『目の眼』4月号掲載	デジタルデータ
92	飯塚市史編さん委員会	4点	筑豊工業高校資料写真	『飯塚市史』掲載のため	許可のみ
93	古都大宰府保存協会	6点	水城西門全景写真、木樋取水部全景写真、水城銘墨書土器写真、経塚・副納品写真、鉄製鏝写真、水城復元図	特別史跡水城跡文化遺産巡りマップ」掲載	許可のみ
94	京都市	2点	内ヶ磯窯跡本体全景写真、物原における作業場・通路の復元画像	『京都市文化財ブックス第30集「三条せと物や町」- 桃山茶陶-(仮)』掲載	デジタルデータ

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
95	大阪府立近つ飛鳥博物館	2点	五郎山古墳後室奥壁壁画写真、五郎山古墳後室右壁壁画写真	平成28年度春季特別展に伴う展示パネル、図録、ならびにポスター、チラシ、ホームページ等の広報資料に掲載	デジタルデータ
96	集英社	2点	八ツ波礎石群航空写真、大宰府政庁周辺官衙推定復元図	『学習漫画 日本の歴史 2巻』掲載	デジタルデータ
97	清水書院	1点	太宰府航空写真	『高等学校日本史B 新訂版』掲載	デジタルデータ
98	東販企画	2点	大宰府政庁復原模型写真、観世音寺絵図画像	B S日テレ『ぶらぶら美術・博物館』で使用	デジタルデータ
99	飯塚市史編さん委員会	11点	宗原遺跡礎群出土状況写真、スタレ遺跡六・七号住居跡写真、同十五号住居写真、ウラン山遺跡四五・四六号袋状竪穴写真、きょう塚古墳箱式石棺蓋石写真、同石棺内人骨出土状況写真、同鹿角製刀装具写真、長浦横穴墓入口写真、同銅釧写真、長畑遺跡調査区全景写真、同一号竪穴住居写真	『飯塚市史』掲載のため	デジタルデータ
100	坂本英造商会	3点	大宰府政庁跡全景写真、大宰府政庁復元模型写真、鬼瓦写真	大宰府参道 天山の企業 PR ビデオに使用	デジタルデータ
101	個人	1式	王塚古墳ほか装飾古墳関係写真	『東北アジアの装飾古墳の研究』掲載	デジタルデータ
102	糸島市教育委員会	1式	三雲南小路遺跡出土品・調査状況写真	副読本「いとしま学」中学校版に掲載	デジタルデータ
103	九州国立博物館	22点	大宰府史跡航空写真ほか関連写真	『大宰府軍備に関する考古学的研究』掲載	デジタルデータ
104	太宰府市文化ふれあい館	1点	水城・大野城航空写真	テーマ講座「太宰府学講座」に使用	デジタルデータ
105	岩月鬼瓦	1点	大宰府政庁跡出土鬼瓦写真	カプセル入り玩具「ガチャガチャ」に使用	デジタルデータ
106	福岡地方史研究会	1点	絵葉書「海軍炭積場」画像	『福岡地方史研究 53』掲載	許可のみ
107	第13回全国藩校サミット大会実行委員会	1点	林(美)文書「学問所絵図」画像	第13回全国藩校サミット福岡大会記念誌に掲載	許可のみ
108	嘉麻市教育委員会	1点	地図・絵図史料「筑前国分間絵図」	「平成27年度嘉麻市歴史講演会ポスター」掲載	デジタルデータ
109	福岡共同公文書館	1点	地図・絵図史料「福岡県管内全図」、「大日本管轄分地図 福岡県管内全図」画像	公開講座広報用チラシに掲載	デジタルデータ
110	西日本文化協会	2点	野田文書群写真、永江文書群写真	『西日本文化』新年号(第477号)掲載	許可のみ
111	福岡市博物館	1点	旧福岡城内における県庁写真	『市史研究ふくおか』第10号に掲載	許可のみ
112	個人	2点	藤井(基)文書「小早川先師斥候引哥」、「香西流軍法免許状」	『福岡市総合図書館研究紀要』第16号に掲載	許可のみ
113	福岡市博物館	2点	永江文書「福陵新報社創立概則」(福陵新報創立規則)画像、野田大塊文書2062「書簡」(福陵新報移転式案内状)画像	『新修 福岡市史 資料編 近現代2』掲載	許可のみ
114	飯塚市史編さん委員会	4点	花瀬村庄屋文書画像	『飯塚市史』掲載	許可のみ
115	宗像市教育委員会	15点	青銅製附写真、簡型銅器写真、銅製鉛釧写真、五鈴鏡写真、環鈴写真等	海の道むなかた館秋の特別展「鈴の文化史—ムナカタの考古学5—」解説パネル・図録および広報資料に掲載	許可のみ
116	甘木歴史資料館	36点	小幡政義氏山城鳥瞰図写真、「福岡県の中近世城館跡1」掲載写真等	甘木歴史資料館夏季特別展「筑前東南部の山城」に展示	デジタルデータ
117	吉野ヶ里歴史公園管理センター	3点	日永遺跡出土広形銅矛・広形銅戈写真、中原前遺跡出土中広形銅戈鋳型写真、東小田七板遺跡出土丹塗磨研土器群写真	吉野ヶ里歴史公園特別企画展『よみがえる邪馬台国』「倭人伝の道Ⅲ—テクノポリス国家 奴国—」の展示およびリーフレット・展示パネル等へ掲載	許可のみ
118	福岡市博物館	31点	三雲南小路遺跡・門田遺跡・東小田峰遺跡等調査出土遺物写真	特別展「新・奴国展—ふくおか創世記—」図録に掲載	デジタルデータ
119	宗像市教育委員会	1点	石造狛犬一対写真	海の道むなかた館秋の特別展「鈴の文化史—ムナカタの考古学5—」解説パネル・図録および広報資料に掲載	許可のみ
120	杵築市教育委員会	1点	水城出土敷粗架写真	特別展「木付城・藩主御殿、そして城下町「杵築」のはじまり」に展示および図録等に掲載	許可のみ
121	太宰府市文化ふれあい館	3点	八ツ波礎石群航空写真等	「まるごと太宰府歴史展2015」に展示	
122	九州国立博物館	1点	墨書土器「酒」写真	文化交流展「海の道、アジアの路」に展示および図録・広報資料等に掲載	デジタルデータ
123	九州国立博物館	1点	四乳珠文鏡写真	文化交流展「海の道、アジアの路」に展示および図録・広報資料等に掲載	許可のみ
124	甘木歴史資料館	2点	西法寺遺跡俯瞰写真、西法寺遺跡7号土壙出土鉄剣・手錫杖写真	秋季特別展「黒川院調査と山岳宗教」に展示	デジタルデータ
125	小郡市教育委員会	1点	三沢遺跡遠景写真	特別展「歴史を未来へ」に展示	許可のみ
126	九州国立博物館	4点	浦ノ田遺跡出土古瀬戸蔵骨器写真、同青磁輪花碗写真、同板碑写真、大宰府政庁跡出土平瓦写真	文化交流展「大宰府天満宮の地宝」に展示および図録・広報資料等に掲載	デジタルデータ
127	那珂川町教育委員会	1式	安徳大塚古墳調査図面及び写真	平成27年度文化財展示会「那珂川黎明2015—安徳大塚古墳と周辺の遺跡展—」に展示	デジタルデータ
128	九州国立博物館	1点	土製真形釜写真	文化交流展「芦屋鋳物師—中世鋳金の美と受け継がれた技—(仮称)」に展示および図録・広報資料等に掲載	デジタルデータ
129	九州国立博物館	1点	墨書土器「酒」写真	文化交流展「海の道、アジアの路」に展示および図録・広報資料等に掲載	デジタルデータ
130	行橋市教育委員会	30点	延永ヤヨミ園遺跡出土品写真	企画展「発掘された港町—延永ヤヨミ園遺跡—」展示パネル・図録に掲載	デジタルデータ
131	那珂川町教育委員会	1式	安徳大塚古墳調査図面及び写真	安徳大塚古墳調査概報の作成のため	許可のみ
132	大阪府立弥生文化博物館	17点	曲り田遺跡等出土資料写真	平成28年度春季特別展「鉄の弥生時代—鉄器は社会を変えたのか?—」に展示	デジタルデータ(一部許可のみ)
133	太宰府市文化ふれあい館	5点	水城跡断面写真、蔵司発掘調査写真、四王寺山全景写真等	「歴史の散歩道」に展示	デジタルデータ
134	九州国立博物館	6点	丹塗土器写真、馬形埴輪写真	文化交流展「全国高等学校 考古名品展 2016」に展示および図録・広報資料等に掲載	許可のみ

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

27年度も、小学6年生、中学1年生が歴史学習する時期に合わせて3～8月に開催する企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を活用し、福岡県内の遺跡から出土した資料を教材として、学習指導要領のねらいに迫ることができるよう、来館学習を展開した。縄文・弥生時代の道具を比較し、それぞれの特色を読み取れるよう子どもたちに問いを投げかけ視点を示してから見学をさせた。長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたこと、農耕が始まったころの人々の生活や社会の



来館学習

の様子分かるように、道具を通してそれらを使っていた人々のくらしに目を向けさせた。また奈良時代の大宰府の様子についての展示からは、天皇中心の政治が自分たちのくらす地域にも及んでいたことを捉えられるよう展示資料と教科書で学習することと結びつけて説明した。

第1展示室では、様々な展示資料に興味を持たせることを目的とし、子どもたちが個々に「お気に入り」の資料を選ぶ活動を行った。子どもたちは、関心を持った資料について質問し、展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんな物なのかメモを取ったり絵を描いたりしていた。

第4展示室では、8つの遺構展示のうち小・中学校の学習内容と関連の深いものを4～5つ取り上げ、展示品に関する質問を子どもたちに投げかけながら、当時の人びとの様子や工夫を思い浮かべられるように解説を行った。子どもたちは自分の学習経験や生活経験をもとに、想像力を働かせながら質問に答え、理解を深めていた。さらに、中庭では取り上げた遺物を科学の力を駆使して分析している様子について写真を用いて解説した。土の中から取り上げられた状態の遺物、それをX線CTスキャナで撮影した物、カラーの復元予想図、そして3Dプリンターでの復元品を順に提示することで子どもたちは驚きの声をあげていた。また、土器を丁寧に修復・整理し、記録する作業についての説明も興味深く解説を聞いていた。

企画展会期後も総合的な学習の時間などでの学校団体による利用があった。27年度は視覚特別支援学校や特別支援学級からの来館もあり、事前の学校側との打ち合わせを密に行った。出土品に直接触れるハンズオン体験や銅矛のレプリカを持ち上げ重量を体感する体験などを取り入れた。その結果、「今までは博物館などは見るだけの場所でおもしろくないというイメージがあったが、説明してもらったり触らせてもらったりしたおかげで楽しいところ、また行ってみたいところと興味を持つことができた」という感想をもつ生徒もいた。

学校団体関係者の来館者総数は、以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者
4月10日(金)	小郡市立小郡小学校 6年生	123名
4月14日(火)	朝倉市立甘木小学校 6年生	105名
4月16日(木)	小郡市立三国小学校 6年生(2/4クラス)	75名

4月17日(金)	小郡市立三国小学校 6年生(2/4クラス)	75名
4月24日(金)	小郡市立大原小学校 6年生	59名
4月30日(金)	小郡市立味坂小学校 6年生	24名
5月19日(火)	小郡市立のぞみが丘小学校 6年生	183名
5月20日(水)	朝倉市立立石小学校 6年生	137名
5月22日(金)	筑後市立羽犬塚小学校 6年生	92名
6月4日(木)	小郡市立御原小学校 6年生	15名
6月11日(木)	小郡市立東野小学校 6年生	54名
6月30日(火)	柳川市立大和小学校 6年生	14名
10月1日(木)	大野城市立大野中学校 2年生	165名
10月7日(水)	熊本県立盲学校	9名
11月27日(金)	大野城市立御陵中学校 1年生	94名
2月9日(火)	小郡市立三国中学校(特別支援学級)	4名
2月19日(金)	福岡県立福岡高等視覚特別支援学校	15名
来館学習合計		1,243名

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小・中・高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び九州歴史資料館が合同で実施するものである。4者で児童生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27年度から参画させていただいた。27年度は小学校6校、中学校1校が来館した。

あらかじめ申し込み時に学校のねらいや希望する内容を記入していただいていたが、さらに事前に学校との打ち合わせを行い、学習進度、児童・生徒の関心、先生方のねらいを十分に聞いてプログラムを作成したことで、各学校のニーズに答えることができた。

一例としては、飯塚市立二瀬中学校は、関西方面への修学旅行の事前学習として来館した。学校側から、奈良で学習するということから文化財の保存や保護、学芸員の仕事について学ばせたいという要望があったために、「仏像の基本的な見方について」、「学芸員の立場から文化財を守るということについて」、「保存科学の立場から文化財を守るということに」について専門の学芸員が説明を行った。



スクールミュージアム事業「第1展示室」



スクールミュージアム事業「ハンズオン体験」

また、企画展「きゅうおにとタイムトラベル」期間中以外に来館した小学校には、新たな試みとして出土した本物の資料に直接触れる「ハンズオン体験」を行った。28年度は、学校向けハンズオン体験メニューを充実させていく予定である。

スクールミュージアム事業での来館者総数は、以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者
5月12日(火)	久留米市立西牟田小学校(6年生)	51名
5月8日(金)	柳川市立蒲池小学校(6年生)	68名
5月20日(水)	久留米市立小森野小学校(6年生)	42名
6月12日(金)	飯塚市立高田小学校(6年生)	12名
6月17日(水)	宗像市立玄海小学校(6年生)	13名
6月26日(金)	飯塚市立二瀬中学校(2年生)	133名
11月18日(水)	宗像市立南郷小学校(6年生)	41名
スクールミュージアム合計		360名

○中学校職場体験

27年度は、11校67名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。中学校校長会等での当館の事業説明の影響か、職場体験の申込みが26年度より大きく増加した。内容は館内の見学、土器の洗浄・復元、拓本、図書整理作業など博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃などいろいろな業務を体験することを通して、多くの人の様々な仕事によって館全体の事業が成り立つことや共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の在り方・生き方を考えさせる



中学校職場体験

ことを目指した。また、26年度に引き続き、不登校傾向中学生支援のフレッシュキャンプも受け入れた。

実施日と参加学校団体は、以下のとおりである。

期 間	学 校 名	参加人数
6月4日(木)	小郡市立立石中学校 2年生	7名
8月4日(火)～8月5日(水)	小郡市立三国中学校 2年生	6名
9月9日(水)～9月11日(金)	大野城市立大和利中学校 3年生	6名
9月15日(火)～9月16日(水)	太宰府市立学業院中学校 2年生	5名
12月11日(金)	フレッシュキャンプ(不登校傾向中学生支援)	15名
1月19日(火)～1月21日(木)	大野城市立大野東中学校 2年生	6名
1月27日(水)	春日市立春日野中学校 2年生	3名
1月28日(木)～1月29日(金)	筑紫野市立二日市中学校 2年生	5名
2月23日(火)～2月24日(水)	筑紫野市立筑紫野南中学校 2年生	6名
2月25日(木)～2月26日(金)	筑紫野市立筑山中学校 2年生	2名
3月2日(火)～3月3日(水)	春日市立春日東中学校 1・2年生	6名
職場体験合計		67名

○高校生インターンシップ

27年度は、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。高校教育課より受け入れ人数の増を求められたことから、26年度の1.5倍に当たる24名を受け入れた。27年度は、生徒の発達段階を考慮し、「将来進む可能性のある仕事や職業に関連する活動を試行的に体験する」という高校生のインターンシップの目的と照らし合わせて、プログラムの全面的な見直しを行った。就業体験の機会を提供するとともに、歴史系博物館ならではのプログラムを提供し、職業観・勤労観の形成と確立への支援を目指した。高校生にとっては、自己の生き方、在り方を考える時間になったと考える。



高校生インターンシップ

研修の日程、内容、参加人数は、以下のとおりである。

	午 前	午 後
1日目	開講式、オリエンテーション、館内見学	受付業務、広報普及業務
2日目	学芸員業務体験、図書整理、遺物整理	遺物整理、図書整理、広報普及業務
3日目	保存科学諸室見学、報告書作成、閉講式	

期 日	学 校 名	参加人数(名)
7月22日(水)～24日(金)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ(2年生)(戸畑2・光陵1・城南1・福岡工業2・久留米2・大牟田北2・ありあけ新世2)	12名
7月29日(水)～31日(金)	福岡県立三井高等学校(2年生)	4名
8月19日(水)～21日(金)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ(2年生)(福岡工業5・小郡1・久留米3・八女3)	12名
	インターンシップ総数	28名

○出前授業

27年度は、春日市立春日野中学校から2年生に対して、修学旅行の事前学習として出前授業の依頼があった。「近代における福岡と鹿児島との歴史的な関わり」をテーマに、鹿児島についての興味を高めることをねらいとして、教育普及担当と近代を専門とする学芸員2名で出前授業を行った。

また、同じく春日市立春日野中学校から1年生を対象としたキャリア教育として、「発掘調査技師としての職業観」についての出前授業の依頼があったが、雪のために中止となった。

○博学連携ワークショップ

期日：平成27年6月23日(火)

内容：学校教育における博物館活用の促進を図るため、学習支援の実際、博物館活用のよさの周知が必要



出前講座 学芸員による講義の様子

であるとの考えから、26年度から小学校の教員を対象として実施している事業である。「学校と博物館でつくる来館学習ワークショップ in 九歴～博物館を生かした『まなぶ・あそぶ・たのしむ』学習を先生とともに～」と銘打ち、市内や近隣地域の小学校の先生方の参加を呼びかけた。26年度は土曜日に開催したが、平日に開催して欲しいという声を反映して27年度は平日開催とした。教員の参加者は2名にとどまったが、小郡市、筑紫野市の文化財担当職員の参加があった。



博学連携ワークショップ

意見交流の場面では、博物館を活用する効果や、よりよい展示、学習活動の在り方についていろいろな意見が出された。また、当館学芸員や小郡市、筑紫野市の文化財担当職員と意見交流をすることができた。参加した教員からは「バックヤードに入って、間近に作業の様子を見ることができたこと、実際の出土資料に触れることができたことは、とても興奮した。参加して良かった。」という声が聞かれた。

意見交流を通して、博物館を活用することの教育効果を確認できた一方で、学校側が博物館を活用することの難しさや「ものやひとを学校に」という学校側のニーズを改めて確認することができた。教員を博物館を活用した学習の主体者に巻き込み、実際の学習を指導する授業者の目線、子どもたちの目線に立った声をいかして、展示や学習活動の改善を図っていくために、多くの教員が参加しやすいように日時を設定を工夫するとともに、多くの学校が来館している地元小郡市との更なる連携を視野に入れていく必要がある。

日程は以下のとおりである。

	内 容	場 所
13:30～14:00	受 付	文化情報広場
14:00～14:10	開会行事（オリエンテーション）	研修室
14:10～14:40	館内見学（展示解説）バックヤードを含む	第1・4展示室、一般収蔵庫等
14:40～15:10	出土品にふれる醍醐味～飛び出すむかしの宝物～	研修室
15:10～15:20	休 憩	
15:20～15:40	「きゅうおにとタイムトラベル」の学習の実際	第2展示室
15:40～16:20	情報交換・意見交流	研修室
16:20～16:40	閉会行事（アンケート記入）	研修室

○教員のための博物館の日 in きゅうれき

期日：平成27年11月21日（土）

内容：27年度から実施した新規事業である。学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」であるひと・もの・ことを知ってもらい、先生方に博物館を楽しんでもらおうと企画した。「博学連携ワークショップ」とプログラムは重なる部分もあるものの、主旨や実際の内容は全く異なるものである。今回は小学校・中学校の先生方を対象に募集を行ったが、当館のホームページを見た高等学校の教員からの問い合わせもあった。参加された方々は、まず、発掘された遺物が時間をかけて丁寧に修復・復元され、保存される様子を見学し、バラバラになった土器を復元する

作業の一端を自ら経験した。気の遠くなる作業や最先端の科学機器を駆使した調査、職員の思いなどを真剣に見聞きしていた。次に展示室で特別展「四王寺山の1350年―大野城から祈りの山へ―」を観覧した。大野城の築造を命じた天智天皇や室町幕府を開いた足利尊氏などが、これまでよりずっと身近に感じることができたようである。さらに、実際に発掘現場から出土した資料を手にとる「ハンズオン体験」では、矢じりや石庖丁、瓦など、縄文～奈良時代の人びとが作ったもの、使っていたものに触れてもらった。初めて実物



教員のための博物館の日 in きゅうれき

に触れて、その感触を確かめていた。最後に、感想交流である。教科書や資料集でしか目にしたことがなかったものを実際に見たり、触れたりしたことで「見て、体験できてよかった」「同僚の先生方や学級の子どもたちにぜひ伝えたい」「子どもたちを連れてきたい」という感想を得ることができた。

日程は、以下のとおりであり、教科・担当学年を問わず小・中・高 14 名の教員の参加があった。

	内 容	場 所
13:00～13:20	受 付	文化情報広場
13:20～13:40	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:40～14:40	館内見学（展示解説）バックヤードを含む	第4展示室、一般収蔵庫等
14:40～15:10	学芸員による特別展の解説付き観覧	第1展示室
15:10～15:20	休 憩	
15:20～16:00	出土品ハンズオン体験～飛び出すむかしの宝物～	研修室
16:00～16:20	シェアリング（感想交流）	研修室
16:20～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

(5) ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、27年度が第2期の26名の活動最終年度である。土・日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助などを行っており、25年度からはボランティア主催のイベントも行っている。また、古代体験の新たなプログラムの開発と実践も積極的に行っており、道具やルールを自作して復活させた古代の遊び「ぎっちょう」を土日祝日の古代体験やイベントで実施し、子どもを対象としたクテ打ち組紐教室も初めて実施した。

また26年度から行っている「グループ活動（旧グループ自主研究）」では、4つのグループに分かれて研究や調査を行い、27年度はその成果を企画展や報告会という形で一般に公開・発表した。

◎研修会

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見、識見を高めるとともに、ボランティア間の交流のため、毎月第2土曜日の午前中に定例研修会を開催している。研修会の内容は、土・日・祝日の当番の調整を行ったあと、当館学芸員による展示解説、古代体験に係る実践研修などを行った。その内容は以下のとおりである。

回数	開催日	内 容
第 1 回	4 月 11 日	展示解説「企画展 古墳から火葬墓へ」 展示解説「特集展示 延永ヤヨミ園遺跡導水施設」
第 2 回	5 月 9 日	古代体験研修「拓本採り」 展示解説「企画展 きゅうおにとタイムトラベル」
第 3 回	6 月 13 日	古代体験研修「古代衣装」 展示解説「特集展示 モダン福岡を眺める」
第 4 回	7 月 11 日	ボランティア研究成果展・発表会に向けて①
第 5 回	8 月 8 日	展示解説「企画展 小笠原文庫から見た幕末維新」
第 6 回	9 月 12 日	「飛び出すむかしの宝物」新資料解説
第 7 回	10 月 10 日	展示解説「企画展 発掘速報展 2015」 展示解説「企画展 貝原益軒」
第 8 回	11 月 14 日	展示解説「特別展 四王寺山の1350年」
第 9 回	12 月 12 日	展示解説「企画展 古代の鑄造技術」
第 10 回	1 月 9 日	ボランティア研究成果展・発表会に向けて②
第 11 回	2 月 13 日	展示解説「企画展 沖縄の旧石器人と人類の起源」 展示解説「企画展 西北九州の黒曜石と石刃技法」
第 12 回	3 月 12 日	ボランティア研究成果発表会に向けて③

○バス研修会・交流会

27年度は、2月16日（火）に伊都国歴史博物館を訪問した。伊都国歴史博物館では館との共同開催である特別展「国境の山岳信仰—脊振山系の聖地・霊場を巡る—」を学芸員の解説で学んだ。伊都国歴史博物館ボランティアの会の方の案内で館内を巡ったのち、双方のボランティア活動について報告、

意見交流を行った。運営の形態が異なるため、双方にとってよい刺激になった研修会であった。その後、国指定史跡の平原遺跡・旧藤島家住宅についてもボランティアの会の方の解説を受けて見学し、最後に一貴山銚子塚古墳を見学した。



バス研修「伊都国歴史博物館」

◎ボランティア活動

○古代体験・バックヤードツアー

土日祝日に実施している古代体験では、これまでのメニューに加え、12月～1月に開催した企画展「古代の鑄造技術」に合わせて「ミニ銅矛作り（鑄造体験）」を新メニューとして追加した。ストラップにすることもでき、手軽に作成できることから好評を得ている。また、26年度から導入した「ぎっちゃん」の簡易版も好評で、屋内のみでなく屋外で楽しむ古代体験のメニューとして定着しつつある。

また、平日を含めて実施依頼のあった学童保育所、子ども会、アンビシャス広場などの団体での「古代体験」にも館内案内と合わせて対応いただいた。

27年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。

古代体験アイテム及びバックヤード解説	体験者
「和同開珎をつくろう（鑄造体験）」（有料）	448名
「ミニチュア銅矛をつくろう（鑄造体験）」（有料）（12月～）	33名
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本とり）」	333名
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	507名
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の試着）」	206名
「パズル土器（復元体験）」	1,888名
「大宰府政庁建物の復元」	484名
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	1,092名
「きゅうおに」のぬりえにちょうせんしょう!!	508名
「きゅうおに」紙芝居	37名
飛び出すむかしの宝箱	290名
バックヤード（第4展示室含む）解説	840名
体験者延べ人数	6,666名

○ボランティアイベントの開催

25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。27年度は、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施した。歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、イベント会場には歴史的背景や関連する出土資料のパネルなどを設置して、参加者への歴史・文化の普及に供した。27年度は節句や夏休み、企画展の内容に合わせて5回を開催した。特に夏休み実施の「こども組紐教室」は、九歴ボランティアが3年間にわたり講習を受講してマスターした「クテ打ち組紐技法」の技術を応用したものである。「昔の技術を守り伝える」という講習の主旨を受け、子どもたちに技術を伝えるためボ

ランティアが講師となって実施したものである。また企画展「沖縄の旧石器人と人類の起源」の開催期間中に沖縄県立博物館・美術館及び九州旧石器研究会の協力を得て行った「石器づくり・貝器づくり」では、ボランティアが自主的に石器づくりの研修を受け、石斧や石庖丁、石鏟を長期間かけて作成するなど、積極的に取り組んだ。

27年度の実施イベントは以下のとおりである。

- ・ 5月18日（土）「おりがみで作ってみよう！いろいろな『かぶと』」

内容：五月の節句に合わせ、毎年恒例になったイベントである。様々な種類の兜の折り方をマスターし、当日は参加者に指導すると共に、27年度は大型の「被れる兜」も製作して子どもたちを喜ばせた。参加者は38人で、保護者も一緒に楽しんだ。

- ・ 8月4日（火）「こども組紐教室」

内容：24～26年度の研修によってボランティアが習得した「クテ打ち組紐技法」を活用して、小中学生対象の体験教室を開催した。定員30名に対して50名以上の参加希望があり、ボランティアと相談の上全員を受け入れた。当日は「職場体験」で来館していた中学生にも組み方を覚えてもらい、子どもたちの指導に当たってもらったところ、大きな戦力となった。参加者は42人であった。

- ・ 2月28日（日）「作ってみようよ！『M yおひなさま』『組紐ストラップ』」

内容：ひな祭りの季節に合わせ、毎年恒例になったおりがみによる自分だけのひな飾り作り、また組紐技法でストラップを作るイベントを開催した。これまでは終日で開催していたが、午前中の参加が少ないことから午後に集中して実施したところ、終日実施と同程度の参加者があった。参加者は70名で、親子連れでの参加が多かった。

- ・ 2月14日（日）「石器づくり・貝器づくりー石と貝のやじりを作ろうー」

内容：旧石器をテーマにした企画展に合わせ、古代に使用されていた種類の石や貝で石器や貝器を実際に作る体験教室を開催した。石器づくりにはやや高度な技術と、安全面への配慮が必要であることから、準備や主な指導は展示担当者と「九州旧石器研究会」のメンバーが行った。

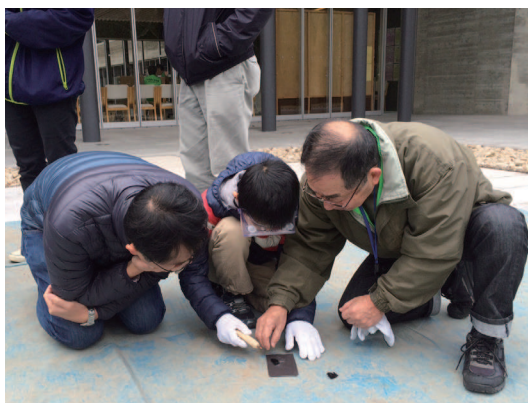
ボランティアは事前に複数回指導を受け、自身で石器を作成していたため、当日は指導補助という形で子どもたちと共に石器製作を行った。参加者は35名で、参加した子どもたちは予想以上に夢中で制作していた。

- ・ 3月6日（日）『『ぎっちょう』であそぼう！～むかしの遊びを体験しよう～』

内容：26年度にボランティアが復活させ、出土資料を参考にして作成した道具を利用して行うイベントである。土日祝日の古代体験では、中庭実施のため玉はテニスボールを使用しており、イベントでは



ボランティアイベント「作ってみようよ！『M yおひなさま』『組紐ストラップ』」



ボランティアイベント「石器づくり・貝器づくりー石と貝のやじりを作ろうー」

本物の木の玉を使って本格的に体験してもらった機会とした。参加者は15名で、当日はゲートを設置してコースを作った館の前庭で、家族で楽しんでもらった。

◎グループ活動

ボランティア各自が興味のあるテーマを設定してカテゴリーごとに4つのグループに分かれ、26年度半ばから1年半で自分たちで様々な場所に足を運び、様々な活動を行った。「グループで活動する」ことを重視した上で、独自の研究を深め、現地の方と交流し、また展示の為に資料を製作するなどテーマに合わせた内容で活動した。その成果は「九歴ボランティアグループ活動成果展」及び「成果報告会」という形で広く県民に紹介することができた。各人のテーマは様々であったが、グループで活動し互いに意見交換することでスキルアップするとともに、ボランティア同士の連携を深める契機ともなった。

各グループのテーマと概要、及び成果展・成果報告会の日程は以下のとおりである。

・『街道を行く』グループ

街道、街道沿いの史跡、近代遺産を巡り、そこに息づく文化財や行き交う人々、携わった人々の様子、技術などを追究。

「長崎街道」「教会」「JR九州肥薩線」「万葉集」「歴史から見える近未来」「近代化遺産」「仏像と修験道」

・『神さま仏さま～信仰と伝承～』グループ

天神信仰、神社の由来、仏像や狛犬、絵馬など人々の信仰と伝承について追究。

「市内の御祭神」「絵馬」「市内の仏寺」「神社の動物」「国宝十一面観音」「向源寺・法華寺像」

・『古代の道具づくり』グループ

古代の道具づくりにおける人々の苦勞・努力・工夫や知恵について、古代の石器の再現を通して追究。

「石鎌・矢じり」「石庖丁」「柳葉式石鎌」「石斧」

・『古代の土木技術・文化』グループ

古代の古墳や山城の造営における土木技術、土器作りや鋳造における技術・文化を追究。

「古墳・史跡巡り」「神籠石と鉄と渡来人」「石室と神籠石の加工技術」「神籠石と古墳」

○グループ活動成果展

会期：平成28年3月1日（火）～5月15日（日）

会場：第4展示室

○成果報告会

期日：平成28年3月19日（土）13:30～15:40

会場：研修室



グループ活動「成果報告会」



グループ活動「成果展」

(6) 普及・活用事業

各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象とした各種イベントや子ども向けの体験講座、職員による来館団体への館内案内などを実施することで、文化財の愛護思想の普及や活用に資するとともに、来館者の誘致を図った。

◎講座・講演会

○名誉館長講座

西谷正名誉館長を講師として、毎月1回実施する全12回の連続講座である。27年度のテーマは「近世の朝鮮半島」で、定員160名に対し190名の受講申し込みがあった。また、26年度に引き続き、12回すべてを受講した受講生に皆勤賞表彰を行った。

開講日、演題、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演 題	受講者数(名)
第1回	4月25日(土)	高麗の首都・開城	166名
第2回	5月30日(土)	三別抄の乱の舞台－江華島・珍島・濟州島	143名
第3回	6月20日(土)	高麗の鎮城・山城と長城	147名
第4回	7月18日(土)	高麗仏教の寺院跡と遺物	146名
第5回	8月9日(日)	高麗の王陵と墳墓	137名
第6回	9月26日(土)	高麗の土器・陶磁器と窯跡	142名
第7回	10月24日(土)	高麗青磁の起源	123名
第8回	11月28日(土)	高麗陶磁器の生産と流通－沈没船の調査成果－	133名
第9回	12月19日(土)	新安沖海底と中国出土の高麗青磁	132名
第10回	1月23日(土)	朝鮮出土の中国陶磁器と日本出土の高麗青磁	114名
第11回	2月27日(土)	高麗の祭祀遺跡と双鳳文柄鏡	129名
第12回	3月26日(土)	高麗と琉球	126名
受講者数総計			1,638名

○九歴講座

毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。年12回の開催に加え、27年度は番外編として副館長講座も開催した。27年度は延べ1,926名が受講した。

開講日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

回数	開催日	演 題	講師(所属)	受講者数(名)
第1回	4月11日	八女古墳群と筑紫君磐井	大塚恵治(八女市)	202名
第2回	5月9日	大宰府史跡の最新調査成果	岡田諭	166名
第3回	6月13日	筑前地域の中近世城館 －詳細分布調査の成果から－	岡寺良	151名
第4回	7月11日	名勝水郷柳河 ～北原白秋の詩情を育んだ風景～	堤伴治(柳川市)	128名
第5回	8月8日	小倉藩主小笠原家と小笠原文庫について	川本英紀(みやこ町)	112名
第6回	9月12日	海西に二巨儒あり－安東省菴と貝原益軒－	田淵義樹(柳川古文書館)	117名

第7回	10月10日	糟屋官衙遺跡群阿恵遺跡 —糟屋郡(評)の役所はここだった—	西垣彰博(粕屋町)	143名
第8回	11月14日	大宰府と駅家 —万葉集にみる蘆城・夷守駅家—	松川博一	155名
第9回	12月12日	求菩提歴史散歩	相良悦子(求菩提資料館)	106名
第10回	1月9日	大宰府—古代都市と迎賓施設—	井上信正(太宰府市)	170名
第11回	2月13日	沖縄の旧石器人と人類の起源	山崎真治(沖縄県)	182名
第12回	3月12日	ひみこ講座受講生の石造文化財調査	小池史哲(甘木歴史資料館)	124名
番外編	3月21日	大宰府史跡を巡る人たち	伊崎俊秋	170名
受講者数総計				1,926名

○九歴ゼミ

第2・第4水曜日の夜18:30～20:00(18:00受付開始)に実施する、当館の学芸員を講師とした専門講座である。4～6月、7～9月、10～11月の年間3期、各期6回ずつ連続講座として開講した。定員50名に対し每期それを上回る応募があったが、可能な限り受け入れる方向で対応し、応募者全員を受講生とした。

開催期間、演題、講師、各期(6回)延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	テーマ	講師	延べ受講者数
第1期	4月13日～6月22日	史料が語る大宰府の歴史	酒井芳司	324名
第2期	7月8日～9月23日	特集講義「中近世城館研究概論」	岡寺良	294名
第3期	10月14日～12月6日	韓国仏像史入門	井形進	289名
延べ受講者数総計				907名

○特別展・企画展記念講演会

定期的な講座やゼミとは別に、特別展や企画展の開催を記念して、展示内容に則した報告会や講演会、シンポジウムを開催した。

27年度は4回開催し、開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数(名)
8月29日	調査報告会2015	飛野博文・杉原敏之・小林啓(九州歴史資料館)	75名
9月7日	貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—	大庭卓也(久留米大学准教授)	112名
11月22日	大宰府四天王寺と秋田城四天王寺	三上喜孝(国立歴史民俗博物館准教授) 松川博一(九州歴史資料館)	162名
2月20日 ・21日	シンポジウム「東アジアと列島西端の旧石器文化」	小畑弘己(熊本大学文学部)・張龍俊(大韓民国・国立大邱博物館)・芝康次郎(奈良文化財研究所)ほか	188名
受講者数総計			537名

○夜のギャラリートーク

27年度も、一旦閉館した後に展示解説を行う夜のギャラリートークを実施した。当館では、来館者の観覧の妨げにならないよう第1展示室での展示解説を差し控え、それを補うために「解説シート」を無料で配布している。このため日にちを限定して徹底的に解説を行うこと、また日中には来館が難しい

現役世代や女性へのサービスを目指して閉館後の夜の時間帯に実施している。27年度は、参加者数が減少していることを鑑み、時間帯を変更して19:00に開館、19:30～20:30まで展示解説を行った。しかし参加者減少は止まらず、28年度はまた実施時間帯を検討することとしている。

企画展、特集展示、特別展それぞれの展示担当学芸員により、一つ一つの展示物について詳しく解説するとともに、その歴史的な背景やそれらにまつわる人々の思いにまでふれる説明をする。参加者は少ないものの、熱心に展示品に見入って解説に聞き入り、終了後は質疑が止まらないほどであった。

27年度は5回実施し、開催日、内容、講師、参加者数は以下のとおりである。

回数	開催日	内容	講師	参加者数
第1回	4月15日	企画展「古墳から火葬墓へ」	下原幸裕	9名
第2回	8月19日	企画展「小笠原文庫の世界」	渡部邦昭	13名
第3回	9月16日	企画展「貝原益軒と大宰府」	酒井芳司	9名
第4回	11月18日	特別展「四王寺の1350年」	松川博一	14名
第5回	2月17日	企画展「黒曜石と石刃技法」	杉原敏之	11名
参加者数総計				56名

○ふくおか県政出前講座

県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」において、県民の要請を受けて計9回の講座に赴いた。当館の提示しているテーマは「文化財の保護と活用」「福岡県の歴史と文化財」「大宰府史跡等について」「九州歴史資料館の利用について」である。27年度は中学校の修学旅行の事前学習ということで旅行先の文化財について学芸員が解説し、その内容を受けて指導主事が生徒に修学旅行先での学習の仕方などについて講義する講座も行った。

27年度の実績は以下のとおりである。

期日	テーマ	講師	依頼者
5月13日	筑紫野の古代山城について	小田和利	山家コミュニティセンター主催 講座「山家いろは塾」
6月19日	修学旅行学習会	渡部邦昭 田口和秀	春日市立春日野中学校
6月20日	大宰府史跡等について	小田和利	サクラクラブ（宮田町老人会）
8月20日	大野城跡について	小澤佳憲	南ヶ丘2区自治会ミニディ
10月1日	水城跡について	小田和利	郷土の歴史を学びあう会
11月10日	四王寺山の1350年	松川博一	つくし郷土史会
1月25日	朝倉・志波の史跡に関して	小田和利	杷木文化協会
2月9日	福岡県の近代について	渡部邦昭	つくし郷土史会
2月25日	大宰府跡・水城跡・大野城跡・観世音寺	小田和利	立石コミュニティセンター

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の普及・公開の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見ることのできるコーナーである。土・日・祝日限定で、ボランティア控え室前で実施しており、25年度からは、収蔵品に触ることができるようにするとともに、事業名を「飛び出すむかしの宝物」と改めた。また、本館開催企画展等の展示内容に対応してメニューを追加し、現在5メニュー60点を公開している。年々利用者は増加しており、当館が力を入れて広報している特徴的な活用事業である。

各メニューの利用者と27年度に改変した新資料は、以下のとおりである。

メニュー	利用件数
縄文時代メニュー	187名
発掘速報展対応メニュー（27年7月改変）	173名
江戸時代メニュー	128名
戦国時代メニュー	171名
明治・大正・昭和メニュー	145名
利用者数総計	817名



石包丁



柱状片刃石斧



袋状口緑壺



須玖式広口壺



磨製石剣

27年度に追加・交換した資料

○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった団体に対して、職員による展示や施設の解説、平日のボランティアによる古代体験の対応などを行っている。また施設の解説については、当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼は見学や研修旅行などが中心ではあるが、近年は学童保育や地域の夏休みイベントとして平日に古代体験と合わせて当館を利用したいという団体が増加している。

27年度は46団体、延べ1,172名の方々に案内を行った。

◎体験教室

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

27年度も夏休みを中心に小学生などを対象とした体験教室や七夕イベントのほか、他機関や団体との連携イベントなども開催した。連携事業としては、隣接する福岡県立小郡高等学校琴部の演奏会を当館で実施するイベントが新たに加わった。また、27年度が当館の小郡市への移転開館から5周年にあたることを記念して、記念特別展開催ともあわせて記念イベントを行った。

○こども考古学体験教室 2015（発掘速報展 2015 関連事業）

期日：平成 27 年 8 月 1 日（日） 10：00～11：30

内容：当館は毎年県内に所在する多くの遺跡の発掘調査を実施し、当館文化財整理室ではそれらの遺跡から出土した土器や石器などの洗浄や復元、実測、写真撮影、製図作業を行い、調査報告書を刊行している。当館文化財整理室で行うこの整理作業は、開館時には中庭からガラス越しに常に見学でき、またレプリカの瓦の拓本やレプリカの鬼瓦や土器・陶磁器の復元（パズル）など、整理作業内容の一部は当館ボランティアによって運営されている古代体験で休日に体験できるようになっている。



こども考古学体験教室 2015

今回発掘速報展の開催に合わせて、当館職員の指導により実際に発掘調査で出土した資料を用いて、小学生全学年を対象とした体験教室を行った。前年度のアンケート結果を踏まえて、今年度も土器の復元作業を直接体験してもらうことで、文化財に対する理解を深めてもらった。21名の参加があり、募集人数を上回り好評であった。

○なるほど!! こども歴史教室 2015「むかしの文字に触れてみよう！」

期日：平成 27 年 8 月 21 日（金）

内容：当館では夏休み期間にあわせて、小学生を対象に歴史に関する体験を行うイベントを、24 年度から継続的に実施している。

27 年度は、該当時期に実施されていた企画展「小笠原文庫から見た幕末維新」の関連イベントとして、展示の主要な要素であった古文書に使用されている文字「くずし文」をテーマに「むかしの文字に触れてみよう」という題目で実施した。最初に企画展を担当した学芸員が、くずし字に関する子ども向けの講座を行った。さらに小型のパネルに自分の名前をくずし字で書いて作る部屋用ルームプレート製作も行い、夏休みの自由研究としても活用できる工作体験となった。参加者は 16 名であった。



こども歴史教室 2015

○ナイトミュージアム in きゅうれき

期日：平成 27 年 8 月 23 日（日）・平成 28 年 1 月 11 日（月・祝）

内容：恒例のイベントであり、26 年度に引き続き夏と冬に 2 回開催した。

夏は小郡市埋蔵文化財調査センター、福岡県青少年科学館との連携により、それぞれ「火起こし体験」、「星の話、天体観察」に対する協力を得て実施した。当日は、運良く国際宇宙ステーションが肉眼でも見ることができた。天体望遠鏡を覗いて見えた月のクレーターや土星に、参加された方々も大いに喜んでいた。

冬は福岡県青少年科学館の天文ボランティアの協力により「星の話、天体観察」を行うとともに、出

土した遺物に直接触れる「飛び出すむかしの宝物」(収蔵品オンデマンド)体験を実施した。残念ながら、天候条件により天体観察はかなわなかったが、DVD視聴や星の話を楽しんでいただいた。

28年度も宿泊を行わず、夏・冬の2回の実施を予定している。

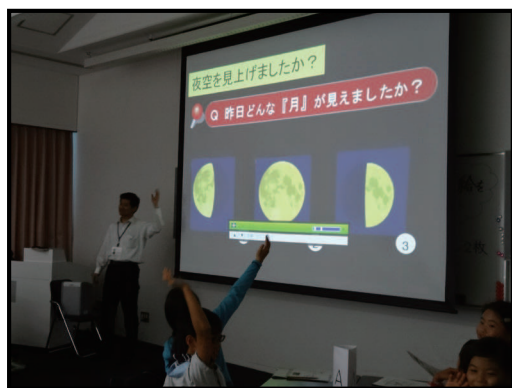
各回のプログラムと参加者は以下のとおりである。

夏：8月23日(日)参加者45名

	プログラム	活動内容	活動場所
15:30～15:45	開講式	あいさつ、日程説明	研修室
15:45～16:45	館内案内	バックヤード中心に作業・展示解説	バックヤード・展示室
16:45～18:00	火起こし体験	埋文職員指導による火起こし体験	館東軒下
18:00～18:30	軽食	持参した軽食を摂る。	研修室
18:30～19:00	星の話	科学館職員による夏の星・星座の話	研修室
19:00～19:45	館内探検	夜の博物館探検	館内
19:45～20:45	天体観察	目視、天体望遠鏡による天体観察	前庭
20:45～21:00	閉講式・解散	アンケート記入、あいさつ	研修室

冬：1月11日(月・祝)参加者33名

	プログラム	活動内容	活動場所
16:00～16:15	開講式	あいさつ、日程説明	研修室
16:15～17:25	館内案内	展示室中心に展示解説	バックヤード・展示室
17:25～18:00	ハンズオン体験	古代の人と時空を超えた間接タッチ	会議室
18:00～18:20	軽食	持参した軽食を摂る。	研修室
18:20～18:40	星の話	天文ボランティアによる冬の星・星座の話	研修室
18:40～19:40	天体観察	目視、天体望遠鏡による天体観察 ※天候不順のため研修室にてDVD視聴に変更	前庭
19:40～20:10	館内探検	夜の博物館探検	館内
20:10～20:30	閉講式・解散	アンケート記入、あいさつ	研修室



ナイトミュージアム in きゅうれき

◎イベント

○小郡高等学校琴部演奏会

期日：平成 27 年 5 月 10 日（日）14：00～15：00

内容：当館の近隣に所在する福岡県立小郡高等学校の琴部は、外部講師を招いて練習を行う本格的な活動をされている。これまでも 22 年度の当館の移転開館記念セレモニーやその後のイベントでも演奏いただき、来館者の好評を得ている。



小郡高等学校琴部演奏会

今回は高等学校から当館を会場に発表会を開催したいとの話があり、当館としても博物館の活用を進める中で地域と連携したイベントを開催することに意義があるとの考えもあり、開催に至った。当日は中庭を会場に赤い毛氈を敷き、21 名の生徒と教員による優美な琴の演奏が行われ、参加者は 150 名であった。

○きゅうれき七夕イベント

期日：平成 27 年 7 月 5 日（日）10：00～16：00

内容：当館の所在する小郡市が「七夕の里」をアピールしていることに関連し、毎年 7 月 7 日の七夕直近の週末に開催しているイベントである。

27 年度は佐賀県の碗琴奏者筒井孝司氏による有田焼で奏でる「磁器の音コンサート」、小郡音楽祭ミュージカルカンパニーによる飛び出して音楽祭「七夕コンサート」を開催した。例年行っている七夕にちなんだ機織り体験、古代体験を終日行ったほか、パフォーマンスの合間には、館内の展示資料や解説を利用したクイズラリーを実施し、さまざまな年齢層に楽しんでいただいた。当日の来館者数は 504 名であった。

タイムテーブルは次のとおりである。

	プログラム	会場
10：00～16：00	七夕短冊づくり・機織り体験・古代衣装試着（終日） 古代体験（終日）	エントランス 研修室
13：00～13：10	オープニング	第 4 展示室
13：10～14：10	有田焼で奏でる「磁器の音コンサート」	第 4 展示室
14：30～15：30	飛び出して音楽祭「七夕コンサート」	第 4 展示室
15：40～15：45	クロージング	第 4 展示室



七夕イベント「磁器の音コンサート」



七夕イベント「七夕コンサート」

○九州歴史資料館移転開館5周年記念イベント

「^こ鼓・^ぶ舞・^{がく}楽～古（いにしえ）の時代（とき）に思いを馳せて～」

期日：平成27年11月7日（土）10：00～15：30

内容：当館が太宰府市から小郡市に移転開館して27年11月で5か年となることを記念して開催したイベントである。毎年特別展開催期間中に「特別展開催記念イベント」としてコンサート等を開催しているが、27年度は特別展と同じく移転開館5周年記念とし、内容を拡大して開催した。

イベントは午前と午後の2部制で行った。午前は特別展の「四王寺」に絡めて、四王寺山麓の筑紫野市指定無形文化財「山家神楽」と、小郡市内で活躍されている「おごおり七夕太鼓」の2団体の実演を実施した。午後は26年度からアクロス福岡との共催で開催している「アクロス福岡ミュージアムコンサート」で、四王寺山にある「岩屋城跡」をテーマにした曲も創作されている筑前琵琶奏者寺田蝶美氏を中心に、森下香蘭氏（ヴィオラ）、丹羽 肇氏（ベース）、月岡翔生子氏（ピアノ）による優美な演奏を奏でいただいた。また、本来の目的である特別展観覧については、午前の実演後とコンサート休憩時間に、展示担当による第1展示室の展示解説「ミュージアムトーク」を行った。2回の内容をどちらも楽しんでいただくよう、解説する展示物を変えて解説する構成とした。毎年楽しみにしておられる方も多く、イベントには延べ416名の参加があった。

プログラムは以下のとおりである。



記念イベント
「アクロス福岡ミュージアムコンサート」



記念イベント「山家岩戸神楽」



記念イベント「小郡七夕太鼓白鷺会」

プログラム	
10：00～10：10	開会行事
10：10～10：30	“鼓” おごおり七夕太鼓白鷺会
10：45～11：10	“舞” 山家岩戸神楽（山家岩戸神楽保存会）
11：20～11：40	特別展ギャラリートーク ①（第1展示室）
13：30～14：00	“楽” アクロス福岡ミュージアムコンサート Part 1 寺田 蝶美（筑前琵琶）／森下香蘭（ヴィオラ）／丹羽 肇（ベース） ／月岡翔生子（ピアノ）

14:15～14:35	特別展ギャラリートーク ② (第1展示室)
15:00～15:30	“楽” アクロス福岡ミュージアムコンサート Part 2
15:30～15:35	閉会行事
10:00～16:00	古代体験

○特別展開催記念茶会

期日：平成27年10月25日(日) 10:00～15:00

内容：25年度から小郡市文化協会裏千家と共催で開催している「記念茶会」を27年度も開催した。

当館の特別展開催記念として文化協会恒例の茶会を行っているものである。茶会の主催は小郡市文化協会裏千家であり、当館は特別展をより深く鑑賞していただくため、茶会参加者も含めた来館者に対するギャラリートークを午前・午後の2回併せて行った。

当日は茶会関係者の方のみならず、親子連れなど一般の方々も抹茶を楽しまれた。当日は373名の参加があった。



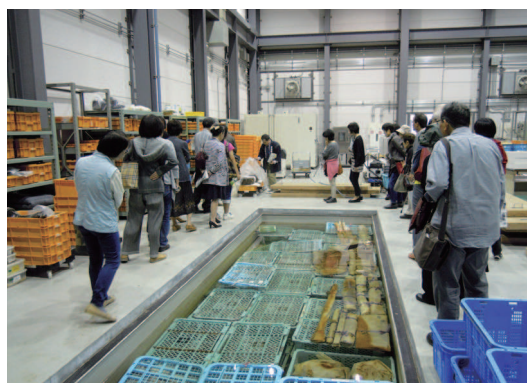
特別展記念茶会「博物館でお手前を」

○「バックヤードツアー in 九州歴史資料館 特別編」(久留米まち旅博覧会参加事業)

期日：平成27年10月25日(日) 15:00～17:30

主催：九州歴史資料館・久留米まち旅博覧会事務局

内容：27年度も「久留米まち旅博覧会 秋のまち旅」に参加し、「バックヤードツアー in 九州歴史資料館 特別編」を開催した。普段は見ることのできない文化財収蔵庫や整理作業室などを見学する「バックヤードツアー」と、閉館後の特別展の詳しい解説をメインとしたイベントである。26年度は万葉食を提供するイベントとしたが、27年度は25年度と同じく「特別展開催記念茶会」と同日に開催し、裏千家の茶会を楽しんでいただき、23名の参加があった。



秋のまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

なお、同共催事業の「いつでもまち旅」にも参加し、5～9月、12～3月の第2日曜日にバックヤードツアーを実施している。27年度の参加者総数は20名であった。

参加費：700円(観覧料+抹茶・お茶代+事務局手数料)

スケジュール：14:30 受付開始→15:00 裏千家茶会参加→15:20 博物館バックヤードツアー→

16:30 特別展展示室解説(閉館後参加者のみ)

○“古代米の本格栽培にむけて…”プロジェクト

期間：平成27年5月～10月

内容：当館は、古代米などの栽培農園を持たないため、現在のところ本格的な植物栽培などの実験考古学的イベントを行うことができないが、将来的なイベント実施に備え、24年度からコンテナによる古代米栽培を実施している。27年度は、コンテナ7箱分の赤米・黒米(原種は長崎県対馬のもの)

栽培を当館の中庭にて、学芸研究班員と保存管理班員の担当のもとで行った。例年どおり、発芽・田植えの後、順調に生育し、収穫まで至ることができた。4年目の実施となり、収量の安定など、コンテナによる古代米栽培のノウハウが蓄積されてきている。28年度以降も実施する予定である。

◎その他の機関・団体との共催事業

○文化財めぐり

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課・九州歴史資料館）

期日：平成27年11月3日（火・祝）10:00～16:00

内容：27年度は特別展「四王寺山の1350年一大野城から祈りの山へー」関連イベントとして開催した。特別展の内容に沿って実際に足を運び、文化財に触れ、歴史を感じてもらうものである。これまで開催していたが、今回は特別展を観覧した後、バスで現地に赴く内容で開催した。四王寺山周辺の史跡などをめぐり、56名の参加があった。コースは以下のとおりである。



文化財めぐり

九州歴史資料館→観世音寺→朝日地蔵→横岳崇福寺跡→西正寺→原八坊跡（車中解説）→高橋紹運の墓（伝二ノ丸跡）→岩屋城跡（伝本丸跡）→増長天礎石群・鏡ヶ池→水城口城門跡・けいさしの井→毘沙門堂・大城山→八ツ波礎石群→九州歴史資料館

○九歴講座 in 太宰府

「九歴講座 in 太宰府」は、太宰府市文化ふれあい館が市民と地域の研究者との情報交換・研究交流の活発化を促す目的で開講している「太宰府学講座」の一環として企画されたものであり、当館が、太宰府市から小郡市に移転・開館したことを機に、当館が行っている大宰府史跡等の調査研究成果を広く県民に紹介することを目的とした連携講座である。27年度は大野城築造1350年の節目の年であることから大野城跡の調査・研究の歩みや成果を振り返る内容が中心となった。



九歴講座 in 太宰府

回	開催日	演題	講師	受講人数
第1回	6月20日（土）	「大野城の修繕－白村江後の東アジア情勢の変化と大野城跡－」	小澤 佳憲	45名
第2回	7月18日（土）	「大野城跡と大宰府」	伊崎 俊秋	51名
第3回	8月15日（土）	「大宰府と貝原益軒」	酒井 芳司	38名
受講者数総計				134名

○第5回九州山岳霊場遺跡研究会「霧島連山の山岳霊場遺跡」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催：九州歴史資料館

後援：霧島神宮・霧島東神社・日本山岳修験学会・鹿児島県教育委員会・霧島市教育委員会・鹿児島民俗学会・鹿児島民具学会・鹿児島県考古学会・南九州石塔研究会・隼人文化研究会・隼人町史談会・霧島郷土史研究会・霧島歴史研究会・加治木史談会

期日：平成27年8月29・30日（土・日）

参加人数：8月29日（土）46名・8月30日（日）158名

内容：8月29日（土）

現地研修会（霧島神宮・古宮址・霧島東神社）

8月30日（日）

研究集会（於：国分シビックセンター多目的ホール（鹿児島県霧島市）

基調講演 「霧島山の山岳信仰」（森田清美）

研究報告1 「霧島山系と周辺の寺院—大隅国台明寺を中心に—」（栗林文夫）

研究報告2 「鹿児島における宗教関連遺跡」（東和幸・西野元勝）

研究報告3 「日向国からみた霧島山の信仰」（大學康宏）

シンポジウム「霧島連山の山岳霊場遺跡を考える」

○放送大学面接授業「大宰府講座」

主催：放送大学・九州歴史資料館

期日：平成27年5月30日（土）・31日（日）

内容：当館では大宰府の歴史・文化を幅広く人々に知っていただくという趣旨の下に、19年度から放送大学教養学部の面接授業を実施している。27年度は大野城・基肆城築城1350周年にあたることを記念して「1350年前の大宰府」として授業を行った。受講者数は37名であった。詳細は以下のとおりである。



放送大学面接講座「大宰府講座」

【1日目】5月30日（土）

1時限：「文献から考える大宰府前史」

（講師：九州歴史資料館 酒井芳司）

2時限：「大宰府防衛体制について」（講師：九州歴史資料館 小田和利）

3時限：「朝鮮半島の古代山城」（講師：岡山理科大学 亀田修一教授）

4時限：1～3時限で行われた講義の内容をもとに筆記試験

各講義では、古代東アジア情勢と密接な関わりをもって成立した古代大宰府に係る外交・国防問題について、文献及び考古学、朝鮮半島の古代山城の視点から説明した。

【2日目】5月31日（日）

1～4時限：巡見（九州歴史資料館・水城跡・大野城跡の見学）

○水城・大野城・基肆城1350年記念式典・シンポジウム

期日：平成27年12月5日（土）10:00～17:00

主催：水城・大野城・基肄城 1350 年事業実行委員会

内容：特別史跡「水城・大野城・基肄城」が平成 26・27 年に築城 1350 年を迎えることを記念した、福岡県・佐賀県の 2 県 4 市 2 町と当館の広域連携事業である。27 年度は「大野城・基肄城」をテーマに大野城まどかぴあでシンポジウムを開催し、延べ 1,400 名の参加があった。

○九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：NPO 法人三沢遺跡の森を育む会

共催：九州歴史資料館

内容：当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として 25 年度に発足した NPO 「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業として周辺住民への啓発活動を 27 年度も開催した。イベントを通じて三沢遺跡の森ばかりでなく、自然環境保全の意識を育むことを目指した。

開催日、内容、参加人数は以下のとおりである。



三沢遺跡の森 自然体験活動「マイキャンドル」

開催日	内 容	参加人数
8 月 2 日（土）	「マイツリーを作ろう（樹木調査と名札付け）」	25 名
12 月 20 日（日）	燭蠟で作るマイキャンドル	77 名

○夏休み子ども企画「県庁ロビー展示」

会期：平成 27 年 8 月 3 日（月）～8 月 28 日（金）

会場：福岡県庁 1 階ロビー

主催：福岡県

内容：福岡県の広報部局主催の夏休みイベントである。各課や出先機関がブースを設けて来庁する子どもたち対象のパネル展示や体験事業を実施するものである。当館は、企画展「きゅうおにとタイムトラベル」のパネルの掲示を行うとともに、大宰府式鬼瓦のレプリカを設置して自由に触って立体感と質感を感じることができる展示を行った。



夏休み子ども企画「県庁ロビー展示」

(7) 広報活動

○一般向け広報

当館では、広報活動の強化を目的の一つとして、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告の活用や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っている。また広報資料の配付は、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、周辺施設や文化財の紹介マップを作成したり、できる限り多数の他施設の広報資料を文化情報広場に設置して幅広い情報提供を行うなど、当館が情報の発信源となるような工夫を行っている。

27年度は、地元のケーブルテレビと連携し、当館の展示資料や企画展示などを中心に福岡の歴史を紹介する番組「福岡歴史ロマン」が新たに立ち上がった。当館の学芸員が各種文化財や各時代の資料を紹介するとともに、時には県内各地に赴いて現地の文化財を案内するなど、内容は多岐にわたっている。特別展や企画展の広報にもなり、1番組約30分、月1回1番組の収録・放映で、好評を博しているようである。今後もジャンルを広げながら、継続する予定となっている。なお、この番組の放映が発端となり、28年度は関連市町村文化財部局で製作する番組も立ち上がる予定である。

○他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、25年度から文化情報広場に「魏志倭人伝のクニグニネットワーク（福岡県・佐賀県・長崎県と3県内11市町村の連携事業）」の紹介コーナーを設け、パンフレットやチラシを常時更新している。また、県内市町村の博物館・資料館から情報をいただき、統一したフォーマットの施設案内を作成中である。当館内に掲示し、またホームページで配信するなど利用者の利便性を図るとともに、施設間の相互広報の実施や呼びかけによる県内外の「広域広報ネットワークの構築」を狙うものである。また27年度は小郡市観光協会との連携により、当館を会場とした婚活パーティも開催された。イベントというよりは当館を広く知っていただく機会になり、実施する内容にもよるがこのような広報にも目を向けていきたいと考えている。

27年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ホームページの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：
歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店・ホテル・旅行会社等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載
教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおり・クロスロード福岡 ほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：日本歴史・古代文化等専門雑誌、フリーペーパー ほか
- ・情報サイトへの情報提供：インターネットミュージアム・イベントガイド・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・地元ケーブルテレビ番組新番組「福岡歴史ロマン」毎月配信
- ・NHK福岡県広報番組「はっけんTV」（特別展「四王寺山の1350年」）他地域番組

○博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を1校でも多く、1人でも多く体験してもらえるよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。年度初めの小郡市校長会をはじめ学校訪問、研修会、棚入れや郵送など、様々な場、方法で広報を行い、館の活用促進を図った。

26年度の活用実績が、来館学習10校、職場体験9校、出前授業1校であったのに対し、27年度は来館学習16校、スクール・ミュージアム事業7校、職場体験13校、出前授業1校であった。今後も、更に多くの学校による活用をめざしていく。

九州歴史資料館 小学校による活用のご案内

九州歴史資料館は、福岡県立の歴史系博物館です。学校向けに多くの事業を行っております。ぜひご利用ください。

九州歴史資料館には

- 歴史・地域・国土への愛着や誇りの醸成があります！
- 歴史・考古学・美術工芸専門の学芸員がいます！
- もの、ひとに直にふれる体験があります！
- 学校と博物館をつなぐ指導主事がいます！

第3・4学年 社会科「身近な地域」

「きょうおに」をさがせ！
お井筒様としての博物館の働きをさぐる。

第6学年 社会科「歴史の学び」

歴史学の入口
企業展「きょうおに」
（10月上旬～11月中旬開催）
縄文時代と弥生時代をさぐる。
奈良時代の大宰府の様子をさぐる。

旧石器時代～近現代
資料展示「歴史の窓口」
（特別展開催中ものぞく連年開催）
時代の変化・特色を見つけよう。

先生方
校内研修・物科部会等
先生方の研修の場として

全学年
生涯学習・社会科
総合的な学習の時間など

九州歴史資料館 中学校による活用のご案内

九州歴史資料館は、福岡県立の歴史系博物館です。学校向けに多くの事業を行っております。ぜひご利用ください。

社会科 歴史的分野

豊富な実物資料を収蔵しています。九州、福岡の歴史に直結する学習を提供します。

① 定評ある学習・当館で講義、展示見学、体験学習の組み合わせ
② 当館にある文化財を題材とするスタディ大会

※ 資料展「歴史の窓口」
旧石器時代から近現代に至るまでの九州・福岡の歴史を、時代を遡って学べる展示です。（特別展—一般企画展—開催中ものぞく連年開催）

企業展「きょうおに」
「きょうおに」をさがせ！
縄文・弥生・奈良時代に使われた道具類（実物資料）は、それぞれ定評ある使用状況を示している。これら展示を組み合わせた展示です。各時代を比較し、共通点や相違点を探ることで、それぞれの時代の特色をつかむ学習ができます。（3月上旬～8月上旬開催）

学校行事「総合的な学習」の時間

各教科の学びの場（特別展は要確認）

いくつかの具体的な活用プランを用意しております。
① 定評ある学習・当館で講義、展示見学、体験学習の組み合わせ
② 当館にある文化財を題材とするスタディ大会

※ 自然教室などの往館または資料館に当館を組み込んでいただき、講義・展示見学を実施することもできます。
当館には、学校と博物館をつなぐ指導主事が配置されています。学校側が求める学びの場の提供をお手伝いいたします。

研修・会議

40名～100名程度の研修会、会議があります。校内研修、管理職研修などの会場としてもご利用いただけます。
音響設備、スクリーン、プロジェクターなど設備が充実しています。視覚的の感度度もあります。

職場体験

2日もしくは3日間の日程で、さまざまな種類の業務体験が可能です。
文化財整理作業
（縄文・弥生・奈良時代）
資料整理
受付業務
…など
また、博物館が社会に対して果たしている役割を考えたり、努力について考えたりする場面を設けています。

九州歴史資料館には

- 歴史・地域・国土への愛着や誇りの醸成があります！
- 歴史・考古学・美術工芸専門の学芸員がいます！
- 学校と博物館をつなぐ指導主事がいます！
- もの、ひとに直にふれる体験があります！

学校支援に向けた広報資料「小学校・中学校による活用のご案内」

◎記念品販売

当館は記念グッズが皆無だったため、来館者へのサービス向上を図ることを目的に26年度から記念品（缶バッジ）の製作販売を開始した。缶バッジの種類はマグネットタイプの形状で、図柄が当館イメージキャラクター「きょうおに」・「大宰府政庁跡出土鬼瓦」・「大宰府式鬼瓦イラスト」・「ふくおか官兵衛くん」等で、それぞれ説明資料付きとした。27年度からは、新たにポストカードを4種類（「九州歴史資料館全景」・「九州歴史資料館中庭」・「鬼瓦（大宰府政庁跡出土）」・「伝白山神社経塚出土品（福岡県指定有形文化財）」）製作し、販売を開始した。



記念品「ポストカード」

(8) 実習・研修

◎実習

○博物館実習

27年度は5大学から7名の大学生を受け入れ、8月17日(月)～8月28日(金)の10日間、下記の内容で実施した(8月23日(土)・24日(日)は休み)。

日程	午前	午後	担当
第1日	開講式・オリエンテーション 西谷正名誉館長講話	講話「学芸員の実務」・施設見学	広報普及班・学芸研究班
第2日	歴史資料の取扱い		学芸研究班
第3日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第4日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第5日	出土資料の整理・記録		調査研究班
第6日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第7日	考古資料の取り扱い	資料の写真撮影	学芸研究班
第8日	教育普及	図書資料の整理	広報普及班・学芸研究班
第9日	資料の保存修復と保管		保存管理班
第10日	博物館の保存環境	実習のまとめ・閉講式	保存管理班・広報普及班

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。

大学名	学部名	学科名	受講者数
九州産業大学	芸術学部	美術学科	1名
福岡大学	人文学部	歴史学科	1名
久留米大学	文学部	国際文化学科	1名
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	1名
		アジア文化学科	1名
福岡女子短期大学		文化コミュニケーション学科	2名



博物館実習「美術工芸資料の取り扱い」



博物館実習「資料の保存修復と保管」

(9) 刊行物

27年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集 41』	3月
2	『九歴だより No. 41』	4月
3	『九歴だより No. 42』	10月
4	『四王寺山の1350年 - 大野城から祈りの山へ -』	10月
5	『九州歴史資料館解説シート 48 モダン福岡を眺める - 没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図 -』	10月
6	『九州歴史資料館解説シート 49 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線』	8月
7	『九州歴史資料館解説シート 50 小笠原文庫から見た幕末維新』	3月
8	『九州歴史資料館解説シート 51 朝鮮王朝の城郭 - 朝鮮半島の文化遺産 -』	5月
9	『九州歴史資料館解説シート 52 筑前の鑄造遺跡 ~ 大宰府と芦屋 ~』	12月
10	『九州歴史資料館解説シート 53 金属溶解技術 (坩堝炉・甑炉) の復元鑄造実験』	12月
11	『九州歴史資料館解説シート 54 鑄造遺物をX線CTで見てみたら・・・』	12月
12	『九州歴史資料館解説シート 55 古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2015 - 2016』	3月
13	『大宰府政庁周辺官衙跡Ⅷ 一大楠地区 遺物編一』	3月
14	『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅹ 平成26・27年度』	3月
15	『福岡県文化財調査報告書 第251集 和井田遺跡 成恒山ノ内遺跡 ハツ波下ノ原遺跡』	3月
16	『福岡県文化財調査報告書 第252集 塔田琵琶田遺跡第3・5次 塔田五反田遺跡 塔田キカス遺跡第2次 上巻 (本文編)』	3月
17	『福岡県文化財調査報告書 第252集 塔田琵琶田遺跡第3・5次 塔田五反田遺跡 塔田キカス遺跡第2次 下巻 (図版編)』	3月
18	『福岡県文化財調査報告書 第253集 湯柱遺跡』	3月
19	『福岡県文化財調査報告書 第254集 福岡県の中近世城館跡Ⅲ - 豊前地域編一』	3月
20	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -24- 時末遺跡第1・2次 永久笠田遺跡第2次』	3月
21	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -25- 西ノ原遺跡第3・4次 大西遺跡第4次』	3月
22	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -26- 塔田琵琶田遺跡第4次 (本文編)』	3月
23	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -26- 塔田琵琶田遺跡第4次 (図版編)』	3月
24	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -27- 塔田琵琶田遺跡第6次』	3月
25	『東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -28- 四ツ塚山遺跡 鏡迫古墳群 上唐原榎町遺跡第3・4次調査』	3月
26	『古墳時代墓制の終焉過程からみた律令国家形成期の北部九州』	3月

(10) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

○韓国国立文化財研究所への職員派遣

期間：平成27年11月18日（水）～12月1日（火）（14日間）

派遣職員：福岡県教育庁総務部文化財保護課文化財保護係 主任技師 正田実知彦

研修内容：大韓民国で名勝に指定された庭園を中心に調査・視察し、韓国家庭園の変遷及び意匠の特徴、日本庭園への影響について検討した。また、当地で研究発表を行い、相互の庭園文化や歴史について理解を深めた。

主な訪問先：

<1日目>国立文化財研究所

<2日目>益山 王宮里・弥勒寺址・尹先生の旧宅（両班住宅）

<3日目>公山城・国立公州博物館・宋山里古墳群・国立扶余

文化財研究所・扶余 宮南池

<4日目>天然記念物 官防堤林・名勝 瀟灑園・郡指定天然記念物 后山里のイチョウ・名勝 鳴玉軒苑
林・名勝 息影亭・天然記念物 忠孝洞マルバヤナギ・醉歌亭

<5日目>名勝 甫吉島 尹善道園林（曲水堂・楽書齋・洞天石室・洗然亭）

<6日目>佛国寺・国立慶州文化財研究所・東宮 月址（雁鳴池）・瞻星台

<7日目>鮑石亭・大陵苑・国立慶州博物館・名勝 草澗亭 園林・名勝 回龍浦

<8日目>昌徳宮

<9日目>景福宮・漢城百済博物館

<10日目>船橋荘（両班住宅）・烏竹軒・名勝 河趙台・
雪嶽山 寒溪嶺

<11日目>名勝 春川 清平寺 高麗禪園

<13日目>国立文化財研究所・国立天然記念物センター



名勝 甫吉島尹善道園林（洗然亭）

○韓国国立文化財研究所からの研究員派遣

期間：平成28年2月1日（月）～2月13日（土）13日間

派遣職員：大韓民国国立扶余文化財研究所学芸研究室長 李 恩碩

研修内容：古代日韓文化交流関連遺物研究（馬具・古代山城を中心に）

○日韓学術文化交流事業講演会

期日：平成28年2月12日（金）

会場：九州歴史資料館研修室

講演：李 恩碩（大韓民国国立扶余文化財研究所学芸研究室長）

「慶州皇南大塚の遺構と遺物 - 馬装復原を中心にして -」

正田実知彦（福岡県教育庁総務部文化財保護課文化財保護係 主任技師）

「日韓の名勝と庭園」

(11) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

平成 27 年 7 月 30 日（木）に森会長ほか 10 名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 平成 26 年度事業報告及び入館者数状況報告
- 2 平成 27 年度事業計画及び予算概要協議

九州歴史資料館協議会委員名簿

平成 27 年 4 月 1 日現在

	氏 名	所 属
(会 長)	森 醇一朗	久留米大学比較文化研究所客員教授
(副会長)	藤口 悦子	鍋島報効会徴古館副館長
委 員	木村 甚治	太宰府市教育委員会教育長
	高尾 美鈴	那珂川町立安德小学校長
	難波 洋三	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	瓜生 郁義	桂川町教育委員会教育長（前桂川町立図書館長）
	河上 信行	河上建築事務所所長
	今津 節生	九州国立博物館博物館科学課長
	塚本 桂子	小郡市立三国中学校長
	佐古 和枝	関西外国語大学国際言語学部教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学法学部教授
	福田 千鶴	九州大学基幹教育院教授
小林 知美	筑紫女学園大学文学部専任講師	

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年7月1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年9月5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年3月8日	大宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和49年8月	求菩提資料館開館
昭和50年9月4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷一大宰府」開催
昭和56年4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年4月1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月1日	柳川古文書館開館
昭和63年9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷一大宰府」開催
平成2年9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成5年4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成8年4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成9年6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業開催（～12月）

	『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成 21 年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成 22 年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成 22 年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府－その栄華と軌跡－」開催（～1 月）
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道－古代の役所と人々の暮らし－」開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成 23 年 7 月 25 日	登録博物館（第 22 号）
平成 23 年 11 月	特別展「発掘された日本列島 2011」開催（～12 月）
平成 24 年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～2 月）
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道－世界とつながった道－」開催（～12 月）
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～3 月）
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り－九州の覇権のゆくえ－」開催（～11 月）
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士－維新前夜の太宰府－」開催（～2 月）
平成 26 年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成 26 年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～9 月） 企画展「水城築堤 1350 年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催（～9 月）
平成 26 年 10 月	特別展「福岡の神仏の世界－北部九州に華ひらいた信仰と造形－」開催（～11 月）
平成 26 年 11 月	入館者 10 万人達成記念式典
平成 27 年 9 月	企画展「貝原益軒－大宰府研究の先賢たち－」開催（～10 月）
平成 27 年 10 月	大野城築城 1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の 1350 年－大野城から祈りの山へ－」開催（～12 月）
平成 27 年 10 月	移転開館 5 周年記念イベント開催

（2）施設概要

- 1) 本館棟 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上 2 階
展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
- 2) 敷地面積 43,438.62 m²
- 3) 延床面積 9,475.92 m²
- 4) 一般収蔵庫棟 鉄骨造
木器保存処理室・一般収蔵庫
- 5) 建設費 約 36 億円（本館・一般収蔵庫）

(3) 予 算

九州歴史資料館の事業費総額は244,919千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	136,099千円
	資料館運営費	131,090千円
	資料館展示費	2,227千円
	歴史資料等収集整備費	970千円
	歴史資料調査研究費	1,812千円
2	文化財保護費	108,820千円
	大宰府史跡発掘調査費	21,552千円
	発掘調査受託費	87,268千円
	※執行委任事業は除く	

(4) 組織・職員 (平成 27 年 4 月 1 日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要	
館 長		杉 光 誠	非常勤	
副館長		伊崎 俊秋		
参 事		飛野 博文		
総務室	企画主幹	塩塚 孝憲	総務室長	
	総務班	企画主査	中村満喜子	総務班長
		事務主査	宮崎 奈巳	
		事務主査	西村 知子	
		主 事	秦 健 太	
		技 能 員	松 本 優	
学芸調査室	企画主幹	小田 和利	学芸調査室長	
	学芸研究班	技術主査	松川 博一	学芸研究班長
		技術主査	井形 進	
		技術主査	酒井 芳司	
		技術主査	岡寺 良	
		主任技師	遠藤 啓介	
		主任技師	渡部 邦昭	
	広報普及班	参事補佐	齋部 麻矢	広報普及班長
		指導主事兼事務主査	園田 芳雅	
		指導主事兼事務主査	田口 和秀	
	調 査 研究班	技術主査	小澤 佳憲	調査研究班長
		技術主査	大庭 孝夫	
		主任技師	下原 幸裕	
	文化財調査室	企画主幹	吉村 靖徳	文化財調査室長
		文化財調査班	技術主査	秦 憲二
参事補佐			小川 泰樹	
技術主査			坂本 真一	
保 存 管理班		技術主査	加藤 和歳	保存管理班長
		主任技師	小林 啓	
	主任技師	岡田 論		

②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長	杉光 誠		
委 員	副館長	伊崎 俊秋	委 員	調査研究班長 小澤 佳憲
委 員	学芸調査室長	小田 和利	委 員	学芸研究班長 松川 博一

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

(昭和 60 年 1 月 21 日福岡県条例第 4 号)

(設置)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和 31 年法律第 162 号)第 30 条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第 2 条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第 3 条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和 39 年福岡県条例第 5 号)第 3 条から第 6 条まで及び第 9 条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第 4 条第 1 項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第 4 条 博物館法(昭和 2 6 年法律第 2 8 5 号)第 2 0 条第 1 項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第 6 項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、1 5 人以内とする。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な

事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第 5 条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第 1 各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第 6 条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第 2 の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第 7 条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第 8 条 前 3 条の規定は、第 2 条第 2 項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第 9 条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前 2 号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第 1 0 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報に適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月28日条例第33号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年条例第7号)抄

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分		金額(1回につき)
個人で観覧する場合	一 般	200円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一 般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課

程、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、中等教育学校の前期課程又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分		金額(1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,450円
	第4展示室	8,350円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,170円
	第4展示室	12,520円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額(1時間につき)
会議室	380円
研修室1	380円
研修室2	380円
研修室3	380円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2(第6条関係)

区分	金額(1枚につき)
電子式複写(白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48・2・20教育委員会規則第4号)

最終改正平成22・6・教育委員会規則第10号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等（分館にあつては指定管理者。以下「館長等」という。）が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

（開館時間）

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

（利用の申込）

第4条 資料館（分館を除く。）の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

（利用申込の取消又は変更）

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

（利用の承認）

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

（資料の複写）

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法（昭和45年法律第48号）に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めるとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

（利用制限）

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認めら

れる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者

二 その他係員の指示に従わない者

（資料の館外貸出し）

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

（損害の賠償）

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

（寄贈又は寄託）

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出のものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

（寄贈資料の取扱い）

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

（寄託資料の取扱い）

第13条 寄託を受けた資料（以下「寄託資料」という。）の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によ

りこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47.4.1教育委員会規則第2号)

最終改正：平成23.3.教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副理事	上司の特命に係る事務を処理する。
副館長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。

技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技能員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。

二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。

三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。

四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。

五 考古資料の展示に関すること。

六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。

七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。

八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。

九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。

十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。

十一 九州歴史資料館協議会に関すること。

十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。

十三 施設設備の管理に関すること。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和 60. 3. 30 教育委員会規則第 4 号)

最終改正 平成 24. 3. 教育委員会規則第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和 60 年福岡県条例第 4 号)第 4 条第 1 項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第 2 条 協議会に、会長及び副会長各 1 名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は 1 年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第 3 条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第 4 条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第 5 条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第 6 条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改

正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成 20 年教育委員会規則第 5 号抄)

(施行期日)

この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成 22. 6. 30 福岡県規則第 30 号)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和 60 年福岡県条例第 4 号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第 2 条 使用料(条例第 5 条第 1 項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第 3 条 条例第 5 条第 2 項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第 4 条 手数料(条例第 6 条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第 5 条 条例第 7 条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条

例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合

当該観覧に係る観覧料の全額

三 児童福祉施設(児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。)に入所又は通所している少年(同法第4条第3号に規定する少年をいう。

以下同じ。)が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児(同法第4条第2号に規定する幼児をいう。)又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

六 身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

七 療育手帳制度要綱(昭和48年9月27日厚生省発児第156号)に規定する療育手帳(以下単に「療育手帳」という。)の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(昭和25年法律第123号)第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成8年福岡県規則第55号)第9条第5号に規定する身体障害者、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令(昭和25年政令第155号)第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者(以下「障害者」と総称する。)の介護人が当該障害者とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室(以下「展示室等」という。)の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額

十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額

十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額

十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

(減免の申請)

第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書(様式第1号)を知事に提出しなければならない。

2 前条第五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者(前条第九号に該当する場合にあっては、障害者)は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。

3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書(様式第2号)を知事に提出しなければならない。

4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書(様式第3号)を知事に提出しなければならない。

5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。

附 則

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 平成 27 年度入館者状況

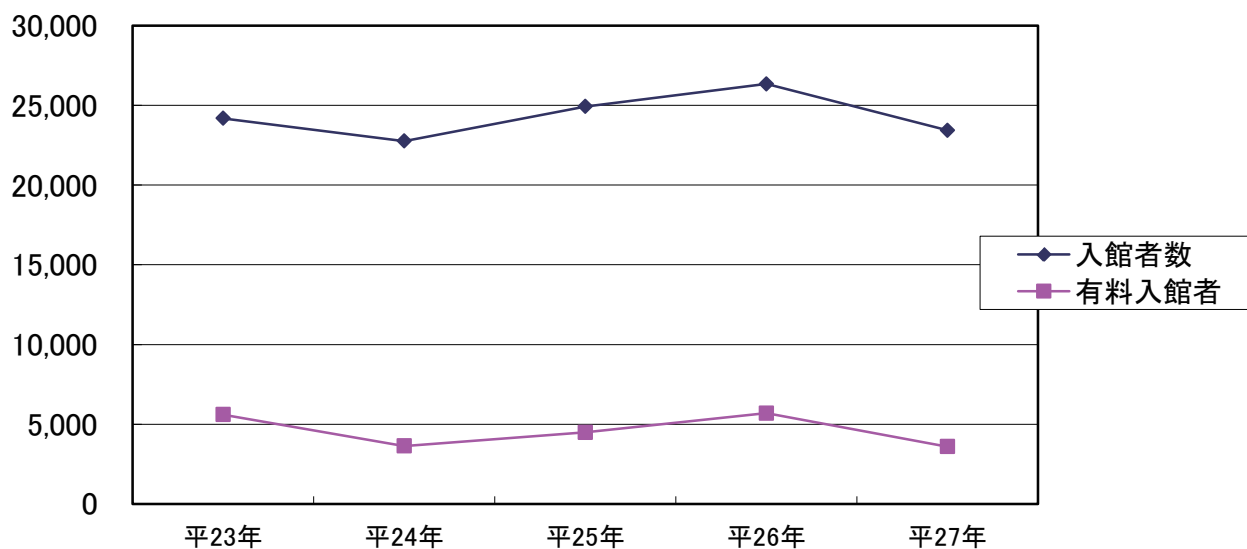
期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで	307 日	23,435 人	76 人

イ 過去 5 年間の入館者状況

年度区分	開館日数	合計入館者数	合計有料入館者数	合計入館者内訳			1日平均入館者数
				大人	高大生	中学生以下	
平成 23 年度	308	24,186	5,600	20,341	751	3,094	79
平成 24 年度	306	22,767	3,596	19,237	460	3,070	74
平成 25 年度	305	24,926	4,485	21,168	507	3,251	82
平成 26 年度	309	26,343	5,686	22,450	741	3,152	85
平成 27 年度	307	23,435	3,589	18,750	744	3,941	76

ウ 過去 5 年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

<寄贈等資料>

考古資料 287,122 点
歴史資料 111,582 点

<図 書>

購 入 4,452 冊
寄 贈 160,204 冊

4 日 誌 抄

月 日	内 容
平成 27 年 3 月 10 日 (火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」(～8月16日(日))
5 月 2 日 (土)	ボランティアイベント「『おりがみ』と『ぎっちょう』であそぼう！」
10 日 (日)	小郡高等学校琴部 九州歴史資料館演奏会
19 日 (火)	特集展示「モダン福岡を眺めるー没後60年 吉田初三郎の鳥瞰図ー」(～7月12日(日))
6 月 10 日 (水)	文化財安全パトロール
28 日 (日)	学校と博物館でつくる来館学習ワークショップ in 九歴
7 月 5 日 (日)	きゅうれき七夕イベント
15 日 (水)	埋蔵文化財安全衛生講習会
16 日 (木)	企画展「小笠原文庫から見た幕末維新ー武家礼法から近代教育までー」(～8月30日(日))
26 日 (日)・28 日 (火)	きゅうれき絵画教室 (企画展「いろいろな目で見てみたら」関係)
30 日 (木)	九州歴史資料館協議会
8 月 1 日 (土)	こども考古学体験教室
4 日 (火)	ボランティアイベントこども組紐教室「組紐ストラップを作ろう」
17 日 (月)	博物館実習 (九州産業大・福岡大・久留米大・筑紫女学園大・福岡女子短期大) (～28日(金))
18 日 (火)	企画展「発掘速報展 2015」(～10月25日(日))
21 日 (金)	なるほど！こども歴史教室「むかしの文字にふれてみよう」
23 日 (日)	ナイトミュージアム in きゅうれき 夏
9 月 3 日 (木)	企画展「大宰府史跡みどころ展 Part. 1『貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー』」(～10月12日(月))
	パネル展「1974～75年の太宰府(春夏秋冬)～故石丸洋氏寄贈写真から～」(～10月12日(月))
10 月 6 日 (火)	パネル展「朝鮮王朝の城郭」(～12月27日(日))
24 日 (土)	特別展「四王寺山の1350年ー大野城から祈りの山へー」(～12月6日(日))
25 日 (日)	特別展記念茶会 (小郡市文化協会裏千家共催)
29 日 (木)	大宰府史跡調査研究指導委員会 (～30日(金))
11 月 1 日 (日)	蔵司跡現地説明会
3 日 (火)	企画展「いろいろな目で見てみたら・・・ーみんなが描いた九歴の収蔵品ー」(～11月29日(日))
7 日 (土)	移転開館5周年・特別展開催記念イベント (おごおり七夕太鼓白鷺会・山家岩戸神楽・アクロス福岡ミュージアムコンサート)
21 日 (土)	教員のための博物館の日 in 九歴 (博物館体験デー)
12 月 1 日 (火)	企画展「古代の鑄造技術ー筑前の鑄造遺跡と復元実験ー」(～1月24日(日))
	パネル展「ふくおか古墳日和」(～1月24日(日))
20 日 (日)	「蠟燭で作るマイキャンドル」(三沢遺跡の森を育む会共催事業)
平成 28 年 1 月 5 日 (火)	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり3ー三池の炭鉱鉄道編ー」(～3月6日(日))
11 日 (月)	ナイトミュージアム in きゅうれき 冬
27 日 (水)	企画展「沖縄の旧石器人と人類の起源」オープニングセレモニー
	企画展「沖縄の旧石器人と人類の起源」(沖縄県立博物館・美術館共催) (～2月28日(日))
	企画展「西北九州の黒曜石と石刃技法」(～2月28日(日))
30 日 (土)	特別展「国境の山岳信仰ー脊振山系の聖地・霊場を巡るー」(伊都国歴史博物館共催) (～3月13日(日))
2 月 14 日 (日)	イベント「石器づくり・貝器づくりー石と貝のやじりを作ろうー」(企画展関連)
28 日 (日)	ボランティアイベント「作ってかざろう！MYおひな様・組紐ストラップ」
3 月 1 日 (火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベル」(～7月18日(月))
3 月 15 日 (火)	九歴ボランティアグループ活動成果展 (～5月15日(日))
6 日 (日)	ボランティアイベント「ぎっちょうで遊ぼう！」
8 日 (火)	筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見ー見てみんね！まちのたからー」(～3月21日(月))
29 日 (火)	パネル展「船原古墳科学的調査最前線 2015～2016」(～6月19日(日))

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2117104
登録年度 2 8	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（平成 27 年度）

発 行 日 平成 28 年 8 月 1 日
編 集 ・ 発 行 九州歴史資料館
〒 818 - 0106
福岡県小郡市三沢 5208 - 3
T E L 0942-75-9575
F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN
OF
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM
2015

CONTENTS

Preface	
1 2015 Report of Kyushu Historical Museum	1
(1) Survey and Research	1
(2) Exhibition	20
(3) Item Available	32
(4) Study Support/Museum,school Cooperation	39
(5) Volunteer	45
(6) Dissemination/ Utilization	49
(7) Public Relations Activities	61
(8) Practice and Training Opportunities	63
(9) Published matter	64
(10) Interchange	65
(11) Conference and Meeting Facilities	66
2 Organization of Kyushu Historical Museum	67
(1) History	67
(2) Building and Grounds	68
(3) Budget	69
(4) Organization Chart and Staff	70
(5) Rules and Regulations	71
3 Statistics of Kyushu Historical Museum	77
(1) Museum Visitors	77
(2) Total Materials and Books	77
4 Outline of 2015 Activities	78